

市内遺跡試掘調査報告書

国営緊急農地再編整備事業に伴う試掘調査報告書Ⅰ

道満寺伽藍跡
北竹ノ下Ⅰ遺跡
北竹ノ下Ⅱ遺跡
宮之内遺跡
福成寺横道下遺跡
紫宸殿遺跡
櫛引遺跡
桜井遺跡
富岡遺跡
幸の木遺跡

2020年3月

愛媛県西条市教育委員会



道前平野と高縄山地（東から）平成26年9月撮影

西条市石田付近上空から



道前平野と石鎚山脈（北から）令和元年9月撮影

西条市明屋川付近上空から

序 文

本書は、平成 26 年度から西条市教育委員会が実施した国営緊急農地再編整備事業に伴う西条市内遺跡の試掘調査についてまとめた報告書です。試掘調査は、令和となった現在も引き続き実施しており、本書では平成 30 年度までの調査成果をまとめております。

試掘調査はいずれも限られた範囲ですが、調査を実施した各団地で遺跡の広がりを確認でき、多くの貴重な資料を得ることができました。

今後、本書が西条市の歴史や考古学の研究資料として多くの皆様に活用いただければ幸いに存じます。

結びに、調査に際しご指導とご協力をいただきました関係機関及び地権者の方々、そして酷暑・厳寒のなか調査に従事していただきました地元作業員の皆様に心から御礼を申し上げます。

令和 2 年 3 月

西条市教育委員会
教育長 伊藤 隆志

例 言

- 1 本書は、平成 26 年度から平成 30 年度に国営緊急農地再編整備事業に伴い実施した愛媛県西条市内に所在する遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 試掘調査および報告書作成は、国庫補助事業として西条市教育委員会が実施した。
- 3 本書に使用した方位は座標北を示す。
- 4 本書における土層の色調及び遺物の色調については、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）を使用した。
- 5 本書の執筆は、渡邊芳貴、岡島俊也、鈴木圭が行い、文末に文責を記した。
また、編集は鈴木が行った。
- 6 出土遺物及び関係資料は、西条市教育委員会で保管している。
- 7 遺物写真撮影については、株式会社イビソク愛媛営業所に一部を委託した。
- 8 金属製品のX線写真撮影については、愛媛県歴史文化博物館並びに愛媛大学アジア産業考古学研究センターの協力を得た。
- 9 遺物実測図は、土器の種類ごとに断面の明度を分けている。
縄文土器・弥生土器・土師器は塗り 0%（白抜き）、須恵器は 100%（■）、黒色土器・瓦器・瓦質土器は 20%（■）、陶器は 60%（■）、磁器は 80%（■）、その他は 40%（■）で図示している。
- 10 試掘調査並びに報告書作成に当たっては、下記の関係機関から御教示、御協力を得た。
記して感謝の意を表する。
(五十音順、敬称略)
愛媛県教育委員会、愛媛県歴史文化博物館、公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター、
国立大学法人愛媛大学



本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の体制	6
第2章 調査地の位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	13
第1節 調査の方法	13
第2節 田野上方向東団地	14
第3節 安用団地	16
第4節 宮之内団地	31
第5節 明理川団地	51
第6節 周布団地	63
第4章 総括	87

挿 図 目 次

図 1-1	試掘調査地位置図	1	図 3-34	宮之内団地 出土遺物 1	47
図 2-1	表層地質図	8	図 3-35	宮之内団地 出土遺物 2	48
図 2-2	主要道路分布図	9	図 3-36	宮之内団地 出土遺物 3	49
図 3-1	田野上方面団地トレンチ位置図	14	図 3-37	紫宸殿道路周辺トレンチ位置図	51
図 3-2	田野上方面団地 土層断面図	15	図 3-38	明理川団地 土層断面図 1	52
図 3-3	安用団地トレンチ位置図	17	図 3-39	明理川団地 土層断面図 2	53
図 3-4	安用団地 土層断面図 1	18	図 3-40	橋引道跡周辺トレンチ位置図	54
図 3-5	安用団地 土層断面図 2	19	図 3-41	明理川団地 土層断面図 3	55
図 3-6	安用団地 土層断面図 3	21	図 3-42	明理川団地 土層断面図 4	56
図 3-7	安用団地 土層断面図 4	22	図 3-43	明理川団地 土層断面図 5	57
図 3-8	安用団地 土層断面図 5	24	図 3-44	桜井道跡周辺トレンチ位置図	57
図 3-9	安用団地 土層断面図 6	25	図 3-45	明理川団地 土層断面図 6	58
図 3-10	安用団地 土層断面図 7	26	図 3-46	明理川団地 土層断面図 7	59
図 3-11	安用団地 土層断面図 8	27	図 3-47	明理川団地 土層断面図 8	60
図 3-12	安用団地 出土遺物 1	28	図 3-48	紫宸殿道跡 出土遺物	60
図 3-13	安用団地 出土遺物 2	29	図 3-49	橋引道跡 出土遺物	61
図 3-14	安用団地 出土遺物 3	29	図 3-50	桜井道跡 出土遺物	61
図 3-15	安用団地 出土遺物 4	30	図 3-51	周布団地トレンチ位置図	64
図 3-16	宮之内団地トレンチ位置図	31	図 3-52	富岡道跡周辺トレンチ位置図	65
図 3-17	福成寺横道下Ⅱ道跡周辺トレンチ位置図	32	図 3-53	周布団地 土層断面図 1	65
図 3-18	宮之内団地 土層断面図 1	33	図 3-54	周布団地 土層断面図 2	66
図 3-19	宮之内団地 土層断面図 2	34	図 3-55	周布団地 土層断面図 3	67
図 3-20	宮之内団地 土層断面図 3	35	図 3-56	幸の木道跡周辺トレンチ位置図	68
図 3-21	河北中学校道跡周辺トレンチ位置図	36	図 3-57	周布団地 土層断面図 4	69
図 3-22	宮之内団地 土層断面図 4	36	図 3-58	周布団地 土層断面図 5	70
図 3-23	宮之内団地 土層断面図 5	37	図 3-59	周布団地 土層断面図 6	71
図 3-24	宮之内Ⅰ・Ⅱ道跡周辺トレンチ位置図	38	図 3-60	周布団地 土層断面図 7	72
図 3-25	宮之内団地 土層断面図 6	39	図 3-61	周布団地 土層断面図 8	73
図 3-26	宮之内団地 土層断面図 7	40	図 3-62	周布団地 土層断面図 9	74
図 3-27	宮之内団地 土層断面図 8	41	図 3-63	周布団地 土層断面図 10	75
図 3-28	日切大師西道跡周辺トレンチ位置図	42	図 3-64	周布団地 土層断面図 11	76
図 3-29	宮之内団地 土層断面図 9	43	図 3-65	周布団地 土層断面図 12	77
図 3-30	宮之内団地 土層断面図 10	44	図 3-66	周布団地 土層断面図 13	78
図 3-31	宮之内団地 土層断面図 11	45	図 3-67	富岡道跡 出土遺物	79
図 3-32	宮之内団地 72tr 平面図	45	図 3-68	幸の木道跡 出土遺物	79
図 3-33	宮之内団地 11tr 平面図	46			

挿 表 目 次

表 1-1	年度別試掘調査箇所数と面積	2	表 2-1	近年の中山川左岸における西条市の発掘調査一覧	11
表 1-2	西条市教育委員会体制一覧	6	表 3-1	遺物観察表	81

写真目次

巻頭カラー

- 道前平野と高嶺山地（東から）
- 道前平野と石鎚山脈（北から）

本文中写真

- 写真1-1 安用団地調査風景・・・・・・・・・・・・・3
- 写真1-2 宮之内団地調査風景・・・・・・・・・・・・・3
- 写真1-3 周布団地調査風景・・・・・・・・・・・・・4
- 写真1-4 明理川団地調査風景・・・・・・・・・・・・・5
- 写真1-5 整理作業風景・・・・・・・・・・・・・5
- 写真3-1 トレンチ設置状況・・・・・・・・・・・・・13
- 写真3-2 重機による掘削状況・・・・・・・・・・・・・13
- 写真3-3 人力による精査状況・・・・・・・・・・・・・13
- 写真3-4 埋め戻し（ランマによる転圧）状況・・・・・・・・13
- 写真3-5 H26-83tr 出土北宋銭・・・・・・・・・・・・・23
- 写真3-6 72tr 2段に積まれた石・・・・・・・・・・・・・45
- 写真3-7 121tr 噴砂検出状況・・・・・・・・・・・・・65
- 写真3-8 49tr 噴砂検出状況・・・・・・・・・・・・・78

写真図版1 道満寺伽藍跡

- 1 1tr 西壁
- 2 2tr 北壁
- 3 3tr 南壁
- 4 4tr 南壁
- 5 5tr 南壁
- 6 6tr 北壁
- 7 7tr 北壁
- 8 8tr 北壁

写真図版2 道満寺伽藍跡

- 1 9tr 北壁
- 2 10tr 西壁
- 3 11tr 西壁

写真図版3 北竹ノ下Ⅰ遺跡

- 1 26-1tr 東壁
- 2 26-2tr 東壁
- 3 26-6tr 北壁
- 4 26-7tr 北壁
- 5 26-8tr 北壁
- 6 26-12tr 北壁
- 7 26-13tr 南壁
- 8 26-17tr 北壁

写真図版4 北竹ノ下Ⅰ遺跡

- 1 26-18tr 南壁
- 2 27-1tr 東壁
- 3 26-20tr 南壁
- 4 26-21tr 西壁
- 5 26-22tr 東壁
- 6 26-25tr 北壁
- 7 26-27tr 北壁
- 8 26-31tr 北壁

写真図版5 北竹ノ下Ⅰ遺跡

- 1 26-26tr 西壁
- 2 26-28tr 南壁
- 3 26-29tr 南壁
- 4 26-73tr 西壁
- 5 26-74tr 南壁
- 6 27-2tr 南壁
- 7 27-3tr 南壁
- 8 27-4tr 南壁

写真図版6 北竹ノ下Ⅰ遺跡

- 1 27-8tr 北壁
- 2 27-10tr 北壁
- 3 26-40tr 南壁
- 4 26-41tr 南壁
- 5 26-42tr 東壁
- 6 26-43tr 北壁
- 7 27-11tr 北壁
- 8 26-54tr 北壁

写真図版7 北竹ノ下Ⅰ遺跡（1～4）

北竹ノ下Ⅱ遺跡（5～8）

- 1 26-55tr 南壁
- 2 26-59tr 北壁
- 3 26-61tr 東壁
- 4 26-62tr 南壁
- 5 26-76tr 南壁
- 6 26-78tr 南壁
- 7 26-79tr 東壁
- 8 26-83tr 北壁

写真図版8 北竹ノ下Ⅱ遺跡

- 1 26-84tr 西壁
- 2 26-85tr 西壁
- 3 26-86tr 西壁
- 4 26-87tr 西壁
- 5 26-88tr 西壁
- 6 26-91tr 北壁
- 7 26-93tr 東壁
- 8 26-95tr 西壁

写真図版9 北竹ノ下Ⅱ遺跡（1～3）

北竹ノ下Ⅰ遺跡（4～8）

- 1 26-96tr 西壁
- 2 26-97tr 南壁
- 3 26-99tr 西壁
- 4 26-4tr 東壁
- 5 26-5tr 北壁
- 6 26-9tr 西壁
- 7 26-10tr 北壁
- 8 26-11tr 南壁

写真図版 10 北竹ノ下Ⅰ遺跡

- 1 26-14tr 西壁
- 2 26-15tr 西壁
- 3 26-16tr 西壁
- 4 26-19tr 南壁
- 5 26-23tr 北壁
- 6 26-30tr 北壁
- 7 26-32tr 西壁
- 8 26-33tr 北壁

写真図版 11 北竹ノ下Ⅰ遺跡

- 1 26-34tr 北壁
- 2 26-35tr 東壁
- 3 26-36tr 西壁
- 4 26-46tr 南壁
- 5 26-37tr 東壁
- 6 26-44tr 南壁
- 7 26-45tr 南壁
- 8 26-48tr 南壁

写真図版 12 北竹ノ下Ⅰ遺跡

- 1 26-50tr 西壁
- 2 26-52tr 東壁
- 3 26-53tr 南壁
- 4 26-57tr 南壁
- 5 26-58tr 北壁
- 6 26-60tr 北壁
- 7 26-63tr 西壁
- 8 26-64tr 東壁

写真図版 13 北竹ノ下Ⅰ遺跡 (1~6)
北竹ノ下Ⅱ遺跡 (7~8)

- 1 26-66tr 北壁
- 2 26-67tr 北壁
- 3 26-68tr 南壁
- 4 26-69tr 西壁
- 5 26-70tr 北壁
- 6 26-71tr 北壁
- 7 26-89tr 東壁
- 8 26-92tr 西壁

写真図版 14 北竹ノ下Ⅱ遺跡 (1~3)
北竹ノ下Ⅰ遺跡 (4~6)

- 1 26-94tr 西壁
- 2 26-100tr 西壁
- 3 27-5tr 東壁
- 4 27-6tr 東壁
- 5 27-9tr 東壁
- 6 27-12tr 北壁

写真図版 15 北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡
北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡出土遺物 1

写真図版 16 北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡
北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡出土遺物 2

写真図版 17 北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡
北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡出土遺物 3

写真図版 18 福成寺横道下遺跡 (1・2)
宮之内遺跡 (3~8)

- 1 19tr 北壁
- 2 20tr 北壁
- 3 21tr 北壁
- 4 22tr 東壁
- 5 23tr 北壁
- 6 24tr 北壁
- 7 25tr 北壁
- 8 26tr 北壁

写真図版 19 宮之内遺跡

- 1 27tr 北壁
- 2 28tr 北壁
- 3 29tr 北壁
- 4 30tr 北壁
- 5 31tr 北壁
- 6 32tr 北壁
- 7 33tr 北壁
- 8 34tr 北壁

写真図版 20 宮之内遺跡

- 1 42tr 北壁
- 2 43tr 北壁
- 3 44tr 北壁
- 4 45tr 北壁
- 5 46tr 北壁
- 6 47tr 北壁
- 7 48tr 北壁
- 8 49tr 北壁

写真図版 21 宮之内遺跡

- 1 50tr 北壁
- 2 51tr 北壁
- 3 52tr 北壁
- 4 53tr 北壁
- 5 54tr 北壁
- 6 55tr 北壁
- 7 93tr 北壁
- 8 95tr 北壁

写真図版 22 宮之内遺跡

- 1 35tr 北壁
- 2 36tr 北壁
- 3 37tr 北壁
- 4 38tr 北壁
- 5 39tr 北壁
- 6 40tr 北壁
- 7 41tr 北壁
- 8 96tr 北壁

写真図版 23 宮之内遺跡

- 1 97tr 南壁
- 2 98tr 北壁
- 3 1tr 北壁
- 4 2tr 北壁
- 5 3tr 北壁
- 6 4tr 北壁
- 7 5tr 北壁
- 8 6tr 北壁

写真図版 24 宮之内遺跡

- 1 7tr 北壁
- 2 8tr 北壁
- 3 8tr 6層遺構検出状況（南から）
- 4 9tr 北壁
- 5 10tr 北壁
- 6 11tr 西壁
- 7 11tr 5層遺構検出状況（北から）
- 8 12tr 南壁

写真図版 25 宮之内遺跡

- 1 13tr 南壁
- 2 14tr 北壁
- 3 15tr 北壁
- 4 16tr 南壁
- 5 17tr 北壁
- 6 18tr 北壁
- 7 56tr 北壁
- 8 57tr 北壁

写真図版 26 宮之内遺跡

- 1 58tr 北壁
- 2 59tr 北壁
- 3 60tr 北壁
- 4 61tr 北壁
- 5 62tr 北壁
- 6 86tr 南壁
- 7 90tr 南壁
- 8 99tr 南壁

写真図版 27 宮之内遺跡

- 1 100tr 南壁
- 2 101tr 南壁
- 3 102tr 南壁
- 4 103tr 東壁
- 5 104tr 南壁
- 6 63tr 西壁
- 7 64tr 東壁
- 8 65tr 西壁

写真図版 28 宮之内遺跡

- 1 66tr 東壁
- 2 67tr 東壁
- 3 68tr 北壁
- 4 69tr 東壁
- 5 70tr 西壁
- 6 71tr 西壁
- 7 72tr 西壁
- 8 72tr 5層遺構検出状況（南から）

写真図版 29 宮之内遺跡

- 1 72tr 遺構断面状況（南西から）
- 2 73tr 西壁
- 3 74tr 南壁
- 4 75tr 北壁
- 5 76tr 北壁
- 6 77tr 西壁
- 7 78tr 南壁
- 8 79tr 北壁

写真図版 30 宮之内遺跡

- 1 80tr 南壁
- 2 81tr 南壁
- 3 82tr 南壁
- 4 83tr 北壁
- 5 84tr 南壁
- 6 85tr 北壁
- 7 87tr 北壁
- 8 88tr 南壁

写真図版 31 宮之内遺跡

- 1 89tr 北壁
 - 2 91tr 北壁
 - 3 92tr 北壁
 - 4 94tr 東壁
- 宮之内遺跡出土遺物 1

写真図版 32 宮之内遺跡

- 宮之内遺跡出土遺物 2

写真図版 33 宮之内遺跡

- 宮之内遺跡出土遺物 3

写真図版 34 崇宏殿遺跡

- 1 2tr 東壁
- 2 3tr 東壁
- 3 4tr 東壁
- 4 5tr 東壁
- 5 6tr 東壁
- 6 7tr 北壁
- 7 7tr 4層遺構検出状況（南から）
- 8 8tr 西壁

写真図版 35 崇宸殿遺跡

- 1 9tr 西壁
- 2 11tr 北壁
- 3 12tr 北壁
- 4 13tr 北壁
- 5 14tr 南壁
- 6 15tr 北壁
- 7 16tr 北壁
- 8 17tr 北壁

写真図版 36 崇宸殿遺跡

- 1 18tr 北壁
- 2 19tr 北壁
- 3 20tr 北壁
- 4 21tr 北壁
- 5 22tr 東壁
- 6 23tr 東壁
- 7 24tr 東壁
- 8 26tr 東壁

写真図版 37 崇宸殿遺跡

- 1 27tr 北壁
- 2 28tr 西壁
- 3 29tr 西壁
- 4 30tr 東壁

崇宸殿遺跡出土遺物

写真図版 38 柳引遺跡

- 1 1tr 西壁
- 2 2tr 西壁
- 3 3tr 西壁
- 4 4tr 西壁
- 5 5tr 西壁
- 6 6tr 西壁
- 7 7tr 西壁
- 8 7tr 4層遺構検出状況（東から）

写真図版 39 柳引遺跡

- 1 8tr 西壁
- 2 9tr 西壁
- 3 11tr 西壁
- 4 12tr 西壁
- 5 13tr 西壁
- 6 14tr 西壁
- 7 15tr 西壁
- 8 16tr 西壁

写真図版 40 柳引遺跡

- 1 17tr 東壁
- 2 18tr 西壁
- 3 19tr 西壁
- 4 20tr 東壁
- 5 21tr 東壁
- 6 22tr 東壁
- 7 23tr 西壁
- 8 24tr 東壁

写真図版 41 柳引遺跡

- 1 25tr 東壁
- 2 26tr 東壁
- 3 27tr 西壁
- 4 28tr 東壁
- 5 29tr 東壁
- 6 31tr 東壁
- 7 32tr 東壁
- 8 33tr 東壁

写真図版 42 柳引遺跡

- 1 34tr 東壁
 - 2 35tr 南壁
- 柳引遺跡出土遺物

写真図版 43 桜井遺跡

- 1 1tr 東壁
- 2 1tr 3層遺物出土状況（北から）
- 3 1tr 3層遺物出土状況（東から）
- 4 2tr 東壁
- 5 2tr 4層遺構検出状況（北から）
- 6 3tr 東壁
- 7 4tr 北壁
- 8 5tr 北壁

写真図版 44 桜井遺跡

- 1 6tr 北壁
- 2 7tr 北壁
- 3 8tr 東壁
- 4 9tr 北壁
- 5 10tr 北壁
- 6 11tr 北壁
- 7 12tr 北壁
- 8 13tr 北壁

写真図版 45 桜井遺跡

- 1 14tr 北壁
- 2 15tr 北壁
- 3 16tr 北壁
- 4 17tr 北壁
- 5 18tr 北壁
- 6 19tr 東壁
- 7 20tr 東壁
- 8 21tr 東壁

写真図版 46 桜井遺跡

- 1 22tr 北壁
- 2 23tr 北壁
- 3 24tr 東壁
- 4 25tr 東壁
- 5 26tr 南壁
- 6 27tr 南壁
- 7 28tr 南壁
- 8 29tr 北壁

写真図版 47 板井遺跡

- 1 30tr 北壁
- 2 31tr 北壁
- 3 32tr 南壁
- 4 33tr 西壁
- 5 34tr 西壁
- 6 35tr 東壁
- 7 36tr 南壁
- 8 37tr 北壁

写真図版 48 板井遺跡
板井遺跡出土遺物

写真図版 49 富岡遺跡

- 1 1tr 東壁
- 2 2tr 北壁
- 3 3tr 北壁
- 4 4tr 東壁
- 5 5tr 東壁
- 6 7tr 西壁
- 7 8tr 西壁
- 8 9tr 西壁

写真図版 50 富岡遺跡

- 1 10tr 東壁
- 2 11tr 北壁
- 3 12tr 北壁
- 4 13tr 西壁
- 5 14tr 北壁
- 6 116tr 東壁
- 7 119tr 東壁
- 8 120tr 東壁

写真図版 51 富岡遺跡

- 1 121tr 南壁
- 2 122tr 南壁
- 3 123tr 東壁
- 4 124tr 南壁
- 5 128tr 西壁
- 6 129tr 北壁
- 7 130tr 北壁
- 8 131tr 東壁

写真図版 52 富岡遺跡

- 1 132tr 北壁
 - 2 133tr 北壁
- 富岡遺跡出土遺物

写真図版 53 幸の木遺跡

- 1 15tr 北壁
- 2 16tr 東壁
- 3 17tr 東壁
- 4 18tr 東壁
- 5 19tr 東壁
- 6 20tr 東壁
- 7 21tr 東壁
- 8 22tr 東壁

写真図版 54 幸の木遺跡

- 1 23tr 東壁
- 2 24tr 東壁
- 3 25tr 東壁
- 4 26tr 東壁
- 5 27tr 南壁
- 6 28tr 北壁
- 7 29tr 東壁
- 8 30tr 東壁

写真図版 55 幸の木遺跡

- 1 31tr 東壁
- 2 32tr 南壁
- 3 33tr 北壁
- 4 34tr 南壁
- 5 36tr 南壁
- 6 37tr 東壁
- 7 38tr 東壁
- 8 39tr 南壁

写真図版 56 幸の木遺跡

- 1 40tr 南壁
- 2 41tr 東壁
- 3 42tr 南壁
- 4 43tr 南壁
- 5 44tr 東壁
- 6 45tr 西壁
- 7 46tr 東壁
- 8 47tr 東壁

写真図版 57 幸の木遺跡

- 1 48tr 東壁
- 2 49tr 南壁
- 3 50tr 西壁
- 4 51tr 南壁
- 5 52tr 南壁
- 6 53tr 南壁
- 7 54tr 南壁
- 8 55tr 南壁

写真図版 58 幸の木道跡

- 1 56tr 東壁
- 2 57tr 東壁
- 3 58tr 東壁
- 4 59tr 東壁
- 5 60tr 北壁
- 6 61tr 東壁
- 7 62tr 南壁
- 8 63tr 東壁

写真図版 59 幸の木道跡

- 1 64tr 東壁
- 2 65tr 東壁
- 3 66tr 東壁
- 4 67tr 南壁
- 5 68tr 南壁
- 6 69tr 東壁
- 7 70tr 東壁
- 8 71tr 東壁

写真図版 60 幸の木道跡

- 1 72tr 東壁
- 2 73tr 東壁
- 3 74tr 東壁
- 4 75tr 東壁
- 5 76tr 南壁
- 6 77tr 東壁
- 7 78tr 西壁
- 8 79tr 東壁

写真図版 61 幸の木道跡

- 1 80tr 東壁
- 2 81tr 東壁
- 3 82tr 東壁
- 4 83tr 東壁
- 5 84tr 西壁
- 6 85tr 西壁
- 7 86tr 東壁
- 8 87tr 東壁

写真図版 62 幸の木道跡

- 1 88tr 東壁
- 2 89tr 東壁
- 3 90tr 南壁
- 4 91tr 南壁
- 5 92tr 北壁
- 6 93tr 南壁
- 7 94tr 北壁
- 8 95tr 東壁

写真図版 63 幸の木道跡

- 1 96tr 東壁
- 2 97tr 北壁
- 3 98tr 南壁
- 4 99tr 南壁
- 5 100tr 南壁
- 6 101tr 南壁
- 7 102tr 南壁
- 8 103tr 北壁

写真図版 64 幸の木道跡

- 1 104tr 東壁
- 2 105tr 東壁
- 3 106tr 南壁
- 4 107tr 西壁
- 5 108tr 東壁
- 6 109tr 西壁
- 7 110tr 東壁
- 8 111tr 東壁

写真図版 65 幸の木道跡

- 1 112tr 東壁
- 2 113tr 南壁
- 3 114tr 東壁
- 4 115tr 東壁
- 5 116tr 南壁
- 6 117tr 南壁
- 7 134tr 南壁
- 8 135tr 北壁

写真図版 66 幸の木道跡

- 1 136tr 南壁
 - 2 138tr 南壁
 - 3 140tr 西壁
 - 4 141tr 南壁
 - 5 142tr 南壁
 - 6 143tr 南壁
- 幸の木道跡出土遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

平成25年9月6日、西条市教育委員会（以下、市教委）は、農林水産省中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所（以下、中国四国農政局）から西条市内の中山川左岸地域で計画している国営緊急農地再編整備事業（以下、ほ場整備事業）に伴い、区域内の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、包蔵地）の取扱いについての相談を受けた。これに対し市教委は、包蔵地内及びその隣接地で土木工事を実施する場合は、試掘調査により事前に遺跡の広がりを確認する必要があることを伝えるとともに、試掘調査によって遺跡の存在が確認され、それらが保護できない場合は文化財保護法に基づき本発掘調査が必要となることを説明した。また、今後継続して協議を進めていく上で詳細な工事予定範囲図と全体スケジュールのわかる資料が必要となることから、それらの提示及び工事範囲と包蔵地との関係の把握を依頼した。

その後、同年9月24日、10月21日、31日に協議を行い、今後のスケジュール等について検討した。なお、計画段階で受益面積は約670haに及び、そして工事予定団地の多くに包蔵地が含まれていることを確認した。

全体スケジュールをみると、工事の開始予定は平成28年度であった。協議当初、中国四国農政局からは、工事着工前にすべての試掘調査を終了することができないかとの要望もあったが、さまざまな条件を考慮した結果、試掘調査を工事前に完了することはほぼ不可能であることを伝

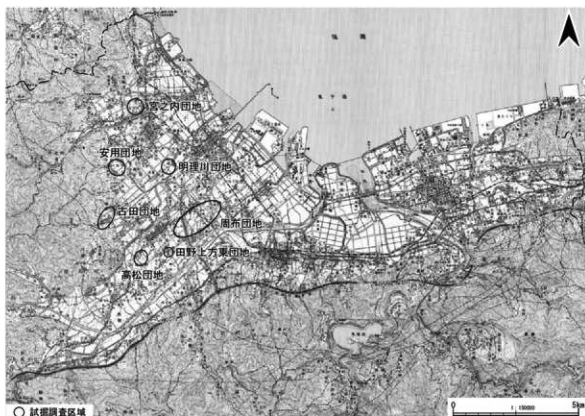


図1-1 試掘調査地位置図

えた。そこで工事着手時期の早い団地から順次試掘調査を実施し、工事着手の遅い団地については、他の団地の工事と並行して試掘調査を行うこととした。

また、これらの協議と同時進行で、市教委では試掘調査に係る予算措置を進め、平成26年度から文化庁の国庫補助を受け試掘調査を実施することとなった。

なお、各団地の試掘調査については、中国四国農政局の協力の下、各ほ場整備委員会との協議を行い、必要に応じて地元地権者、耕作者との直接協議を行った上で具体的な時期や場所等を決定した。(渡邊)

第2節 調査の経過

試掘調査を開始した平成26年度時点で、工事対象面積はいまだ流動的ではあったが、モデル地区としてはほ場整備を先行して実施することが確定している団地から調査を開始した。個々の団地における調査経過や成果の詳細は、第3章で述べることとするが、令和元年度末段階で包蔵地及び包蔵地に隣接する範囲が含まれる7団地、計602か所で試掘調査を実施した(表1-1)。

なお、安用団地のうち平成30年度に追加調査を実施した箇所と、平成30年度から着手し令和2年度以降も追加調査を予定している古田団地・高松団地については本報告書には掲載していない。これらについては調査が終了し成果がまとまり次第、改めて報告する予定である。

平成26年度

田野上方面団地 当団地には道満寺伽藍跡が存在する。平成26年4月8日に地元集会所で地権者説明を行い、4月10日に関係者立ち合いの下、トレンチ設定場所を決定した。本団地では、できるだけ休耕田にトレンチを設定してもらいたいとの地元からの要望が強く、トレンチ11か所中9か所を休耕田、残り2か所を畑地に設定することとなった。また、調査時期については、周辺の田に水を引く前に調査を終わらせてほしいとの要望があり、5月7日・8日の2日間で休耕田部分に対する調査を実施した。

表1-1 年度別試掘調査箇所数と面積

道路名	道満寺伽藍跡		北竹ノ下I遺跡 北竹ノ下II遺跡		宮之内遺跡 福成寺横道下遺跡		新宮殿遺跡 棚引遺跡 坂井遺跡		富岡遺跡 幸の木遺跡		星野遺跡 徳田中学校I遺跡 徳田中学校II遺跡 古田明堂古墳		高松大坂遺跡 すくも山古墳	
団地名	田野上方面		安用		宮之内		明理川		周布		古田		高松	
年・度	トレンチ数	面積 (a)	トレンチ数	面積 (a)	トレンチ数	面積 (a)	トレンチ数	面積 (a)	トレンチ数	面積 (a)	トレンチ数	面積 (a)	トレンチ数	面積 (a)
平成26	11	51	83	166										
平成27			11	23	82	164	73	143.5						
平成28					22	44	22	44	114	225.8				
平成29							2	4	18	36.6	84	145.5	6	21.8
平成30			17	34					4	8	22	47.2	5	16.5
令和元											18	54	8	20.4
計	11	51	111	223	104	208	97	191.5	136	270.4	124	246.7	19	58.7
太線の範囲が本報告													合計	
													トレンチ数	面積 (a)
													602	1249.3

なお、畑地の2か所のトレンチはすでに作付けが行われていたため、収穫後の9月29日に調査を行った。

安用団地 当団地には北竹ノ下Ⅰ遺跡、北竹ノ下Ⅱ遺跡が存在する。調査に先立ち、9月26日に地元関係者、行政関係者で現地協議を行い、現状を確認した。トレンチ設定場所については、工事対象地域内の包蔵地内及びその隣接地とした。最終的なトレンチ設定場所については、現地協議の内容を踏まえて、市教委から案を提示した上で、地元関係者との調整を行い決定した。



写真1-1 安用団地調査風景

なお、現地調査は稲の収穫後の11月4日から開始し、約1か月後の12月3日に終了した。

調査トレンチは当初100か所を予定していたが、結果として83か所で調査を実施した。調査箇所が減少した理由としては、野菜の作付けのため実施できなかった場所が発生したことや、包蔵地の隣接地に予定していたトレンチでは、周辺の試掘調査結果から遺跡の広がる可能性が低いと判断した箇所で調査を中止したためである。

一方で、本年度の調査成果から追加調査の必要な箇所も判明し、それらについては次年度以降に実施することとなった。(渡邊)

平成27年度

平成27年4月27日に本年度のスケジュール等について中国四国農政局と協議を行い、安用団地、宮之内団地、明理川団地の3団地で試掘調査を実施することを再度確認した。

安用団地 調査に先立ち5月19日に地元ほ場整備委員会で地元関係者から早期に調査を実施してもらいたいとの要望を受け、田植え前に調査を実施することとしたが、作付けの関係で田植え前に実施できない箇所が2か所あり、5月27日・28日に9か所、11月4日に2か所実施した。計11か所の調査を行い、ほ場整備範囲内における遺跡の広がりを確認し終えた。

宮之内団地 当団地には宮之内遺跡、福成寺横道下遺跡が存在する。調査に先立ち5月11日に地元ほ場整備委員会で試掘調査箇所を提示し、作付け等の調査を行った。その後、7月13日に中国四国農政局並びに地元関係者で現地協議及び試掘調査箇所の状況を確認した。調査は7月28日～30日、10月19日～26日にかけて実施した。79か所の調査を行った結果、遺跡の広がりが確認でき、包蔵地範囲よりもさらに外側に遺跡が広がることが想定されたため、中国四国農政局、地元ほ場整備委員会とで協議を重ね、追加で25か所の調査を実施することとなった。

しかし、そのほとんどの調査区において作付けが行われており、実施可能な3か所を11月27日に実施した。残りの22か所については翌年度に実施することとなった。

明理川団地 当団地には、崇宸殿遺跡、櫛引遺跡、桜井遺跡が存在する。調査に先立ち5月18日に地元ほ場整備委員会で試掘調査箇所を提示し、作付け等の調査を行った。



写真1-2 宮之内団地調査風景

その後、7月13日に中国四国農政局と現地で協議及び試掘調査箇所の状況を確認した。それを受け改めて試掘調査箇所を検討し、地元関係者と調整し最終的な調査場所を決定した。調査は10月8日に2か所、11月9日～24日に71か所実施した。計73か所の調査をし終え、ほ場整備範囲内における遺跡の広がり確認できた。しかし、遺跡の広がり未調査地範囲にも広がることが想定されたため、翌年度も引き続き試掘調査を実施することとなった。(岡島)

平成28年度

平成27年度中に調査スケジュールと調査場所について協議を開始し、未調査箇所が残る宮之内団地、追加調査を行う明理川団地、さらに新規に周布団地の調査を実施することとなった。

宮之内団地 平成28年1月15日に未調査の22か所について、中国四国農政局と改めて協議を行い、地元ほ場整備委員会で作付け等を確認後、平成28年9月に最終的な設定場所を決定した。試掘調査時期は耕作者から水稲収穫後と要望があったため、調査は10月17日～21日の間で実施した。調査は計画した22か所すべてで行い、ほ場整備範囲内における遺跡の広がり確認し終えた。調査結果は、12月9日の地元ほ場整備委員会で簡易的な報告を行い、宮之内団地の試掘調査は終了した。

明理川団地 平成28年1月15日に中国四国農政局へ追加トレンチ設定場所案を提示し、地元ほ場整備委員会で作付け等を確認した。その後、平成28年11月に現地協議を行い、設定場所を決定した。地権者及び耕作者から調査時期の要望があったため、水稲収穫後の11月14日～16日、大豆収穫後の平成29年1月5日、野菜収穫後の2月15日にそれぞれ実施した。当初は、各遺跡周辺で24か所の調査を計画したが、桜井遺跡周辺の2か所はすでに農作物が作付けされていたため調査を翌年度に回し、22か所で調査を実施し紫宸殿遺跡と櫛引遺跡の広がり確認した。

周布団地 当団地には富岡遺跡、幸の木遺跡が存在する。平成27年12月25日に現地で作付け状況を確認後、平成28年3月22日に地元集会所で実施されたほ場整備委員会でトレンチ設定場所案を提示し、現地協議を経て調査場所を決定した。地権者及び耕作者からは、調査時期の要望があったため、まずは麦収穫後の6月17日～7月5日、8月30日に調査を実施した。その後、



写真1-3 周布団地調査風景

水稲収穫後の10月24日～11月4日、牧草収穫後の平成29年2月10日～14日にかけて調査を実施した。当初は117か所の調査を計画していたが、天候による収穫時期の遅延や野菜作付け等の影響により114か所の調査を行い遺跡の広がり確認した。試掘調査では、調査範囲外にも遺跡の広がり想定されたため、追加の試掘調査を次年度に実施することとなった。

平成29年度

未調査箇所が残る明理川団地と、前年度の調査を受けて追加調査を実施することとなった周布団地の試掘調査を実施した。

明理川団地 前年度の未調査箇所について、平成29年4月26日に地元ほ場整備委員会へ作付

け等を確認し、試掘調査を5月下旬に実施することとなった。計画どおり5月22日に2か所の調査を実施し、ほ場整備範囲内における遺跡の広がりを確認し終えたため、明理川団地での試掘調査は終了した。

周布団地 平成29年7月24日に中国四国農政局へ追加トレンチ設置場所案を提示し、地元ほ場整備委員会で確認後、調査場所と時期を決定した。まずは、耕作放棄地の調査を9月11日～15日に実施した。その後、水稻収穫後の10月25日～26日、牧草収穫後の平成30年1月15日～16日に調査を実施した。調査は、前年度未調査の3か所と追加の22か所の計25か所を計画していた。しかし、作付けの影響で調査ができない4か所と、周辺の試掘調査結果から遺跡の広がる可能性が低いと判断した3か所は調査をせず、18か所の実施に留まった。



写真1-4 明理川団地調査風景

平成30年度

周布団地における未調査箇所の調査を実施した。

周布団地 作付けのため未調査であった4か所の調査をすべく、平成30年7月11日に調査時期を地元ほ場整備委員会へ確認した。その結果、調査期限は7月末までとの要望があったため、7月26日に試掘調査を実施した。調査は計画どおり4か所を実施し、ほ場整備範囲内における遺跡の広がりを確認し終えたため、周布団地の試掘調査は終了した。

整理作業

整理作業は、平成26年度の試掘調査終了後から開始し、写真や図面等の調査記録類の整理や断面図のデジタルトレース化を進めた。遺物は洗浄、接合、注記、台帳作成作業等を継続して実施した。令和元年度は本報告書の発刊にあたり、年度ごとの調査結果を再検討し、各団地の成果を総合的にまとめた。また、遺物は遺跡ごとに遺跡の時期や内容を判断し得るものを選別し、図化及び写真撮影を行い、本報告書に掲載している。(鈴木)



写真1-5 整理作業風景

第3節 調査の体制

試調査及び報告書作成の調査体制は表1-2のとおりである。

表1-2 西条市教育委員会体制一覧

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
教育長	菊池 篤志	菊池 篤志	菊池 篤志 (～11月) 柳瀬 康治 (1月～)	柳瀬 康治	柳瀬 康治	柳瀬 康治 (～1月) 伊藤 隆志 (1月～)
管理部長	森川 等	佐伯 宣枝	山下 建樹	高橋 俊博	高橋 俊博	高橋 俊博
副部長	山下 建樹	山下 建樹	三好 昭彦	三好 昭彦	三好 昭彦	三好 昭彦
社会教育課長	三好 昭彦	三好 昭彦				
主 幹	三浦 執					岩崎 晃彦
副課長				岩崎 晃彦	岩崎 晃彦	伊藤 敏昭
専門員	岩崎 晃彦	岩崎 晃彦	岩崎 晃彦	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭
歴史文化振興係長				岩崎 晃彦		
担当者	渡邊 芳貴 鈴木 圭	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也 三浦 執(臨時)	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也 三浦 執(臨時)

なお、試調査から報告書作成までの作業は、下記の作業員の参加を得た。(敬称略)

青野 浩三、岩崎 美幸、越智 啓三、越智 むつ子、梶川 末勝、久米 亜美、河野 良太、
佐伯 憲一、志賀 麻奈美、鈴木 真依、竹内 由紀、武田 忠義、玉井 成子、利根 千代美、
日野 敬三、藤井 和代、藤井 春菜、藤田 正一、藤田 淑子、榎 重信

第2章 調査地の位置と環境

第1節 地理的環境

西条市は、愛媛県東部（東予地方）に位置する。現在の西条市は、平成16年11月に旧西条市・東予市・丹原町・小松町の2市2町が合併し、東に新居浜市、北西は今治市、南西は東温市、南は久万高原町及び高知県の町と接している。

北東側は瀬戸内海遠浅の隆起に面し、南は西日本最高峰である石鎚山（標高1982m）や瓶ヶ森（標高1897m）、笹ヶ峰（標高1860m）の連なる石鎚山脈、西は東三方ヶ森（標高1233m）、明神ヶ森（標高1217m）等からなる高縄山地に囲まれる。石鎚山脈は、西南日本を内帯と外帯に分ける中央構造線と平行に走る大起伏の壮年山地であり、傾斜が険しい大断層崖とその山地の地滑りによって形成された緩斜面を特徴とする。中央構造線より北方の内帯側は和泉砂岩、南方の外帯側は結晶片岩で構成されている。一方高縄山地は高縄半島の基部を成し、主に花崗岩で構成されている。なお、中央構造線は丹原町湯谷口に衝上断層（県指定天然記念物）として一部が露出している。

こうした山地から流れる加茂川や中山川、大明神川等によって形成された道前平野は、道後平野に次いで県内第2の面積をもつ。加茂川は石鎚山を水源とし、中流の兎之山付近で大きく蛇行しながら北東方向に流れる。山間から平野に流出する釜之口付近で再び曲流し、北西へと向きを変え隆起に流入する。中山川は、東温市から山間部を曲流した後、丹原町湯谷口で川幅が広がり、南西から北東方向に流れ隆起に流入する。左岸は、下流に向かうにつれ扇状地、氾濫源、三角州へと変わる沖積平野が形成され、右岸は河岸段丘が発達している。大明神川は、東三方ヶ森から道前平野の北部を西から東に流れ隆起に流入する。暴れ川であった大明神川は、強い運搬作用により上流域の花崗岩系の土砂を絶えず下流へと供給しており、下流域には多量の土砂が堆積した扇状地が広範囲に広がる。上記の河川が隆起に流入する付近一帯は、江戸時代以降に干拓された農業用干拓地と、近年になって造成された工業用埋立地が広がっている。

今回報告する遺跡は、大きくは西条市西部の中山川左岸地域に所在する。中山川左岸には、低位扇状地上に道満寺伽藍跡が立地する。その下流の氾濫源上には幸の木遺跡・富岡遺跡が立地し、周辺には崩出口等の小川が東流する。大明神川右岸には、高位扇状地上に北竹ノ下Ⅰ遺跡・北竹ノ下Ⅱ遺跡、下流域の氾濫源上に板井遺跡・櫛引遺跡・紫宸殿遺跡が立地する。北竹ノ下Ⅱ遺跡内を流れる小島川は、櫛引遺跡の南側を東流する新川の支流である。大明神川左岸の高位扇状地上に宮之内遺跡が立地し、今回報告する遺跡の北端である。（鈴木）

第2節 歴史的環境

市内で現在確認している包蔵地は、567か所存在する。これらの包蔵地の時代は旧石器～近世までと幅広いが、遺跡の内容が具体的に判明しているものは限られている。そこで本節では本書掲載遺跡が集中する中山川左岸地域の遺跡で、発掘調査が行われ内容が具体的に判明している遺跡を対象とした。なお、発掘調査の頻度が多い中山川右岸地域の一部も対象とする。

また、近年西条市では民間開発や公共事業等に伴う小規模な発掘調査や工事立会を実施してき

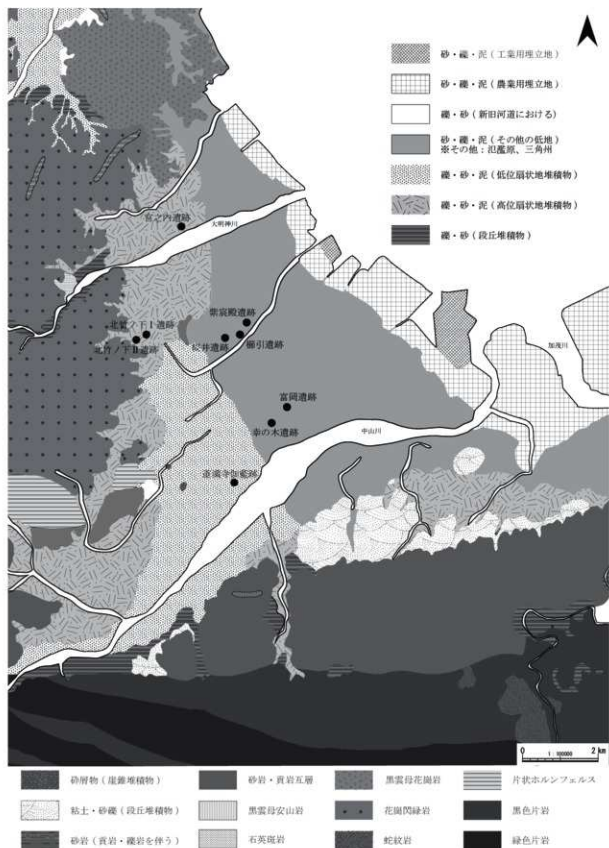


図2-1 表層地質図



- | | | | | | |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|
| 1: 通満寺伽藍跡 | 2: 北竹ノ下I遺跡 | 3: 北竹ノ下II遺跡 | 4: 宮之内遺跡 | 5: 熊倉跡遺跡 | 6: 櫛引遺跡 |
| 7: 榎井遺跡 | 8: 富岡遺跡 | 9: 幸の本遺跡 | 10: 星野遺跡 | 11: 松の本遺跡 | 12: 徳田中学校I遺跡 |
| 13: 徳田中学校II遺跡 | 14: 古田明堂古墳 | 15: 古田古墳群 | 16: すくも山古墳 | 17: 高松大塚遺跡 | 18: 耳金城跡 |
| 19: お筆山1・2号墳 | 20: 永納山城跡 | 21: 永納山東I遺跡 | 22: 永納山東II遺跡 | 23: 世田山4号墳 | 24: 成福寺V遺跡 |
| 25: 成福寺3・4号墳 | 26: 桶IV遺跡 | 27: 桶V遺跡 | 28: 松木池遺跡 | 29: 天神東の谷古墳群 | 30: 長綱I遺跡 |
| 31: 長綱II遺跡 | 32: 実興寺高志田遺跡 | 33: 福成寺遺跡 | 34: 且之上遺跡 | 35: 新池遺跡 | 36: 小嶋遺跡 |
| 37: 二杉山古墳 | 38: 北谷山遺跡 | 39: 荒子西中学校遺跡 | 40: 新市遺跡 | 41: 宮ノ松遺跡 | 42: 貝田崎寺跡 |
| 43: 木郷I遺跡 | 44: 木郷V遺跡 | 45: 久枝遺跡 | 46: 久枝II遺跡 | 47: 願達寺泉遺跡 | 48: 願達寺元泉遺跡 |
| 49: 願達寺塔ノ内遺跡 | 50: 道場遺跡 | 51: 松ノ丁遺跡 | 52: 法安寺跡 | 53: 大開遺跡 | 54: 大久保・松ノ元遺跡 |

図2-2 主要遺跡分布図

ている。本書をとおして一部紹介しておきたい。

旧石器時代 旧石器時代の遺跡はそれほど多くない。中山川左岸地域では丹原地域の宝ヶ口Ⅰ遺跡で角錐状石器や石核が出土しており、中山川右岸地域では丹原地域の安養寺遺跡や小松地域での明穂Ⅰ東岡東遺跡、明穂中ノ岡Ⅲ遺跡、妙口遺跡で石器が出土している程度である。

縄文時代 草創期の遺跡は中山川左岸地域では現在確認されておらず、右岸地域の仏心寺遺跡や安養寺遺跡で有舌尖頭器の確認例が報告されている。早期では大明神川左岸の福成寺遺跡(33)で遺構が確認されている。前期では中山川左岸地域では確認されておらず、西条地域の半田山遺跡や市倉遺跡で出土している程度であり、中期に至っても星野遺跡(10)で土坑が検出されているのみで、不明瞭である。遺跡数が増加するのは後期になってからである。大明神川左岸地域の松木池遺跡(28)、成福寺Ⅶ遺跡(24)、長綱Ⅰ遺跡(30)、福成寺遺跡(33)、且之上遺跡(34)、大明神川右岸の東予西中学校遺跡(39)等で遺構・遺物が確認されている。中山川右岸の小松川藤木遺跡(56)では堅穴建物や土坑が検出され、市内では数少ない定住痕跡が残されていた。また、出土遺物は当地域における縄文後期土器編年の指標となっている。晩期では福成寺遺跡(33)や且之上遺跡(34)で遺構・遺物が確認されている。

弥生時代 前期の遺跡は、大明神川左岸の丘陵上に立地する成福寺Ⅶ遺跡(24)で磨製石剣が出土したほか、且之上遺跡(34)では前期～中期にかけての堅穴建物が検出されている。中山川左岸の幸の本遺跡(9)付近では、搬入土器・模倣土器、武器形石剣等が出土し、溝で区画された区画域やその周辺に広がる祭祀域、居住域の成り立ちが判明した久枝Ⅱ遺跡(46)を中心に、久枝遺跡(45)、願連寺泉遺跡(47)、願連寺元泉遺跡(48)、願連寺建ヶ内遺跡(49)が一連の集落として展開する。北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡(2・3)北西に所在する北谷山遺跡(38)では中期後半～後期頃の堅穴建物等が検出され、ほぼ同時期である小池遺跡(36)では多量の木製品のほかに、小型内行花文鏡が出土した。後期～古墳時代初頭にかけて高縄山地裾部の丘陵上の星野遺跡で遺構が確認されている。近年の調査で後期～終末期頃にかけては、東予西中学校遺跡(39)や新市遺跡(40)があることが判明した。

弥生時代の墳墓については、具体的に判明している例が限られている。且之上遺跡(34)で前期末～中期後半頃の土坑墓が確認されているに過ぎない。

古墳時代 古墳の調査例は少ない。初頭頃では、成福寺3・4号墳(25)や中山川右岸地域に所在する松ノ元・大久保古墳群と呼称される大久保1号墳、松ノ元遺跡土器館墓がある。前期では永納山東Ⅰ遺跡(21)で土壇墓や石槨が確認され、発掘調査が実施されていないが、二番山古墳(37)が出土遺物の特徴から中期の代表例となろう。後期には丘陵沿いの天神東の谷古墳群(市指定史跡、29)等、群集墳が数多く築造されるが、宮之内遺跡(4)に近接している福成寺遺跡(33)で2基の古墳が確認され、平野部にも群集墳が築造されることがわかりつつある。

集落跡では、前期には本郷Ⅰ遺跡(43)で堅穴建物が検出されている。中期には久枝遺跡(45)の流路から中期土器が出土している。後期では長綱Ⅰ・Ⅱ遺跡(30・31)で堅穴建物が多数検出されており、鉄製品や鉄滓が多量に出土していることから、鉄生産にかかわる大規模な集落が想定されている。本郷Ⅰ遺跡(43)では小規模な調査区ながら後期の遺構が確認されており、北東に位置する貝田廃寺跡(42)では6世紀後半～7世紀にかけての遺構と遺物が確認されている。

古代 中山川左岸地域は『和名抄』によると周敷・桑村の2郡が置かれた。

久枝Ⅱ遺跡(46)では遺構の配置や出土遺物から周敷郡衙の可能性が推定され、その南側にある幸の木遺跡(9)では自然流路や掘立柱建物が発出され、自然流路から円面硯・転用硯、赤色塗彩土師器等が出土し、周辺に官衙関連遺跡若しくはそれに相当する階層の居宅の存在が推定されている。また、近接する本郷Ⅴ遺跡(44)では明確な遺構が発出されていないが、円面硯のほか、中世の井戸から赤色塗彩土師器がまとも出土しており、周辺に古代の遺構が広がる可能性が想定される。

大明神川左岸地域では、県内唯一の古代山城永納山城跡(国指定史跡、20)があり、近年の調査で多様な城壁構造をもつことが指摘されているほか、本書で報告する宮之内遺跡周辺の長網Ⅰ・Ⅱ遺跡(30・31)では瓦がまとも出土し、掘立柱建物や大溝が発出されている。その西側に位置する実報寺高志田遺跡(32)では掘立柱建物や土坑が発出され、古代の遺跡が大きく広がる。

近年、中山川右岸地域でも今治小松自動車、11号小松バイパス、ほ場整備関係の発掘調査で、8～9世紀代の遺構が道場遺跡(50)、松ノ丁遺跡(51)、大開遺跡(53)、大久保・松ノ元遺跡(54)等で確認されている。また法安寺跡(国指定史跡、52)では、史跡指定地外の調査で7世紀中～後半頃の掘立柱建物や8世紀代の土坑が発出されている。土師器甕と和同開珎が数枚(現在は8枚確認、市指定考古資料)出土した柏木古墳(55)等もある。

中世 久枝遺跡(45)、願連寺泉遺跡(47)、願連寺元泉遺跡(48)、願連寺建ヶ内遺跡(49)で方形区画溝を伴う集落跡が推定されているほか、本郷Ⅴ遺跡(44)では、13世紀代前後の石組井戸や15世紀代の溝が発出され、滑石製石鍋等も出土している。星野遺跡(10)では、掘立柱建物や区画溝が発出されている。紫宸殿遺跡(5)の北東に位置する宮ノ後遺跡(41)では、中世の溝や土坑が発出され、関係が注目される。

大明神川左岸の桶Ⅳ・Ⅴ遺跡(26・27)では柱穴・溝・土坑が発出されている。

なお、発掘調査は実施されていないが、高縄山地には数多くの城館が分布調査で確認されている。

近世 西条市には西条藩・小松藩が置かれ、西条藩陣屋跡では土坑・柱穴・井戸等が発出されている。中山川左岸で近世の遺跡はほとんどわからない。唯一、本郷Ⅴ遺跡(44)で溝が発出され、小型増塙や鉄洋、輪羽口等が出土し、周辺に鍛冶屋が存在したことが推定されている。(岡島)

表2-1 近年の中山川左岸における西条市の発掘調査一覧

調査年	遺跡名	時期	検出遺構	出土遺物
2008	本郷Ⅴ遺跡	古代・中世	溝・井戸	土師器・須恵器・瓦器・石製品・銭貨
2009	本郷Ⅰ遺跡	古墳後期	柱穴・溝	土師器・須恵器
2012	本郷Ⅰ遺跡	古墳後期	柱穴	土師器・須恵器
2017	本郷Ⅴ遺跡	中世・近世	柱穴・溝	土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・瓦・陶磁器・鉄製品
2017	東予西中学校遺跡	縄文後期・弥生終末	柱穴・土坑	縄文土器・弥生土器・須恵器・土製品
2017～2018	桶Ⅳ遺跡 桶Ⅴ遺跡	中世	柱穴・溝・土坑	土師器・須恵器
2018	新市遺跡	弥生後期	土坑	弥生土器・土師器・須恵器
2019	宮ノ後遺跡	中世	溝・土坑	土師器・須恵器・瓦器

※現在整理中であり、詳細は変更する可能性がある。

《参考文献》

- 石貫弘泰編 2014『西条藩陣屋跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第185集、(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 伊藤隆志 1992「第2章律令時代の政治と文化 2節奈良時代」『小松町誌』小松町誌編さん委員会
- 今井信太郎編 1983『実報寺黒岩山遺跡・広岡北谷山遺跡調査報告書』東予市教育委員会
- 愛媛県教育委員会 1987『愛媛県中世城館跡—分布調査報告書—』
- 岡島俊也 2020「道場遺跡の発掘調査成果」『小松史談第146号』小松史談会
- 久門範政編 1966『西條市誌』西条市
- 経済企画庁編 1967『土地分類基本調査「西条」』
- 西条市教育委員会 2013『西条市の文化財』
- 柴田昌晃ほか 2001『松ノ元遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第90集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 柴田昌晃ほか 2002『大久保遺跡・大久保1号墳』埋蔵文化財発掘調査報告書第94集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 柴田昌晃ほか 2002『幸の本遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第102集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 柴田昌晃ほか 2005『久枝遺跡・久枝Ⅱ遺跡・本郷Ⅰ遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第122集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 柴田昌晃ほか 2008『大久保遺跡(大久保・竹成地区・E地区)・大開遺跡・松ノ丁遺跡(1次・2次)』埋蔵文化財発掘調査報告書第144集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 十亀幸雄編 1997『法安寺跡遺跡』小松町埋蔵文化財調査報告書1、小松町教育委員会
- 十亀幸雄編 2004『小松川藤木遺跡』小松町埋蔵文化財調査報告書2、小松町教育委員会
- 丹原町誌編さん委員会編 1991『丹原町誌』丹原町
- 多田仁ほか 1994『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ—丹原町編—安養寺遺跡・宝ヶ口Ⅰ遺跡、文台城跡、高月遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第47集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 土井光一郎ほか 2008『永納山東Ⅰ遺跡・永納山東Ⅱ遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第145集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 東予市誌編さん委員会編 1986『東予市誌』東予市
- 中野良一ほか 2005『長網Ⅰ遺跡・長網Ⅱ遺跡・実報寺高志田遺跡・福成寺遺跡・旦之上遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第118集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 長井数秋編 1999『新池遺跡・小池遺跡』東予市教育委員会
- 長井数秋編 2001『星野遺跡Ⅰ区発掘調査報告書』埋蔵文化財発掘調査報告書第1集、丹原町教育委員会
- 長井数秋編 2002『願連寺泉遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第2集、丹原町教育委員会
- 長井数秋編 2003『星野遺跡Ⅱ—IX区埋蔵文化財発掘調査報告書』埋蔵文化財発掘調査報告書第3集、丹原町教育委員会
- 西川真美ほか 2004『久枝Ⅱ遺跡2次・本郷Ⅰ遺跡2次』埋蔵文化財発掘調査報告書第116集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 西川真美ほか 2005『願連寺泉遺跡2次・願連寺元泉遺跡・願連寺建ヶ内遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第119集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 松村さを里ほか 2007『世田山4号墳・成福寺Ⅶ遺跡・成福寺3・4号墳・松木池遺跡・長網Ⅰ遺跡2次』埋蔵文化財発掘調査報告書第140集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 三好一史ほか 2004『大開遺跡2次』埋蔵文化財発掘調査報告書第117集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 目黒周治ほか 2001『貝田廃寺跡』東予市教育委員会
- 渡邊芳貴ほか 2018『史跡永納山城跡Ⅲ』西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第4集、西条市教育委員会

第3章 調査の成果

第1節 調査の方法

調査対象地は広範囲にわたり、高低差の著しい丘陵斜面部に位置する団地、平野を形成した河川に近接する団地等、現地の状況は多様である。したがって遺跡の存否を確認するためには地形に応じて柔軟にトレンチを設定し、調査を行うことが望ましかった。しかし、対象地の大半は現在も水田として利用されているため、調査後の営農に支障をきたすことのないようにトレンチの方向や規模、掘削深度等には様々な条件があった。特にトレンチの埋め戻し後に農耕車両が落ち込むことが懸念されたことから、トレンチは基本的に農耕車両が進む方向に直交して長軸をとることとし、その規模も原則1×2mと小規模なものとなった。ただし、調査状況に応じて中国四国農政局と協議を実施し、トレンチを拡張した。なお、調査直前では場整備範囲から外れたトレンチや、周辺の調査結果から遺跡が広がらないと事前に判断したトレンチは調査を行っていない。

各トレンチの調査は、バックホウ及び人力で掘削を行い、層の変化に応じて平面・断面を精査し遺構の有無を確認するとともに遺物の取上げを行った。調査の記録は、土層断面の実測及び写真撮影とともに、必要に応じて平面図を作成した。なお、試掘調査の段階では現地に基準点・水準点が落とされていなかったことから、トレンチの設定場所については、それぞれの周辺の目印を基準にエスロン巻き尺で距離を計測し、都市計画図に記録した。また断面図は、基本的に現地表面の高さを0m、縮尺は20分の1で作成した。

なお、調査終了後は、トレンチを埋め戻して原状に復した。特に耕作土より下の土については、ランマで転圧を図りながら埋め戻しを行った。(渡邊)



写真3-1 トレンチ設置状況



写真3-2 重機による掘削状況



写真3-3 人力による精査状況



写真3-4 埋め戻し（ランマによる転圧）状況

第2節 田野上方東団地

1 団地の概要

田野上方東団地は、西条市丹原町にあり、中山川左岸地域、同河川によって形成された扇状地上に所在する。現地には「道満寺伽藍跡」の標柱が建てられており、包蔵地としては、この標柱のある1筆のみが該当する。伝承によると、この地には古代の寺院が存在したとされている。

調査期間：平成26年度 5月7日・8日、9月29日

調査箇所数：11か所

2 層序（図3-2、写真図版1・2）

調査地は畑地及び休耕田であり、表土層下の数10cmは作土（畑耕作土、田耕作土、床土等）に覆われていた。作土層はほとんどのトレンチで30cm前後の堆積をなしていたが、10trでは54cm程度の厚みをもっていた（10tr 1～3層）。10trでは、近世以降と考えられる水田層を複数面確認でき、水田の昇に伴い作土層が厚くなったものと考えられる。

作土層を除去すると、すべてのトレンチで20～30cm前後の巨礫（円礫）が主体となる砂礫層を検出した。なお砂礫層の厚さは、最も深く掘削した1trで1m以上の堆積を確認した。これらの層は中山川若しくはその支流の氾濫に伴う堆積層と判断でき、この砂礫層を地山と認識した。

3 遺構と遺物

今回調査を実施したすべてのトレンチで、遺構・遺物は確認されなかった。

4 小結

以上のような状況から、本団地では遺跡の広がる可能性は低いと判断した。（渡邊）



図3-1 田野上方東団地トレンチ位置図

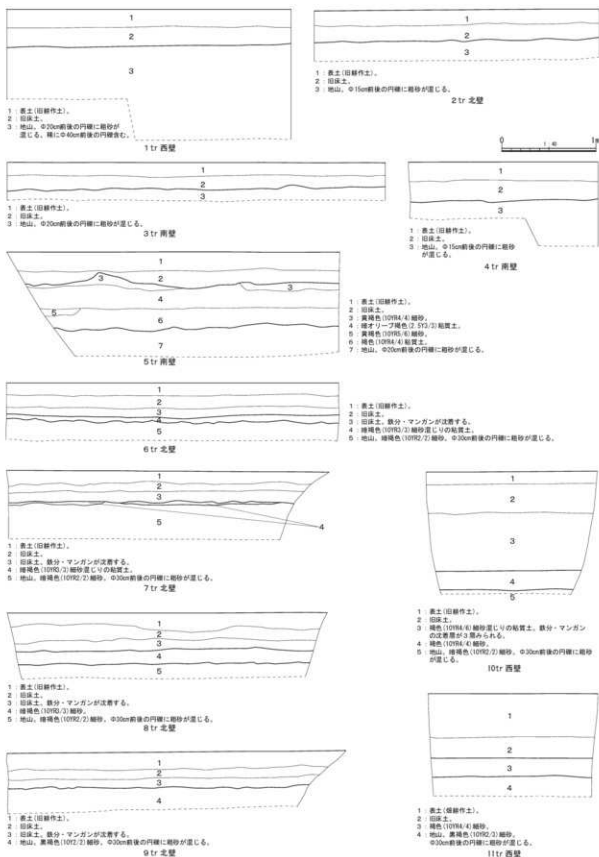


図3-2 田野上方東田地 土層断面図

第3節 安用団地

1 団地の概要

安用団地は、西条市の北西部を流れる大明神川の右岸地域、同河川によって形成された扇状地に所在する。遺跡は、平野に向かい西側から八手状に延びる丘陵裾付近に広がり、今回調査した範囲はこれらの丘陵に挟まれた谷の一つから流れる小河川である小島川の北に位置する。ほ場整備対象面積は計画段階で約30haであり、その内包蔵地は約13.7haに及んだ。標高は調査地東端(H26-83tr)付近で標高約50m、西端(H26-33tr)付近で約24mとなり、約26mの高低差がある。なお、両地点の直線距離は約580mである。

なお、当団地には北竹ノ下Ⅰ遺跡、北竹ノ下Ⅱ遺跡と2つの包蔵地が所在するが、両遺跡は接しており、調査によって遺跡の広がりが連続することを確認しているため、一括して報告する。またトレンチ名については、最初に実施年度を示し、その後にトレンチ番号を記している(例平成26年度に実施したⅠトレンチ:H26-1tr)。

調査期間:平成26年度 11月4日～12月3日

平成27年度 5月27日・28日、11月4日

調査箇所数:94か所

2 層序と調査成果概要

基本層序については調査対象範囲が広大なため、すべてのトレンチの層序を統一してまとめることができない。そこで便宜的にいくつかの地区にまとめて、以下に調査成果とともに報告する。

(1) 北竹ノ下Ⅰ遺跡

①地区1(図3-4、写真図版3)

遺跡の広がるトレンチ:H26-1tr・H26-2tr・H26-6tr～H26-8tr・H26-12tr・H26-13tr

地区1は、試掘対象地の北部に位置する。遺跡を確認した高さは、現地表面から30～56cm下である。遺跡検出層は、基本的に細砂～大礫の混じる黒褐色・暗褐色系の層である。

H26-1tr・H26-2trでは、遺物包含層を1層確認した(H26-1tr 4層・H26-2tr 6層)。なお、H26-2tr 6層では、幅90cm以上となる遺構(暗褐色粘質土)を検出している。

H26-6tr～H26-8trでは、遺物包含層を2層(上層:H26-6tr 4層・H26-7tr 5層・H26-8tr 5層、下層:H26-6tr 5層・H26-7tr 6層・H26-8tr 6層)検出した。さらに、下層となるH26-7tr 6層では遺構の可能性のある黒色土を確認しており、下層の包含層は遺構面となる可能性が高い。

なお、これらの遺物包含層からは時期の特定できるものとして、上層では中世の磁器(H26-7tr 5層)が、下層では弥生時代後期、古代、中世の遺物が出土している。また、H26-2trの遺構(①層)からは、鉄滓が出土した。

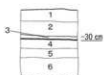
②地区2(図3-4、写真図版3・4)

遺跡の広がるトレンチ:H26-17tr・H26-18tr・H27-1tr

地区2は、地区1の南に位置する。遺跡は現地表面から30～46cm下で検出した。H26-17tr・H26-18trでは、遺物包含層が3層確認(5～7層)でき、7層では土坑状の遺構を確認している。

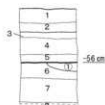


図3-3 安用団地トレンチ位置図



1. 耕作土。
2. 底土。
3. 黄褐色(109R/2)硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色(109R/2)砂質じりの粘質土。
5. 暗オリーブ褐色(109R/3)砂質土。
6. 暗オリーブ褐色(109R/3)砂質土。

H26-1tr 変型



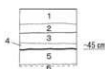
1. 耕作土。
2. 底土。
3. 褐色(109R/4)粘質土。
4. いぶい黄褐色(109R/2)砂を多く含む粘質土。
5. 褐色(109R/4)強い粘質土。わずかに砂が混じる。
- ①: 緑褐色(109R/3)粘質土。
6. 黄褐色(109R/2)砂が混じり強い粘質土。
7. 黄褐色(109R/2)砂が多く混じり粘質土。
8. 緑褐色(109R/3)砂質土。

H26-2tr 変型



1. 耕作土。
2. 底土。
3. 黄褐色(109R/2)硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色(109R/2)粘砂質じりです。硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色(109R/2)粘質土。
6. 黄褐色(109R/3)砂質土。

H26-6tr 変型



1. 耕作土。
2. 底土。
3. 黄褐色(109R/2)硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色(109R/2)わずかに粘質土を挟む砂質土。
5. 黄褐色(109R/2)粘質土を挟む砂質土。透水性土。
6. 黄褐色(109R/2)大層までの砂層を含む強い粘質土。透水性土。透水性の可能性がある黄褐色土を指示。

H26-7tr 変型



1. 耕作土。
2. 底土。
3. 黄褐色(109R/2)。2層と4層が混じり合う。
4. 黄褐色(109R/2)わずかに粘質土を挟む砂質土。
5. 黄褐色(109R/2)大層までの砂層を含む強い粘質土。透水性土。
6. 黄褐色(109R/2)大層までの砂層を含む強い粘質土。透水性土。
7. いぶい黄褐色(109R/4)花崗岩が風化した緑褐色砂～大層～砂層からなる砂層。

H26-8tr 変型



1. 耕作土。
2. 底土。
3. 暗オリーブ褐色(109R/3)かたくしまった粘質土。
4. 黄褐色(109R/2)粘砂～細砂質じりの粘質土。
5. 暗オリーブ褐色(109R/3)粘砂～細砂質じりの粘質土。透水性土。

H26-12tr 変型



1. 耕作土。
2. 底土。
3. 黄褐色(109R/4)かたくしまった粘質土。
4. 灰色(109R/4)粘砂～大層までの砂層を含む強い粘質土。透水性土。
5. 暗オリーブ褐色(109R/3)。粘砂～大層(砂層)からなる砂層。

H26-13tr 変型

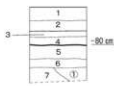


地区 1



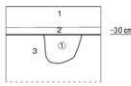
1. 耕作土。
2. 底土。
4. いぶい黄褐色(109R/2) 0.5m程度の中層の混じりした砂土。
5. いぶい黄褐色(109R/2)粘質土。3層に比べ粘性が強い。
6. 強い黄褐色(109R/4)砂質じりの粘質土。
7. 黄褐色(109R/2)粘砂～中層。
8. 黄褐色(109R/2)粘砂～中層。

H26-17tr 変型



1. 耕作土。
2. 底土。
3. 褐色(109R/4)硬くしまった粘質土。
4. いぶい黄褐色(109R/2)粘質土。3層に比べ粘性が強い。
5. いぶい黄褐色(109R/2)砂質じりの粘質土。
6. 黄褐色(109R/2)粘砂～中層。
- ①: 透水性土。
7. 黄褐色(109R/4)粘質土。

H26-18tr 変型



1. 耕作土。
2. 底土。
- ①: 透水性土。黄褐色(109R/2)砂質～シルト。
3. 灰褐色(109R/1)砂質～シルト。0.5mまでの層を含む。地山。

H27-1tr 変型

地区 2

図3-4 安用団地 土層断面図 1

5層は細砂の混じるにぶい黄褐色シルト層、6層は細砂～中砂混じりの暗褐色シルト層、7層は暗褐色砂質土層である。

一方、H27-1trでは作土層の直下で遺構を検出した(H27-1tr 3層)。本層は土層の特徴から、



地区 3
図 3-5 安用田地 土層断面図 2

H26-17tr・18tr の 5 層、若しくは 7 層に対応する可能性が高い。

なお、H26-17tr の遺構からは、時期の特定できる遺物として弥生時代中期の土器、H27-1tr の遺構からは古代の土器が出土している。

③地区 3 (図 3-5、写真図版 4・5)

遺跡の広がるトレンチ：H26-20tr・H26-22tr・H26-25tr・H26-27tr・H26-31tr

地区 3 は、地区 1 の南東側、工事対象地の中央東寄り位置する。遺跡は現地表面から 22 ～ 60 cm 下で検出した。検出層は、細砂～中砂の混じるシルトを主体とした土である。なお、H26-22tr では、細砂と中砂が薄く互層状に堆積する層をトレンチ全体で確認しており、流路の堆積層に遺物が包含されているものと考えられる。

H26-25tr・H26-27tr では遺物包含層が 2 層確認できた。両トレンチともに下層 (H26-25tr 6

層、H26-27tr 7層)では、上層(H26-25tr 5層、H26-27tr 6層)中から掘り込まれる遺構が検出されている。上層は細砂から中礫の混じるシルト層(黒褐色～暗褐色)、下層は細砂～中礫の混じるにぶい黄褐色砂礫層である。H26-31trでは4層・5層で遺物を確認している。4層は極細砂～細砂混じりの暗褐色シルト層、5層は中礫の混じる褐色砂礫層である。4層がH26-25tr・27trの上層の包含層に、5層が下層に対応する可能性が高い。

出土した遺物は、H26-22trの流路状の堆積層から出土するものは弥生時代中期～後期に限定されるが、その他のトレンチでは弥生時代～中世のものまで含まれる。

④地区4(図3-6、写真図版5・6・14)

遺跡の広がるトレンチ:H26-28tr・H26-29tr・H26-73tr・H26-74tr・H27-2tr～H27-4tr・H27-8tr・H27-10tr・H27-12tr

地区4は、地区3の西側、工事対象範囲のほぼ中央に位置する。遺跡は現地表面から20～31cm下で検出し、H26-28tr・H26-29tr・H26-73trでは2層の遺物包含層を検出した。上層(H26-28tr 5層・H26-29tr 4層・H26-73tr 4層)は細礫・中礫の混じる黒褐色・暗褐色土であり、下層(H26-28tr 6層・H26-29tr 5層・H26-73tr 5層)は1～10cm程度の礫の混じる砂質土である。H26-28trでは、下層でビット状の遺構を検出している。

H26-74trの遺物包含層(4層)は、土の特徴から下層の包含層に対応するものと考えられる。なお、H26-29trでは上層中から掘り込まれる遺構を確認しており、H26-28trの例を踏まえると、上層・下層ともに遺構面となる可能性が高い。

これらのトレンチと農道を挟んで北側に位置するのが平成27年度に追加調査を行ったトレンチである。H27-2tr・H27-4tr・H27-10trでは2層の遺物包含層を検出した。上層の包含層(H27-2tr 4層・H27-4tr 4層・H27-10tr 5層)は細礫を含む黒褐色粗砂層であり、26年度調査トレンチの上層の包含層に対応するものと思われる。下層の包含層は黒色シルト(H27-2tr 5層・H27-4tr 5層)、暗褐色粗砂(H27-10tr 6層)と若干様相が異なるため、これらの層がそのまま26年度調査トレンチの下層包含層に対応するものかどうかは明らかでない。また、H27-8trでは4層直下で地山を掘り込む遺構を検出している。

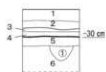
なお、出土遺物は時期の特定できるものでは、弥生時代中期～後期のものが大半となるが、上層の包含層にはわずかに古代・中世の土器が含まれる。

⑤地区5(図3-7、写真図版6)

遺跡の広がるトレンチ:H26-40tr～H26-43tr・H27-11tr

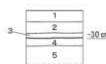
地区5は、地区4の南側に位置する。遺跡検出面は、現地表面から30～60cm下である。

遺物包含層は、H26-40tr・H26-41trでは3層(4～6層)確認した。いずれも中礫の混じる暗褐色・黒褐色土系の土であるが、礫の含有量や粘性で分層した。なお、H26-40tr 6層では、遺構を検出している。H26-42tr・H26-43trでは遺物包含層を1層確認した(H26-42tr 6層・H26-43tr 6層)。これらの層はH26-40tr・H26-41trの遺物包含層と土層の状況が類似していることから、いずれかの層に対応するものと考えられるが、各トレンチ間の距離があるため、どの



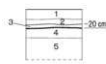
1. 耕作土。
2. 表土。
3. 黄褐色 (10YR4/4) 硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
6. に近い黄褐色 (10YR5/4) の粘土質の中硬の土。砂層。上面で厚さから厚み込まれる遺構を検出。

H26-28tr 南壁



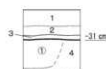
1. 耕作土。
2. 表土。
3. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色 (10YR4/4) の粘土質の中硬の土。砂層。上面で厚さから厚み込まれる遺構を検出。

H26-29tr 南壁



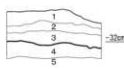
1. 耕作土。
2. 表土。
3. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色 (10YR4/4) の粘土質の中硬の土。砂層。上面で厚さから厚み込まれる遺構を検出。

H26-73tr 西壁



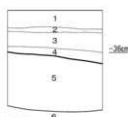
1. 耕作土。
2. 表土。
3. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色 (10YR4/4) の粘土質の中硬の土。砂層。上面で厚さから厚み込まれる遺構を検出。

H26-74tr 南壁



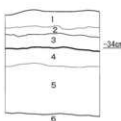
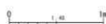
1. 耕作土。
2. 表土。
3. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色 (10YR4/4) の粘土質の中硬の土。砂層。上面で厚さから厚み込まれる遺構を検出。

H27-21tr 南壁



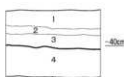
1. 耕作土。
2. 表土。
3. 黄褐色 (10YR4/4) 硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
6. 黄褐色 (10YR4/4) 硬くしまった粘質土。

H27-31tr 南壁



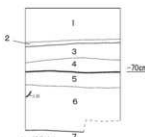
1. 耕作土。
2. 表土。
3. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色 (10YR4/4) の粘土質の中硬の土。砂層。上面で厚さから厚み込まれる遺構を検出。
6. 黄褐色 (10YR4/4) の粘土質の中硬の土。砂層。上面で厚さから厚み込まれる遺構を検出。

H27-48tr 南壁



1. 耕作土。
2. 表土。
3. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色 (10YR4/4) の粘土質の中硬の土。砂層。上面で厚さから厚み込まれる遺構を検出。

H27-81tr 北壁



1. 耕作土。
2. 表土。
3. 黄褐色 (10YR4/4) 硬くしまった粘質土。
4. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
5. 黄褐色 (10YR2/2) 硬くしまった粘質土。
6. 黄褐色 (10YR4/4) 硬くしまった粘質土。
7. 黄褐色 (10YR4/4) 硬くしまった粘質土。

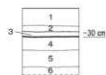
H27-101tr 北壁

地区 4

図 3-6 安用団地 土層断面図 3

層に対応するのか、明確な対応関係は把握できなかった。また、H26-43tr 6 層では、黒色粘質土が埋土となる遺構を検出した。

なお、遺物は H26-40tr 4 層で須恵器・弥生時代の土器、5 層では中世の土器が出土し、H26-41tr でも 4 層で須恵器、4・5 層で弥生時代の土器が出土している。H26-42tr・H26-43tr では、6 層から古代の土器が出土した。



1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. 黄褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。
5. 黄褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。

H26-40tr 南壁



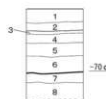
1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. オリーブ褐色(7.5YR3/4)砂質土。5.2mまでの暗褐色。
5. 暗褐色(10YR3/2)砂質土。5.2mまでの暗褐色。

H26-42tr 南壁



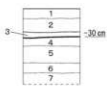
1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。
5. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。
6. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。

H26-44tr 北壁



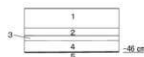
1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。
5. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。
6. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。

H26-61tr 南壁



1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。
5. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。
6. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。
7. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。

H26-41tr 南壁



1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. オリーブ褐色(7.5YR3/4)砂質土。5.2mまでの暗褐色。
5. 暗褐色(10YR3/2)砂質土。5.2mまでの暗褐色。

H27-11tr 北壁

地区 5



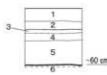
1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。
5. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。
6. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。

H26-54tr 北壁



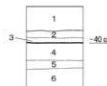
1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。
5. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。
6. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。
7. 黄褐色(10YR3/2)に緑くしまった砂質土。

H26-55tr 南壁



1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。
5. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。
6. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。

H26-59tr 北壁



1. 耕作土。
2. 砂土。
3. 暗褐色(7 SYR3/4)に緑くしまった砂質土。
4. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。
5. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。
6. 暗褐色(10YR3/2)～中緑(5.2m程度)の道に土質土。

H26-59tr 北壁

地区 6

図 3-7 安用田地 土層断面図 4

⑥地区6 (図3-7、写真図版6・7)

遺跡の広がるトレンチ: H26-54tr・H26-55tr・H26-59tr・H26-61tr・H26-62tr

地区6は、工事対象地の南側に位置する。遺跡検出面は現地表面から34～70 cm下である。遺物包含層は、H26-55tr・H26-59tr・H26-62trで2層(上層・下層)確認した。上層が粗砂～中礫の混じる黒褐色あるいは褐色土、下層は細砂から中礫の混じる暗・黒褐色シルト層である。上層ではH26-62tr 5層で、下層ではH26-55tr 7層で遺構を検出した。またH26-61trでは遺物包含層は1層(7層)であったが、土の特徴から上記3か所のトレンチでみられた下層に対応すると思われる。なお、7層では、直径20 cm程度のビット上の遺構を確認した。遺構埋土は、黒褐色の粘質土である。

これらのトレンチでは、遺構検出面はほぼ同様の特徴を示す中、H26-54trの遺構面(6層)は若干様相が異なり砂層であった。この砂層を掘り込むように遺構が存在した。

なお、出土遺物は、弥生時代後期の土器の割合が多いが、いずれのトレンチでも包含層の最下層から中世の遺物が出土している。

(2) 北竹ノ下Ⅱ遺跡

⑦地区7 (図3-8、写真図版7～9)

遺跡の広がるトレンチ: H26-76tr・H26-78tr・H26-79tr・H26-83tr～H26-88tr・H26-91tr・H26-93tr・H26-95tr～H26-97tr・H26-99tr

地区7は、工事対象範囲の西側に位置する。遺跡検出面は24～105 cm下と場所により状況が異なる。

遺物包含層はH26-79tr・H26-83tr・H26-85tr・H26-99trで2層(上層: H26-79tr 4層・H26-83tr 6層・H26-85tr 3層・H26-99tr 4層・下層: H26-79tr 5層・H26-83tr 7層・H26-85tr 4層・H26-99tr 5層)確認できたが、その他のトレンチでは1層であった。また、遺物包含層は基本的に砂・礫の混じる細砂・シルト層が主体となる。遺物包含層のうち、H26-76tr 5層・84tr 4層では、検出面で直径30 cm程度のビット状の遺構を確認した。

遺物は弥生時代前期～後期にかけてのものが主体となるが、H26-79tr 4層では須恵器、H26-83tr 7層・H26-99tr 4層・5層では中世の遺物、H26-88tr 5層では鉄滓が出土している。このような状況から、遺跡の主要な時期は弥生時代と考えられるが、場所によっては中世に至るまでの幅広い時期の遺跡が存在する可能性が高い。また、土の堆積状況から後世の堆積土と判断したH26-83tr 5層では北宋銭(写真3-5)が出土している。

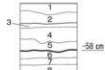


写真3-5
H26-83tr 出土
北宋銭(聖宗元宝)



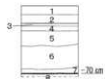
- 1: 旧耕作土。
- 2: 旧床土。
- 3: 基砂色(7.5YR3/2)硬くしめる。
- 4: 緑褐色(10YR4/3)緑褐色の混じる細砂。粘性あり。
- 5: 黄オリーブ褐色(7.5YR4/4)の1cm前後の中硬の混じるシルト。道標(10YR3/2)緑出面。

H26-76tr南壁



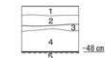
1. 旧耕作土。
2. 旧床土。
3. 緑褐色色 (7.5YR2/3) 非常に硬くする。
4. 緑褐色 (10YR3/4) しまりのない砂質層。
5. 黄褐色 (10YR5/6) 5mm前後の土塊の並ぶ粗砂
6. にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルト層。
7. 緑褐色 (10YR3/4) 細砂〜中程度じりのシルト。
8. 黄褐色 (10YR5/4) 5mm〜5cm程度までの塊層。

1026 834x 全聯



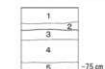
- 1 旧耕作土。
- 2 旧床土。
- 3 暗褐色(7.5YR2/4)かたしまる。
- 4 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土。
- 5 褐色(10YR4/6)砂並じりのシルト層。
- 6 褐色(10YR4/6)砂層。
- 7 暗褐色(10YR3/3)粘砂。
- 8 暗褐色(10YR3/3)粘質土。道端堆積

H26-861r



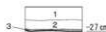
- 1: 耕作土。
- 2: 旧床土。
- 3: 黒褐色(7.5YR3/2)非常に硬くしめる
- 4: 暗褐色(10YR3/3)→ ϕ 5mm程度までの粒が混じる細砂。
- 5: 黒褐色(10YR2/2)→ ϕ 3mm前後の粒が混じるシルト。

H26-91tr北壁



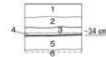
- 1 旧耕作土。
- 2 旧床土。
- 3 褐色(10YR4/3)腐質土。
- 4 褐色(10YR4/4)～φ20cm程度までの根を含む砂礫層。
- 5 暗褐色(10YR3/2)φ1～3cm前後の根層。
- 6 暗褐色(10YR3/4)～φ3cm程度までの根が密にみられる。

H26-Salt.r.25.92



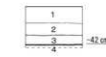
- 1: 耕作土。
2: 川床土。
3: にぶい赤褐色(5YR4/4)砂質土。
4: 暗褐色(7.5YR3/4)3mm程度の中礫の混じる細砂層。
通礫: 黒褐色(7.5YR2/2)粘質土。

H26-78tr南壁



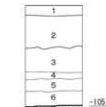
- 1: 耕作土。
- 2: 旧底土。
- 3: 暗褐色(7.5YR2/3)非常に硬くしまった砂質土。
- 4: 暗褐色(7.5YR2/2)硬くしまる砂質土。
- 5: 暗褐色(10YR3/6)Φ3mm前後の中礫が散在する細一粗砂。遺構群北面(遺構: 黒褐色(10YR3/4))
- 6: 褐色(10YR4/6)粗砂層。

1275-84+e 國際



- 1 旧耕作土。
- 2 旧床土。
- 3 褐色(7.5YR4/4)しまる。
- 4 暗褐色(7.5YR3/3)φ10cm程度までの中粒が混じる細砂層。

H26-8.7tr 西醫



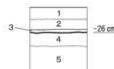
- 1 表土。
- 2 表土(はつち)の道を掘った際の土か、道側壁(みぎかき)に落ちた土。
- 3 黄褐色(きやうかっしき)の土(5YR2/2)非常に硬くしめる。
- 4 暗褐色(あんかっしき)の土(10YR2/4)粘質土層。
- 5 暗褐色(あんかっしき)の土(7.5YR4/4)粘質土。
- 6 褐色(かっしき)の土(10YR2/4)0.2mm前後までの細礫(こりく)が混じるシルト。
- 7 灰黄褐色(かいわうかっしき)の土(10YR4/2)極細砂・粗砂。
- 8 黄褐色(きやうかっしき)の土(10YR2/2)極細砂がわずかに混じる暗砂。

H26-931r 東型



- 1 製作士。
- 2 田保士。
- 3 褐色 (7.5YR4/4) 硬くしめる。
- 4 黒褐色 (10YR2/2) → ϕ 3mm 程度までの粒が混じる細砂。
- 5 黒褐色 (10YR2/2) → ϕ 3mm 程度の粒が混じる細砂。
- 6 暗褐色 (10YR2/3) ϕ 3~5mm 程度の粒が混じるシルト。
- 7 黒褐色 (10YR2/2) 粘土。

H26-971 南東



- 1: 耕作土。
- 2: 田床土。
- 3: 黒褐色(10YR3/1)硬くしまった土。
- 4: 黒褐色(10YR3/2)φ3mm程度の細粒の混じる細砂。
- 5: 黒褐色(10YR2/2)φ3mm程度の細粒の混じる細砂、
4層に比べ粘性が強い。

H26-7944 東



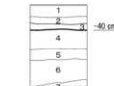
- 1 旧耕作土。
- 2 旧床土。
- 3 黒褐色(10YR2/2)硬くしまる。
- 4 黒褐色(10YR2/2)～ Φ 15cm程度までの
根が通じる軟弱。

H26-05r 西型



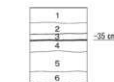
- 1: 旧耕作土。
- 2: 旧床土。
- 3: 雑褐色(7.5YR2/4)硬くしめる砂質土。
- 4: 雑褐色(10YR2/4)硬くしめる砂質層。
- 5: 雑褐色(10YR3/3)〜 ϕ 2cm程度砂・細礫が混じるシルト。
- 6: 褐色(10YR4/4)〜 ϕ 20cm程度までの礫が混じる砂質層。

H26-88tr 蒸



- 1 旧跡作土。
- 2 旧底土。
- 3 褐色(7.5YR4/4)硬くしめる。
- 4 雑褐色(10YR3/4)～の2mm程度までの礫が混じる細砂。
- 5 雑褐色(10YR3/4)～の2mm前後の中礫が混じる粗砂。
- 6 褐色(10YR4/6)粗砂。
- 7 黄褐色(10YR2/3)粘土。

H26-951r 西



- 1: 旧耕作土。
 - 2: 旧床土。
 - 3: 褐色(7.5YR4/6)軽くしまった粗質土。
 - 4: 暗褐色(10YR3/3)への3mm程度までの礫が混じる細砂。
 - 5: 褐色(10YR4/4)への3mm前後まで礫が混じる細砂。
- 4層に比べ、しまりあり。

H26-921 r 75

地区7

图3-8 安用团地 土层断面图5



1. 砕石土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/4) の締り度 (2) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
6. 1. に近い埋戻色 (100R4/2) の締り度 (2) の締り土。
7. 埋戻色 (100R4/4) の締り度 (2) の締り土。

K26-37tr 東壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. オリーブ埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
6. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-44tr 南壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 1. に近い埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. オリーブ埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
6. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-45tr 南壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. オリーブ埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
6. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-46tr 南壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-48tr 南壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. オリーブ埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-50tr 西壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. オリーブ埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
6. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-52tr 東壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
6. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-53tr 南壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-57tr 南壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. オリーブ埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-58tr 北壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-60tr 北壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/2) の締り土。

K26-62tr 西壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 1. に近い埋戻色 (100R4/4) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
6. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
7. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。

K26-64tr 東壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
6. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。

K26-66tr 北壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
6. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。

K26-67tr 北壁



1. 埋戻色土。
2. 底土。
3. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
4. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
5. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
6. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。
7. 埋戻色 (100R4/4) の締り土。

K26-68tr 南壁



図 3-10 安用団地 土層断面図 7

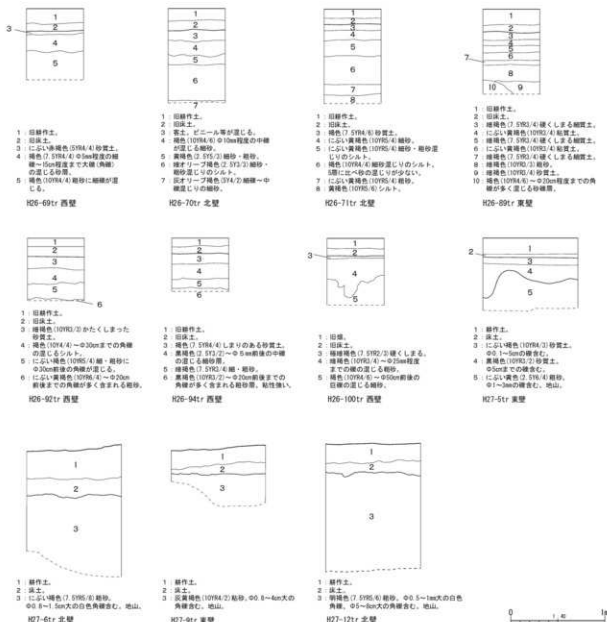


図3-11 安用団地 土層断面図8

3 遺物

(1) 弥生時代の遺物 (図3-12・13、写真図版15・16)

① 図3-12 1～4は中期前半の遺物である。1・2は折り曲げ口縁の甕で、1は口縁の屈曲が強く、逆し字状に近くなり、2は屈曲がやや弱く「く」の字状になる。1の口縁上面には櫛描波状文が施される。2は口縁端部に浅い刺突文が施される。3は貼付突帯の甕で、突帯端部には刺突文が施される。4は直線的に外傾する甕の口縁部である。口縁端部よりやや下がったところに現状で2条の突帯を確認できる。また口唇部及び突帯には、浅く小さな刺突が施される。

5～11は中期中葉～後葉の遺物である。5～7は壺の口縁部で、5は大型広口壺、6・7は小型の広口壺となる。また、5・6は口縁端部が上下に肥厚し、外面に凹線文が施される。8は甕である。口縁部は「く」の字状に屈曲し、端部は上方へつまみ上げられるが、端部は欠損して

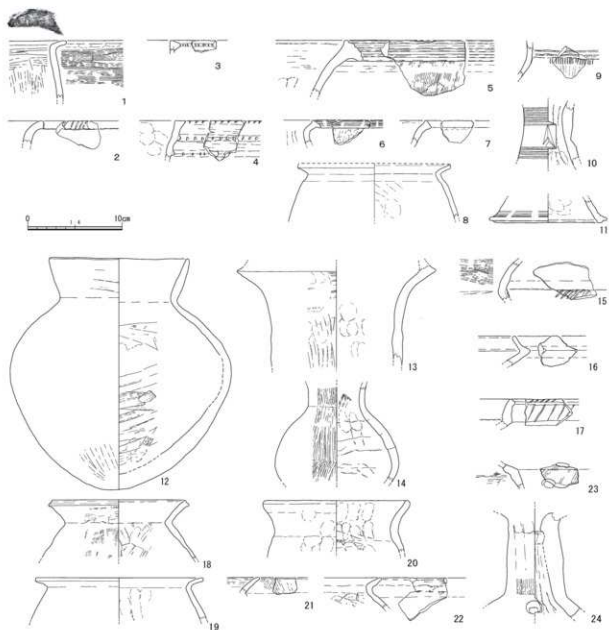


図3-12 安用団地 出土遺物 1
 H27-3tr 5層 (1・23) H26-86tr 8層 (2・21) H26-85tr 3層 (3) H26-87tr 4層 (4・6・10・19) H26-17tr 遺構 (7) H26-22tr 5層 (8・11・13・17・18・24)
 H26-73tr 4層 (9) H27-10tr 5層 (14) H26-79tr 4層 (15) H26-61tr 5層 (16) H26-55tr 7層 (20) H26-55tr 6層 (22)

図3-12 安用団地 出土遺物 1

いる。9～11は高坏である。9は坏部で、外面に弱い凹線を現状で2条確認でき、その下には列点文が施される。10は脚柱部である。外面には末貫通の矢羽根透かしが施され、その上下には細く鋭い多条沈線が巡らされる。11は脚部で、裾外面及び端部に凹線が巡る。

12～24は後期の遺物である。12～17は壺である。12はほぼ完形の広口壺で、胴部は胴中位よりやや上に最大径をもつ。13・16は複合口縁壺で、13は頸部から一次口縁部の破片である。一次口縁上端部には二次口縁の剥離痕が残る。14・15は長頸壺で、14は頸部から胴部にかけてで、なで肩の胴上端部から頸部はほぼ直立する。15は頸部で、胴部との境に突帯が1条巡る。17は二重口縁壺の二次口縁部で、外面及び端部に刺突文が施される。18～22は甕である。胴部から口

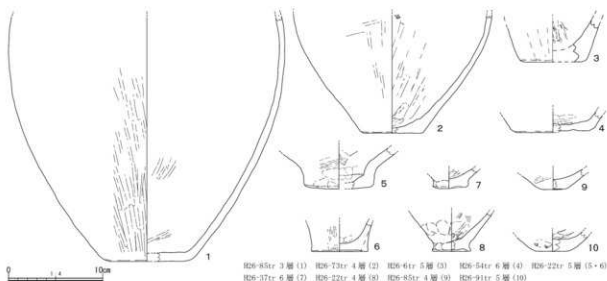


図3-13 安用団地 出土遺物2

縁部が強く外反するもの(18・19・21・22)と口縁部が緩やかに立ち上がりながら外反するもの(20)がある。23・24は高坏である。23は有段の裾部をもつ高坏の脚部で、上下二段に円孔が穿たれる。24は柱部から裾部の破片である。中空の柱部は裾部付近で外方に屈曲し、柱・裾境には弱い稜をもつ。また、裾部には円孔が穿たれる。

②図3-13 1～10は中期・後期の底部である。平底(1～7)、上げ底(8)、丸底に近い平底のもの(9・10)がある。さらに平底のものには、底部から丸みをもち立ち上がるもの(1～3)、底部から一旦短く立ち上がるもの(5・7)、底部からわずかに外反しながら立ち上がるもの(6)が存在する。1～5は壺、6～10は甕の底部となる可能性が高い。

(2) 古代の遺物(図3-14、写真図版16)

1・2は須恵器坏蓋である。1はつまみをもたず、坏身となる可能性もある。2はやや扁平化した宝珠つまみをもつ。3～8は須恵器坏身である。3は内湾しながら立ち上がる口縁部で、端部内面に段を有する。4は小型の坏で、口縁部が短く立ち上がる。5・6は直線的に外傾する口縁部で、端部は先細りする。7は底部から体部である。立ち上がり部には、回転ヘラ削りが施される。8は深身の坏の体部から口縁部である。口縁部にかけてゆるやかに外反する。坏底部と口縁部の境には沈線が一条巡る。9は高坏の坏底部から脚部である。脚部はハの字状に開き、裾部は外方に向かいやや強く屈曲する。

これらは破片のため時期比定が難しいが、2はつまみの形状等から8世紀中頃のものと考えられる。

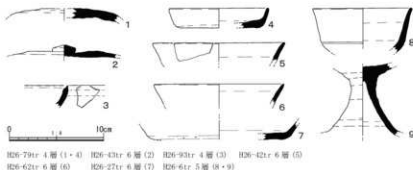


図3-14 安用団地 出土遺物3

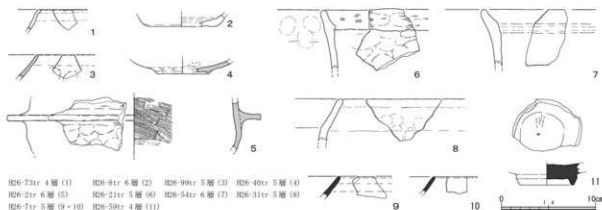


図3-15 安用団地 出土遺物4

(3) 中世の遺物 (図3-15、写真図版 17)

1・2は土師器である。1は、壺の口縁部で、口縁端部が緩やかに外反する。吉備系の土師器壺の可能性ある。3・4は、和泉型瓦器壺である。3は体部から口縁部にかけての破片であり、体部外面には指頭痕が明確に残る。4は底部に断面三角形の高台が付く。表面は摩滅のためか瓦器特有の黒色が確認できず、一見すると土師器のように見える。これらは明確な時期は言えないものの、3のように高台が付えられることから12～13世紀後半までに収まると考えられる。5は瓦質の茶釜の胴部である。胴上部に長さ約2.2cm、端部厚約6.5mmのしっかりとした鐙が巡る。6・7は釜の胴上部から口縁部にかけての破片で、内湾する口縁を有する。6は口縁全体に薄く形骸化した鐙が巡らされる。7は、断面では鐙の接合痕が確認できず、浅い凹線により段が表現されている可能性が高い。6・7は土師器鐙の形骸化が進むことから15～16世紀代のものと考えられる。8は土師器鍋の胴上部から口縁部の破片である。胴部と口縁部の境は明確な稜をもち、口縁部はわずかに内湾しながら外傾する。9は白磁碗の口縁部である。10・11は青磁碗である。10は碗の口縁部で、口縁は直口し、外面はナデによりわずかにくぼむ。11は碗の底部である。高台底面は面取りがなされ、全面が接地する。見込み内面の中央付近にはケズリが施され、中央には2×3.6mmの不整形な穴が認められる。15世紀代のもと考えられる。

4 小結

以上のように安用団地では、北竹ノ下Ⅰ遺跡・北竹ノ下Ⅱ遺跡とともに、部分的に遺跡の存在しない範囲をもちながらも、包蔵地のほぼ全域で遺跡の広がりを確認できた。

遺跡の時期については、出土遺物から主に弥生時代中期～後期、古代(8世紀代)、中世(12世紀代～15世紀代)と幅広いものであることが明らかとなった。また、これらの遺物は、上述のような各時期のものが、それぞれどこかの場所集中するといった状況ではなく、調査範囲全域で出土している。このような状況から、当地域では遺跡の性格自体は試掘調査では明らかにできなかったが、弥生時代以降長期間にわたり、人々の生活が営まれていたことを確認した。

なお、遺跡の存在しない箇所については、角礫や泥が混入するような土石流的な堆積も確認されており、本来存在していた遺跡が失われている可能性もあるが、詳細は明らかにできない。(渡邊)

第4節 宮之内団地

1 団地の概要

宮之内団地は、西条市の北西部に位置し、大明神川左岸の同河川によって形成された高位扇状地上に所在する。調査地付近の地形は西から東へ向かって緩やかに傾斜しており、現地表面の標高は西側で約 27 m、東側で約 21.5 m である。調査地の現況は畑地や水田及び耕作放棄地である。

宮之内団地のほ場整備範囲内には、北西部に福成寺横道下Ⅰ遺跡・福成寺横道下Ⅱ遺跡、北東部に河北中学校遺跡、南部に宮之内Ⅰ遺跡・宮之内Ⅱ遺跡、東部に日切大師西遺跡が所在及び隣接していた。今回の試掘調査により、遺跡の広がる範囲を宮之内遺跡と改め、遺跡の統合と範囲の見直しを行っているが、本節については旧遺跡名かつ旧遺跡範囲を用いて報告する。

調査期間：平成 27 年度 7 月 28 日～30 日、10 月 19 日～26 日、11 月 27 日

平成 28 年度 10 月 17 日～21 日

調査箇所数：104 か所



図3-16 宮之内団地トレンチ位置図

2 層序

調査対象範囲が南北約 490 m、東西約 500 m と広大であり、各トレンチ間の詳細な層の対応関係をとることは非常に困難であった。そのため、調査対象範囲を福成寺横道下Ⅱ遺跡周辺、河北中学校遺跡周辺、宮之内Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺、日切大師西遺跡周辺の4地区に分けて層序を概観する。

(1) 福成寺横道下Ⅱ遺跡周辺 (図3-17～20、写真図版18～21)

当遺跡周辺では、19tr～34tr、42tr～55tr、93tr、95trを設定し調査を行った。

1層は現代の畑や水田等の耕作土である。

2・3層は現代の床土であり、下位に酸化鉄の集積がみられる。42trや49tr等では、現代床土の直下に近現代の旧耕作土及び旧床土が広がる。また、現代の床土や旧床土直下には、褐色系の細砂混じりシルト、黒色系の細砂混じりシルト、明褐色や黄褐色系の粗砂が広がる。

24tr 4層、25tr 4層、29tr 3層、34tr 4・5層、43tr 4～7層、49tr 6・7層、50tr 4・5層、54tr 8層、93tr 4・5層、95tr 4・5層等は、褐色系の細砂混じりシルトで無遺物である。基質はいずれも細礫や細砂が混じるシルトで、比較的安定した堆積環境が想定される。無遺物層でブロックを伴わないことから人為による客土等ではなく、自然の営力による堆積土と考えられる。

24tr 5・6層、26tr 4層、29tr 4層、31tr 4層、32tr 4層、33tr 4層、34tr 6層、44tr 4層、46tr 6層、49tr 8層、53tr 6層、55tr 6層は、黒色系の細砂混じりシルトで、古代～中世までの遺物を包含する。遺物は古代のものより中世の方が多く、層厚はおおむね5～40 cm程度である。全体的に土壌化が極めて顕著で、24trのみ色調や土質の差異から2層に細分可能である。上層の24tr 5層は、土師器の三足付土釜脚部を包含し、堆積時期は16世紀初頭頃を上限とする。下層の24tr 6層は、上層と比べ土壌化が進行し黒色が強い。12～13世紀頃と考えられる瓦器を含み、堆積時期は上層より古く13世紀頃を下限とする。色調や土質から26tr 4層、29tr 4層、



図3-17 福成寺横道下Ⅱ遺跡周辺トレンチ位置図

44tr 4層、46tr 6層は24tr 5層と、31tr 4層、32tr 4層、33tr 4層は24tr 6層と対応すると考えられる。ただし、24tr 以外は上層の遺物包含層が耕作等で削平されている可能性も考えられる。

19tr 2層、20tr 3層、21tr 6層、22tr 3層、23tr 3層、24tr 7層、25tr 6層、26tr 5層、27tr 4層、28tr 4層、29tr 5層、30tr 4層、31tr 5層、32tr 5層、33tr 6層、34tr 8層、45tr 6層、47tr 4層等は、明褐色や黄褐色系のいずれも細粒堆積物である。各トレンチの最下層にみられ、砂岩・花崗岩礫を含み無遺物層であることから、調査地における地山と考えられる。各トレンチ間で風化の度合いや色調に差異がみられるが、下層ほどよく締まり大礫混じりとなる。地山の傾斜方向は現地地形と同様の状況で、標高が高い西側では耕作土直下と浅い場所にあり、標高が低くなる東側ほど比較的深い場所で確認した。東側では地山が地中深くにあるため、褐色系細礫混じりシルトや遺物包含層が西側より厚く堆積している。

なお、①・②層は遺構の可能性が高い掘り込みであり、褐色系細砂混じりシルトや遺物包含層、地山の直上で確認している。

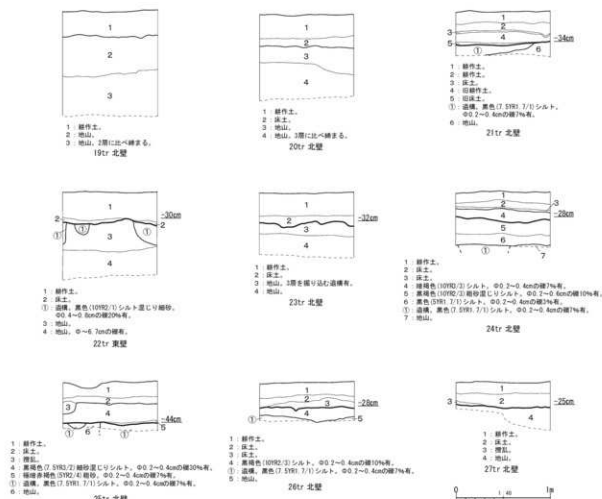


図3-18 宮之内団地 土層断面図 1

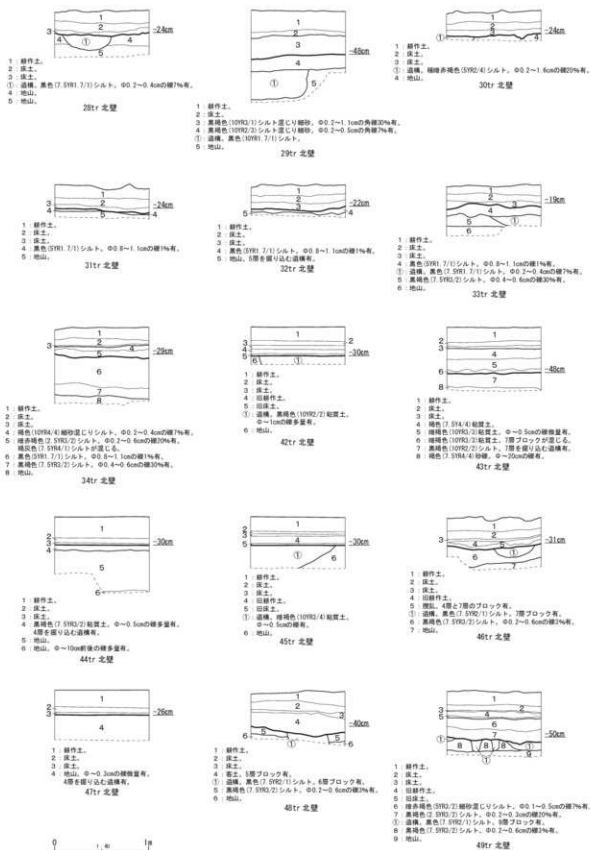


図3-19 宮之内内土 土層断面図2

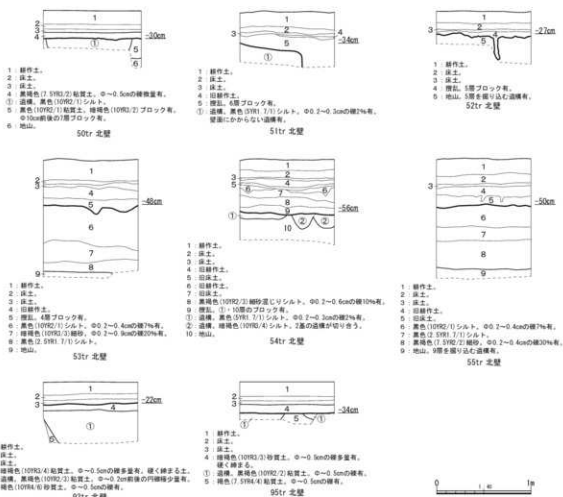


図3-20 宮之内団地 土層断面図3

(2) 河北中学校遺跡周辺 (図3-21 ~ 23、写真図版22・23)

当遺跡周辺では、35tr ~ 41tr、96tr ~ 98trを設定し調査を行った。基本的な層序は、福成寺横道下II遺跡周辺と同じである。

1層は現代の畑や水田等の耕作土である。

2・3層は現代の床土であり、下位に酸化鉄の集積がみられる。現代の耕作土や床土の直下には、褐色系の細砂混じりシルト、黒色系の細砂混じりシルト、明褐色や黄褐色系の粗砂が広がる。

35tr 4・5層、36tr 4層、39tr 4層、40tr 4・5層、41tr 3層、98tr 2・3層は、褐色系で細砂や細砂混じりシルトや粘質土を基質とする細粒堆積物である。無遺物でブロックを伴わないことから、自然の営力による堆積土と考えられる。

37tr 4層、39tr 5層、40tr 6・7層、41tr 4層、96tr 4層、97tr 4層、98tr 4層は、黒色系の細砂混じりシルトで、遺物を包含する。遺物は時期不明のものも多く、ごくわずかな特定可能な遺物には古墳時代後期~中世までのものがあり、中世が最も多い。層厚はおおむね15 ~ 45 cm程度である。全体的に土壌化が極めて顕著で、40trのみ色調や土質の差異から2層に細分可能である。上層の40tr 6層は、遺物から堆積時期は中世頃までと考えられる。続く40tr 7層は、遺物が細片のため時期は不明である。色調、土質、検出高から39tr 5層や41tr 4層は40tr 6層と、

96tr 4層は97tr 4層や98tr 4層と対応すると考えられる。

35tr 6層や36tr 5層等は、明褐色や黄褐色系のいずれも細粒堆積物である。本層は無遺物であり、調査地における地山と考えられる。地山の傾斜方向は、現地形と同様に西側に向かって傾斜する。

なお、①層は遺構の可能性が高い掘り込みで、遺物包含層や地山の直上で確認した。



図3-21 河北中学校遺跡周辺トレンチ位置図

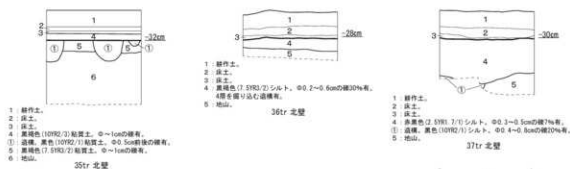


図3-22 宮之内団地 土層断面図4

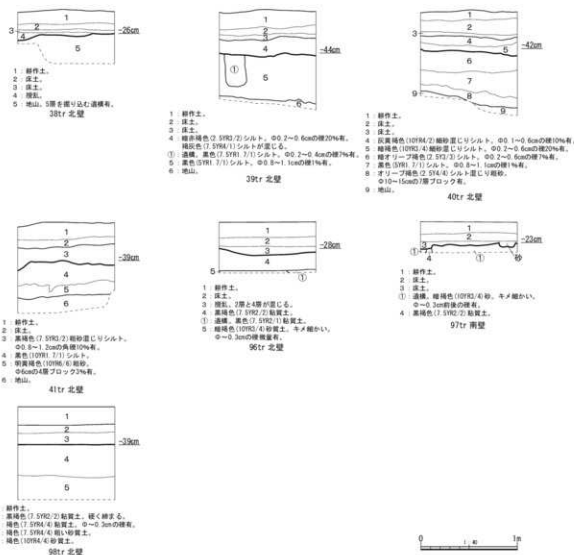


図3-23 宮之内内庭 土層断面図5

(3) 宮之内Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺 (図3-24～27、写真図版23～27)

当遺跡周辺では、1tr～18tr、56tr～62tr、86tr、90tr、99tr～104trを設定し調査を行った。基本的な層序は、福成寺横道Ⅱ遺跡周辺と同じである。

1層は現代の畑や水田等の耕作土である。

2・3層は現代の床土であり、下位に酸化鉄の集積がみられる。現代の床土直下には、真砂土等の客土を3tr～8trで確認している。また、床土や客土直下では、4tr、5tr、59tr、86tr、90tr等近現代の旧耕作土及び旧床土が広がる。現代の床土や旧床土直下には、褐色系の細砂混じりシルト、黒色系の細砂混じりシルト、明褐色や黄褐色系の粗砂が広がる。

6tr 4～6層、7tr 5層、11tr 3・4層、12tr 2・3層、14tr 4層、15tr 3・4層、16tr 4層、17tr 3層、18tr 3層、56tr 3層、57tr 3層、58tr 3層、59tr 5層、86tr 7層、103tr 4・5層、104tr 5層は、褐色系の細砂混じりシルトで無遺物である。基質はいずれも細砂や細砂が混じるシルトで、比較的安定した堆積環境が想定される。無遺物でブロックを伴わないことから、自然の営力による堆積土と考えられる。

2tr 4層、3tr 6層、4tr 6・7層、5tr 5・6層、6tr 7層、7tr 6層、8tr 5層、10tr 5層、12tr 4～7層、13tr 3・4層、14tr 5層、15tr 5・6層、16tr 2・3・5層、56tr 4層、57tr 4層、58tr 4層、59tr 4・6層、60tr 3層、86tr 8・9層、90tr 6層、99tr 5・6層、100tr 10・11層、101tr 4・5層、102tr 9層、103tr 6・7層は、黒色系の細砂混じりシルトで遺物を含む。時期不明の遺物が多い中、わずかながら弥生時代後期～中世までの遺物が確認できている。時期が特定可能な遺物の中では、中世のものが最も多い。層厚はおおむね5～40 cm程度である。全体的に土壌化が極めて顕著で、12tr は色調や土質の差異から4層に細分可能である。12tr 4層は、13～14世紀頃と考えられる瓦器土釜や白磁を含むし、12tr 5層は古代～中世頃の土師器や須恵器、12tr 6層は古代頃の土師器や瓦を含む。また、土壌化が進む12tr 6層は、色調や検出高が時期不明の土器を含む15tr 6層と対応すると考えられ、古代～中世までの時期幅で複数の遺物包含層が重なる。色調と土質から4tr 4層、3tr 6層、4tr 5層、5tr 5層、10tr 5層、13tr 3層、14tr 5層、15tr 5層は12tr 4層と、5tr 6層、6tr 7層、13tr 4層は12tr 5層と、16tr 5層は12tr 6層と対応すると考えられる。また、99tr 5層は100tr 10層、101tr 4層、103tr 6層、104tr 6層と、99tr 6層は100tr 11層、101tr 5層、102tr 9層、103tr 7層とそれぞれ対応すると考えられる。

1tr 2～4層や2tr 6層等は、明褐色や黄褐色系のいずれも細粒堆積物である。本層は無遺物であり、調査地における地山と考えられる。地山は、標高が高い西側のトレンチでは比較的浅く、東あるいは南側は深い場所で検出され、南方を東流する大明神川に向かって傾斜している。

なお、①層は遺構の可能性が高い掘り込みであり、褐色系細砂混じりシルトや遺物包含層、地山の直上で確認した。

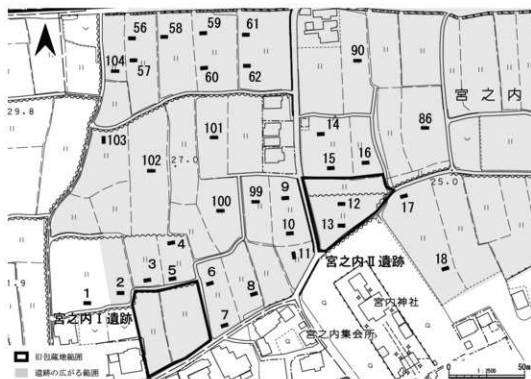
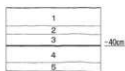


図3-24 宮之内Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺トレンチ位置図



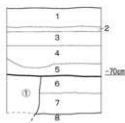
- 1: 耕作土。
2: 地山、 $\phi \sim 0.4\text{cm}$ の礫有
3: 地山。
4: 地山、 $\phi \sim 15\text{cm}$ の礫有。
itr 北壁

11月 主



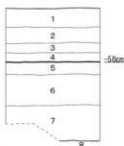
- 1: 耕作土。
- 2: 床土。
- 3: 客土。Φ~0.5cmの礫有。
- 4: 黒色(TOYR1.7/1)シルト。Φ0.2cmの礫微量有。
- 5: 黒褐色(SYR2.1)砂質〜シルト。Φ~0.6cmの礫有。
- 6: 地山。

2 tr 北壁



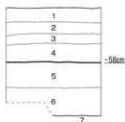
- 1 耕作土。
- 2 床土。
- 3 田耕作土。褐色色(10YR5/1)と暗褐色(7.5YR5/0)砂質土が互層状に並じる。
- 4 客土。φ〜0.5mmの礫有。
- 5 田耕作土。φ〜0.4mmの礫有。
- ① 道積。黒色(10YR2/1)砂質〜シルト。φ〜0.3mmの礫有。
- 6 黒色(10YR1/1)シルト。φ0.2mmの礫少量有。
- 7 黒褐色(5YR3/1)砂質〜シルト。φ〜0.4mmの礫有。
- 8 地山。

3 tr 北壁



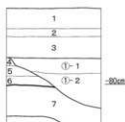
1. 耕作土。
2. 床土。
3. 客土。
4. 旧耕作土。◎～0.4mの積有。
5. 黒色(10YR2/1)砂質～シルト。◎～0.3mの積有。
6. 黒色(10YR1.2/1)シルト。◎0.2mの積微量有。
7. 黒褐色(SYR7/1)砂質～シルト。◎～0.4mの積有。
8. 地山。

4 北壁



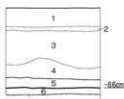
- 1 耕作土。
- 2 床土。
- 3 客土。
- 4 田耕作土。
- 5 黒色(10YR1.7/1)シルト。Φ~0.4cmの礫有。
- 6 黒褐色(SYR1/1)砂質~シルト。Φ0.2mmの礫粒量有。
- 7 地山。

6 tr 北壁



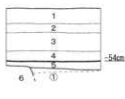
- ① 緑作土。
 ② 灰土。
 ③ 客土。φ=0.5cmの棒有。
 ④ ① 1 道横。黒城崎 (10YR2/2) 砂質～シルト。φ=3cmの棒有。
 ⑤ ② 2 道横。暗灰色 (5YR4/1) 砂質～シルト。φ=30cmの棒有。
 ⑥ 反黄城崎 (10YR4/2) 砂質土。φ=3cmの棒有。
 ⑦ 黒城崎 (10YR2/1) 砂質～シルト。φ=0.5cmの棒有。
 ⑧ 反暗色 (7.5YR4/2) 砂質土。φ=0.3cmの棒有。
 ⑨ 黒城崎 (5YR3/1) 砂質～シルト。φ=0.4cmの棒有。
 ⑩ H4a。

6 tr 北壁



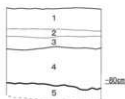
- 1: 耕作土。
- 2: 床土。
- 3: 客土。
- 4: 用耕作土。
- 5: 灰褐色(7.5YR4/2)砂質土。②~0.3mの硬有。
- 6: 褐色(7.5YR4/4)砂質土。
- 7: 地山。

7 月 北盤江



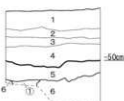
- 1 耕作土。
2 床土。
3 客土。
4 田耕作土。
5 褐色(7, 10YR4/4)砂質土。
① 過渡、黒褐色(10YR2/1)砂質〜シルト。②〜③ 3mの礫有。
6 地山。

8 吋 北壁



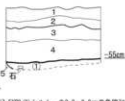
- 1: 耕作土。
- 2: 床土。
- 3: 旧耕作土。
- 4: 黄褐色(10YR2/3)シルト。φ0.5~0.8mmの角礫7%有。
- 5: 暗山。

9 tr 北壁



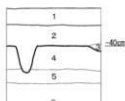
- 1: 耕作土。
- 2: 床土。
- 3: 旧耕作土。
- 4: 旧耕作土。
- 5: 黒色(10YR2/1)シルト。
- ①: 過積。黒色(10YR1, 7/1)シルト。
- 6: 地山。

北壁



- 1: 耕作土。
- 2: 床土。
- 3: 黒褐色(7.5YR3/2)シルト。Φ0.2~0.8mmの角礫7%有。
- 4: 黒色(7.5YR2/1)シルト。Φ0.6~2mmの角礫7%有。
- 1: 腐礫。黒暗褐色(7.5YR2/2)シルト混じり腐細砂。
- 5: 砂山。

111r 西9



- 1 耕作土。
2 黒褐色(10YR3/1)砂質土。Φ0.1~0.4cmの礫有。
3 明黄褐色(10YR6/5)砂礫。Φ0.1~0.5cmの礫有。
4 黒色(10YR2/1)砂質〜シルト。Φ0.1~0.3cmの礫有。
Φ5.0cmの礫少量有。
5 黒褐色(10YR2/3)砂質土。Φ0.1~0.5cmの礫有。
6 黒色(2.5YR2/1)砂質〜シルト。Φ0.1~0.4cmの礫有。
7 黒色(10YR2/1)砂質〜シルト。Φ0.1~0.3cmの礫有。
8 砂山。

125c 南豐

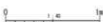
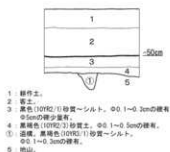
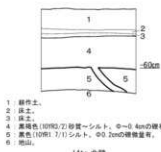


图 3-25 宮之内团地 土層断面图 6



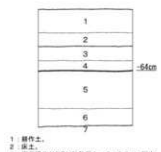
13tr 南壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト。φ0.1~0.3mmの礫有。
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。φ0.1~0.3mmの礫有。
- 5 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト。φ0.1~0.3mmの礫有。



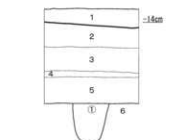
14tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。φ0.1~0.3mmの礫有。
- 4 黒褐色 (10YR2/1) シルト。φ0.2mmの礫散在。
- 5 地山。



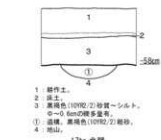
15tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 反黄褐色 (10YR4/2) 砂質土。φ0.3mmの礫有。
- 4 褐色 (7.5YR4/2) 砂質土。φ0.3mmの礫有。
- 5 黒色 (10YR1/1) シルト。φ0.3mmの礫散在。
- 6 黒色 (10YR2/1) シルト。φ0.3mmの礫散在。
- 7 地山。層を貫り込む溝有。



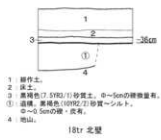
16tr 南壁

- 1 耕作土。
- 2 反黄褐色 (10YR4/2) 砂質土。φ0.1~0.3mmの礫有。
- 3 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト。φ0.1~0.3mmの礫有。
- 4 黒褐色 (10YR2/1) 砂質土。φ0.1~0.3mmの礫有。
- 5 黒色 (7.5Y2/1) 砂質シルト。φ0.1~0.3mmの礫有。
- 6 地山。



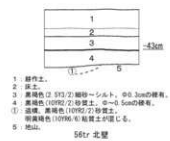
17tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。φ0.1~0.3mmの礫有。
- 4 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト。φ0.1~0.3mmの礫有。
- 5 地山。



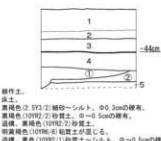
18tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト。φ0.3mmの礫散在。
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。φ0.3mmの礫散在。
- 5 地山。



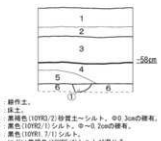
56tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト。φ0.3mmの礫有。
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。φ0.3mmの礫有。
- 5 地山。



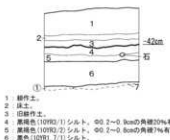
57tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 黒褐色 (10YR2/1) シルト。φ0.2~0.3mmの礫散在。
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。φ0.3mmの礫有。
- 5 地山。



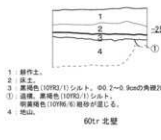
58tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質土。φ0.3mmの礫有。
- 4 黒色 (10YR1/1) シルト。φ0.3mmの礫有。
- 5 黒色 (10YR1/1) シルト。
- 6 地山。



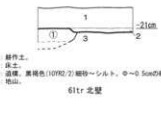
59tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 反黄褐色 (10YR4/2) シルト。φ0.2~0.3mmの礫散在。
- 4 黒褐色 (10YR2/1) シルト。φ0.2~0.3mmの礫散在。
- 5 黒色 (10YR1/1) シルト。
- 6 地山。



60tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 黒褐色 (10YR2/1) シルト。φ0.2~0.3mmの礫散在。
- 4 地山。



61tr 北壁

- 1 耕作土。
- 2 灰土。
- 3 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。φ0.3mmの礫有。
- 4 地山。

図3-26 宮之内団地土層断面図7

89tr 4・5層は、褐色系の細砂及びシルトで無遺物である。基質は細砂や細礫が混じるシルトで、78tr 5層、79tr 4・5層は多量の中礫を含む。無遺物でブロックを伴わないことから、自然の営力による堆積土と考えられる。

63tr 5層、64tr 7層、65tr 4層、66tr 9層、67tr 6層、68tr 4・5層、69tr 4層、70tr 4層、71tr 4・5層、72tr 4層、75tr 5層、76tr 5層、77tr 8層、80tr 6層、81tr 5層、82tr 5・6層、83tr 10層、84tr 7・8層、85tr 6・7層、87tr 4・5層、88tr 6・7層、89tr 6・7層、91tr 4～6層、92tr 4層、94tr 4～6層は、黒色系の細砂混じりシルトで遺物を包含する。時期が特定可能な遺物は少なく、わずかに古代～中世のものがある。層厚はおおむね5～50 cm程度である。全体的に土壌化が極めて顕著で、91tr は色調や土質の差異から3層に細分可能である。上層の91tr 4層は中世頃の土師器を包含し、中層の91tr 5層は古代～中世頃の土師器や須恵器、下層の91tr 6層は古代頃の土師器や須恵器を含み、古代～中世までの時期幅で複数の遺物包含層が重なる。色調と土質から64tr 7層、65tr 4層、66tr 9層、68tr 4層、69tr 4層、70tr 4層、71tr 4層、72tr 4層、76tr 5層、81tr 5層、82tr 5層、83tr 10層、85tr 6層、87tr 4層、88tr 6層、89tr 6層、94tr 4は91tr 4層と、94tr 5層は91tr 5層と、94tr 6層は91tr 6層と対応し、82tr 6層は85tr 7層と対応すると考えられる。

63tr 6層や64tr 8層等は、明褐色や黄褐色系のいずれも細粒堆積物である。本層は無遺物であるが、各トレンチ間で風化の度合いや色調に差異がみられるため、一様に地山と判断するのは難しく、南方を東流する大明神川を起因とした堆積の可能性も考えられる。

なお、①層は遺構の可能性が高い掘り込みであり、遺物包含層や地山の直上で確認した。

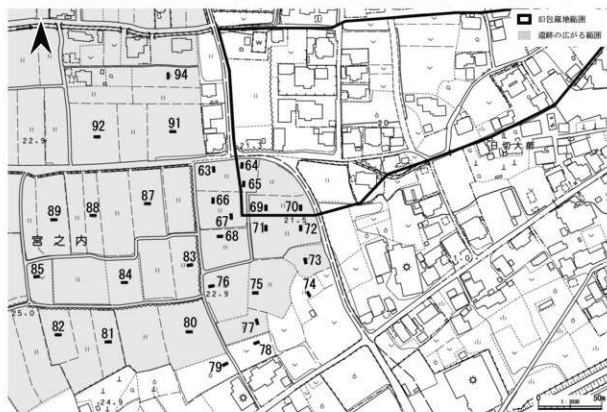


図3-28 日切大師西遺跡周辺トレンチ位置図

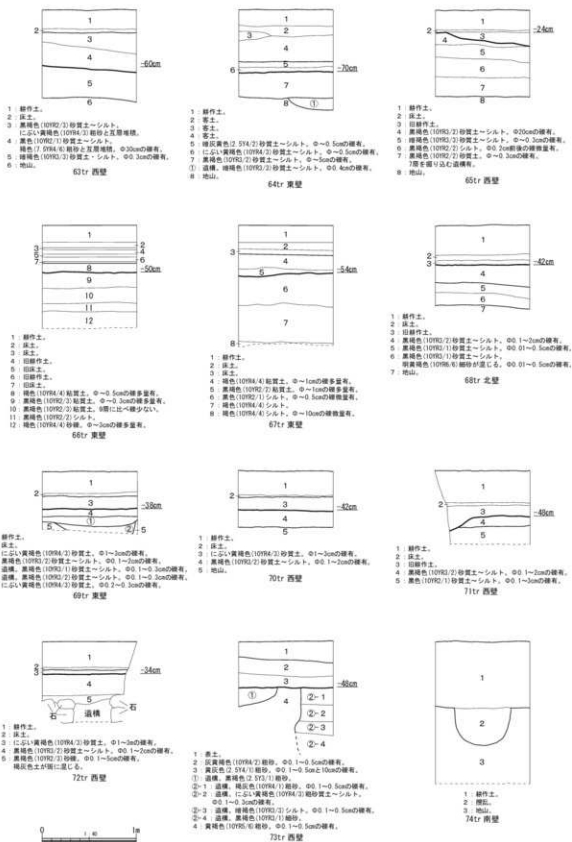


図3-29 宮之内団地 土層断面図9

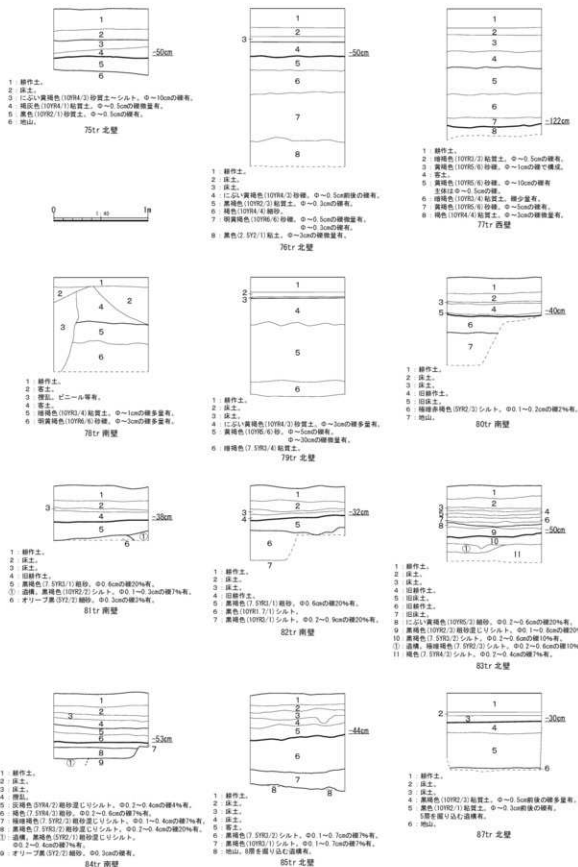


図 3-30 宮之内団地 土層断面図 10

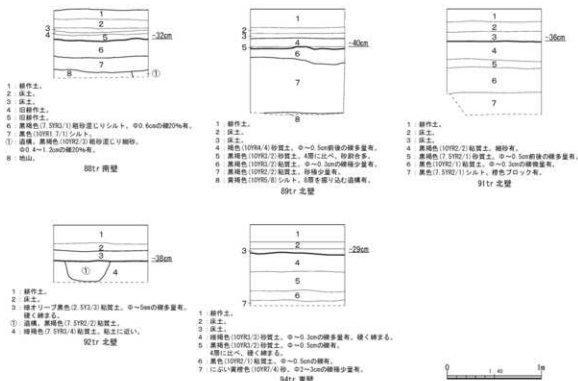


図3-31 宮之内団地 土層断面図 11

3 遺構と遺物

(1) 遺構

遺構は、ビット127基、溝4条、不明2基を検出した。トレンチ調査であるため、遺構の正確な平面形状や深さ、詳細な帰属時期については不明なものが多い。46tr ①層は中世頃の遺物包含層直上から掘り込まれている。33tr ①層は遺物包含層直下の褐色系細砂混じりシルト層直上から掘り込まれ、24tr ①層、26tr ①層、29tr ①層、49tr ①層等は遺物包含層直下の地山直上から掘り込まれる。よって、遺構検出面は大別すると3面に分けられると考えられる。遺構は分布密度に偏りはみられず、調査地全体に広がっている。時期が特定可能なものの中では、層位や出土遺物から縄文・古代～中世に帰属すると考えられる。ビットは円形のものが多く、大きさは不揃いである。51trのビットは縄文時代後期の土器が単独で出土したため、縄文時代の遺構と考えられる。縄文時代に帰属する遺構は、この1基のみである。溝は幅約50～60cmで、1基(24tr)は北西-南東方向、3基(26tr、28tr、33tr)は南北方向に走る。南北方向の3基は、現在の地割とほぼ同じ方位をとっている。不明

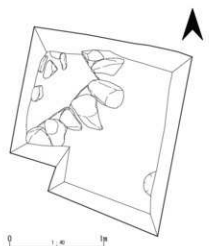


図3-32 宮之内団地 72tr 平面図

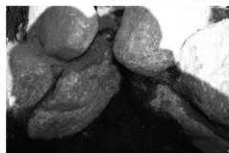


写真3-6 72tr 2段に積まれた石

な2基の遺構はともに石を伴う。72tr 5層直下の遺構は、石が平面で90度に曲がるL字状に配石され、検出長は長辺1.4×短辺0.9mである。石は長軸約27～42cm、短軸約16～26cmの楕円形をなし、長軸方向や小口を揃えながら少なくとも2段に積まれている。遺構の掘方は検出はできていない。配石方向と方法から、遺構は井戸又は古墳の石室を構成する基底石の一部の可能性が考えられる。もう1基の11tr ①層の遺構は、長軸約23～56cm、短軸約13～32cmの楕円礫が確認できたが、72trのような人工的配列はみられない。遺構埋土から15～16世紀頃と考えられる火鉢脚部が出土しているため、現状は当時期に帰属する遺構と判断している。

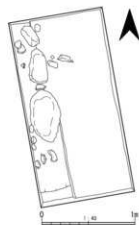


図3-33 宮之内団地 11tr 平面図

(2) 遺物1 (図3-34、写真図版31)

1は縄文土器の有文深鉢である。口縁部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸く収める。口縁部外面には横走する2条の沈線文によって区画された磨消縄文が施され、内面調整はミガキを施す。時期は縄文時代後期前半と考えられる。

2は弥生土器の甕である。底部外面は安定的な平底で、外面には縦方向のヘラミガキが丁寧で密に施される。時期は弥生時代中期末と考えられる。

3～19は土師器である。3～5は甕である。3は胎土が緻密でよく焼成されている。頸部の屈曲部内外面には稜線が残り、内外面共にナデ調整である。時期は不明である。4は口縁部が外反し、口縁端部は面をなす。内面は横方向、外面は縦方向のハケを密に施す。時期は、古墳時代～古代である。5は口縁部が屈曲して直線的に外方へ延び、端部は面取りを施す。胴部外面は縦方向のハケを施す。時期は古代と考えられる。

6は赤色塗彩土師器杯である。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸く収める。口縁端部内面はナデにより段をもつ。内外面ともに赤彩が施されており、時期は8世紀後半と考えられる。

7～13は土師器杯又は皿であり、14・15は土師器皿である。7は口縁部が内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸く収め強く外反する。時期は12世紀と考えられる。8は底部と体部の境界が丸味を帯びる。時期は古代～中世と考えられる。9は底部が直線的に立ち上がり、底部外面には回転ヘラ切り痕跡が残る。時期は古代と考えられる。10は底部が円盤高台状を呈し、時期は10世紀と考えられる。11は柱状高台を呈し、底部は回転糸切りで切り離した後にナデ消されている。時期は12～13世紀と考えられる。12は円盤高台をもつもので、底部外面には回転糸切り痕跡が残る。時期は、おおむね11世紀後半～12世紀初頭と考えられる。13は底部外面に回転糸切り痕跡が残る。底部と口縁部の境は丸味を帯びる。時期は12～13世紀と考えられる。14は底部外面に回転糸切り痕跡が残る。口縁部は内湾気味に立ち上がり外方へ開く。口縁端部はやや尖り気味に収める。時期は12～13世紀と考えられる。15は円盤高台をもち、底外面に

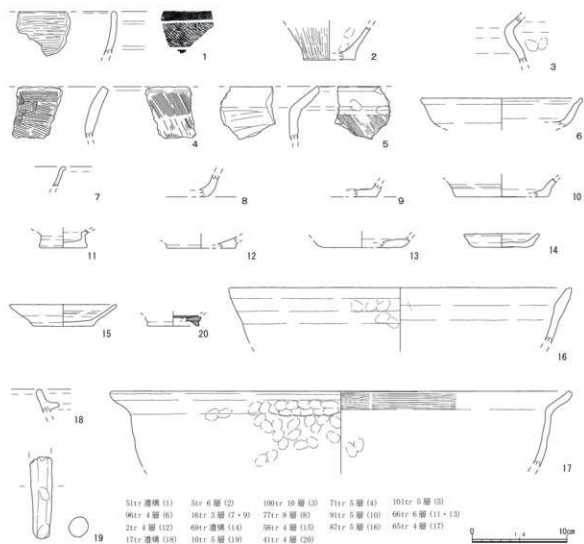


図3-34 宮之内団地 出土遺物 1

は静止系切り痕跡が残る。口縁部は直線的に立ち上がり外方へ開き、口縁端部は丸く収める。時期は15世紀と考えられる。

16・17は土師器鍋である。16は体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部は肥厚しわずかに外反する。口縁端部は丸く収める。時期は15世紀以降と考えられる。17は体部が内湾しながら立ち上がり、頸部で「く」の字状に口縁部が外反する。口縁端部は丸く収める。内面は口縁部に横方向のハケが密に施され、外面はユビオサエが顕著で密に認められる。時期は、15世紀以降と考えられる。

18は土師器釜である。口縁部は内湾し、口縁端部は丸く収める。口縁端部の下方に断面三角形を呈する形骸化した鐙が巡る。時期は13世紀中頃～14世紀初頭と考えられる。19は三足付鍋か釜の脚部であり、丁寧にナデが施されている。時期は13世紀後半～16世紀初頭と考えられる。

20は黒色土器A類碗である。底部には断面逆三角形の輪高台を貼付する。脚端部は「ハ」字状に外へ張り出す。時期は12世紀頃と考えられる。

(3) 遺物2 (図3-35、写真図版32)

1～11は須恵器である。1～4は須恵器坏蓋である。1は、外面天井部約2/3程度の範囲に反時計回りの回転ヘラケズリが施され、その他は回転ナデである。時期は7世紀と考えられる。2は天井部はほぼ平坦で回転ナデが施される。口縁部は屈曲して下方へ延びる。時期は8世紀頃と考えられる。3は扁平な擬宝珠つまみが貼付けられ、天井部はほぼ水平で回転ヘラケズリが施される。口縁部は屈曲して下方へ延び、口縁端部内側にかえりを有さない。時期は8世紀中頃～後半と考えられる。4は天井部外面に「百」の文字がヘラ描きされている。破片のため全体形、時期ともに不明である。

5は須恵器坏身である。口縁部が直立気味に短く立ち上がり、口縁端部は丸く収める。時期は7世紀と考えられる。

6は須恵器皿で、7は須恵器坏、8は須恵器皿又は坏である。6は口縁部が内湾しながら立ち上がり、口縁端部は外反し尖り気味に収める。時期は8世紀中～後半頃と考えられる。7は底部が内湾しながら立ち上がり、底部外端に断面台形状の輪高台が貼付される。脚端部は「ハ」字状に踏ん張る。時期は8世紀中頃～後半と考えられる。8は底部が円盤高台状を呈する。時期は9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

9は須恵器高坏であり、受部外面は回転ヘラケズリののちに回転ナデが施される。時期は8世紀と考えられる。

10は須恵器壺であり、内外面ともに強くナデられ、肩部が強く張る。時期は古代と考えられる。

11は須恵器甕であり、外面は横方向の平行タキが施される。内面には、粘土紐の接合痕跡が残る。時期は不明である

12は平瓦である。凸凹面ともに摩滅が激しい。端部は面取りを施す。時期は不明である。

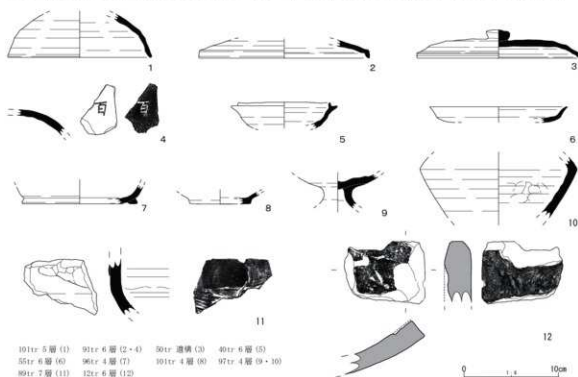


図3-35 宮之内団地 出土遺物2

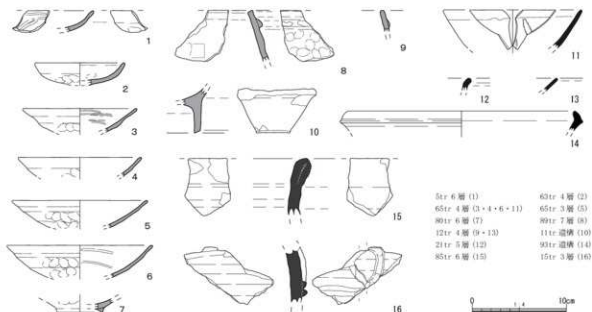


図3-36 宮之内団地 出土遺物3

(4) 遺物3 (図3-36)

1～2は瓦器皿である。1は口縁部が内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸く収める。2は口縁部が内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸く収める。外面下位にユビオサエが残る。1・2の時期は、12世紀後半～13世紀と考えられる。

3～7は和泉型瓦器埴である。3は体部が直線的に立ち上がり、外方へ開く。口縁端部は丸く収める。内面は平行線状のミガキを施す。4は体部が内湾気味に立ち上がり、外方へ開く。口縁端部はやや尖り気味に収める。5は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。外面体部から下位にユビオサエを施す。6は体部が内湾しながら立ち上がり、口縁端部は丸く収める。内面は平行線状のミガキを施す。外面はユビオサエが顕著で密に認められる。3～6の時期は、13世紀と考えられる。7は底部に断面逆三角形の輪高台を貼付する。時期は12世紀中頃～13世紀初頭と考えられる。

8・9は瓦質土器釜である。8は、口縁部が直線的に立ち上がり、口縁端部は面をなす。口縁端部の下方に断面三角形を呈する形骸化した鐙を巡らす。外面は口縁部にユビオサエが密に施される。9は口縁部が内湾し、口縁端部は丸く収める。口縁端部の外面下方に鐙を巡らす。8・9の時期は、13世紀～14世紀と考えられる。

10は、瓦質土器火鉢の脚部である。脚部は直立しながら立ち上がり、内端で接地する。奈良火鉢の浅鉢Ⅱ類に類似し、時期は15世紀～16世紀と考えられる。

11・12は、龍泉窯青磁碗である。11は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。内面は劃花文が描かれる。12は口縁端部が外反し、丸く収める。釉調は灰オリーブを呈する。11・12の時期は、13世紀と考えられる。

13は白磁皿である。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。時期は13世紀と考えられる。

14は東播系須恵器捏鉢である。口縁部は肥厚し断面三角形状を呈する。口縁端部内端は強い横ナデによりわずかに段をもつ。時期は13世紀と考えられる。

15は備前焼甕である。口縁部が丸く折り曲げられ、玉縁状を呈する。時期は15世紀後半と考えられる。16は備前焼土屋甕である。双耳は粘土紐で輪を作り、指頭の押圧で貼り付けたため表面に凹凸が残る。時期は16世紀前半頃と考えられる。

101tr 5層から出土した畿内系土師器（写真図版32）は、内面に放射状の暗文が施される。細片のため暗文の段数は不明である。時期は8世紀と考えられる。

85tr 7層から出土した小札（写真図版33）は、残札足6.8cm、札幅2.5cmを測り、下端は欠損し漆下地等は確認できない。穴は2列14孔が残る。小札頭は基石頭又は矢筈頭であり、小札頭を切り込みにより2つに割けていることから伊予札と考えられる。時期は細片のため不明である。

4 小結

今回、これまで調査が行われなかった各遺跡でまとまった試掘調査を、2か年にかけて実施した。調査では、主に古代～中世にかけての遺物包含層や、縄文時代後期や古代～中世の遺構を検出した。遺物包含層は多くて4層の堆積が重なり、いずれも土壌化が極めて顕著にみられる。遺構は縄文時代後期前半のビットや、石組遺構を確認した。72trで検出した石組遺構は、近接する福成寺遺跡で実施された発掘調査で類似する遺構が2基確認されている。2基ともに古墳の横穴式石室の一部と考えられ、墳丘盛土や石室の天井井等は削平され遺存せず、石室の基底石や周溝が残されていた。石室石材の大きさや配石方法は、72trで検出したものと同様である。石室の主軸は南西―北東方向で南西方向に開口する。周溝の形状から直径約8mと10mの円墳で、副葬品から最終埋葬は6世紀後半頃と想定されている。両者の比較により類似する点が多くみられることから、72trの石組遺構を検討する上で、古墳の石室も選択肢の一つになると考えられる。

遺物については中世が多く、次いで古代となり、縄文や弥生、古墳時代の出土量は少ない。古代と考えられる遺物には赤色塗彩土師器や瓦があり、時期は不明だが刻書須恵器も出土していることから、当時期における遺跡の性格は一般の集落とは異なる可能性がある。

よって、宮之内遺跡は縄文時代後期前半を始めとし、断続しながらも中世まで続く複合遺跡である可能性が高いと言える。また、試掘調査であるが故に各トレンチ間の調査結果を結び付けづらいが、同様の遺物包含層が広域に広がることから、宮之内遺跡は福成寺横道遺跡や日切大師西遺跡と一連の遺跡である可能性が高い。

なお、調査では一部のトレンチを除き、ほぼ整備のほぼ全域で遺跡の広がりが確認され、各遺跡の範囲を見直す必要があった。そのため、今回の試掘調査の結果を受け各遺跡の範囲を令和元年11月から変更となり、福成寺横道下Ⅰ遺跡・福成寺横道下Ⅱ遺跡は福成寺横道下遺跡として統合した。また、宮之内Ⅰ遺跡・宮之内Ⅱ遺跡は、新たに確認された遺跡の広がる範囲も含め宮之内遺跡として統合した。（鈴木）

第5節 明理川団地

1 団地の概要

明理川団地は、西条市の北西部に位置し、新川の左岸地域に所在する。当地は大明神川によって形成された扇状地上に立地し、周辺の地形は南西から北東に向かって緩やかに傾斜する。

この明理川団地のほ場整備範囲内には、紫宸殿遺跡・櫛引遺跡・桜井遺跡が存在する。いずれの遺跡も平成13年度に旧東予市で実施された分布調査の際に発見されており、紫宸殿遺跡では須恵器が、櫛引遺跡では弥生土器とみられる土器が、桜井遺跡では須恵器や土師器が採集されている。

調査期間：平成27年度 10月8日、11月9日～24日

平成28年度 11月14日～16日、1月5日、2月15日

平成29年度 5月22日

調査箇所数：97か所

2 層序

それぞれの遺跡は距離が離れているため、以下では個々の遺跡ごとに説明していく。

(1) 紫宸殿遺跡（図3-37～39、写真図版34～37）

1・2層（18tr 2層は除く）は現代の耕作土層・床土層である。

1・2層直下で旧耕作土層や客土層、河川堆積層が確認できた。旧耕作土層は18tr 2層である。客土層の11tr 3層上面では落ち込み状遺構を検出した。客土は各トレンチで微妙な差はあるが、灰色～黒色系の砂質～シルトで構成される。3tr・6tr・22tr 3・4層、5tr・7tr・11tr～21tr・23tr・26tr・27tr・30tr 3層、29tr 3～6層であり、層厚約5～30cmを測る。古代～中

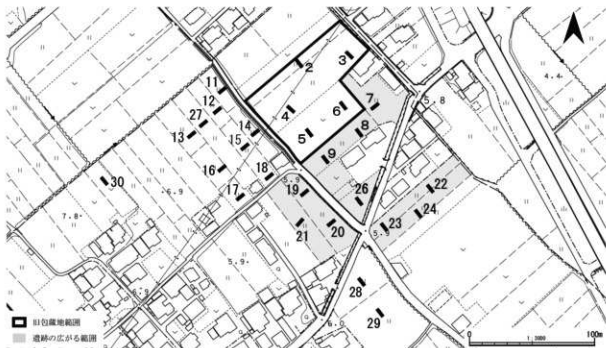
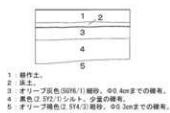
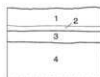


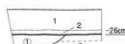
図3-37 紫宸殿遺跡周辺トレンチ位置図



21r 東壁



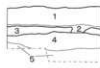
51r 東壁



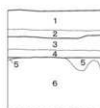
81r 西壁



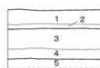
121r 北壁



151r 北壁



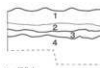
31r 東壁



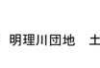
61r 東壁



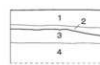
91r 西壁



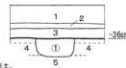
131r 北壁



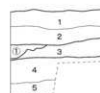
161r 北壁



41r 東壁



71r 北壁



111r 北壁



141r 南壁



171r 北壁



図3-38 明理川団地 土層断面図1

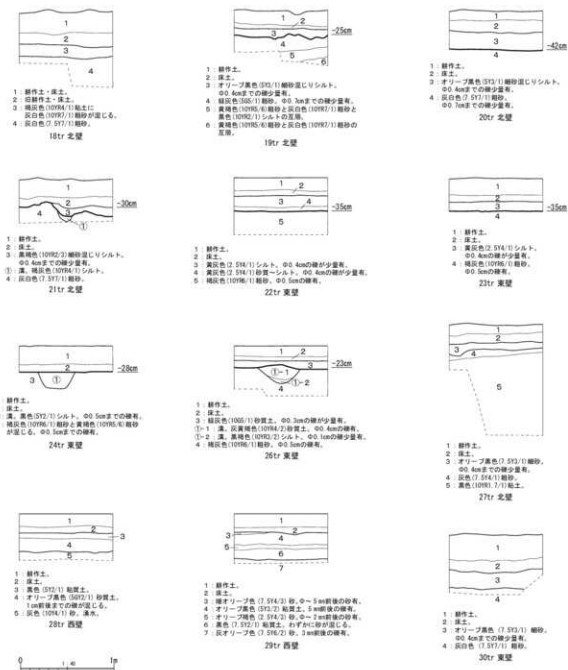


図3-39 明理川団地 土層断面図2

世の土器、江戸時代以降の陶磁器、瓦が出土したことから、江戸時代以降に堆積した層と考えられる。一方、2層直下で河川堆積層となる調査区は、2tr・4tr・8tr・9tr・24trがある。

2層直下及び客土層直下の河川堆積層上面で溝等を検出した。遺構面下の河川堆積層は砂・シルトの互層であり、砂・シルト層が厚く堆積する調査区も確認できた。基本的には砂層が上層で確認されることが多い。この河川堆積層から弥生時代の土器が出土した。

(2) 櫛引遺跡 (図3-40～43、写真図版38～42)

櫛引遺跡の層序は柴宸殿遺跡とほぼ変わらない。現代の耕作土層・床土層(1・2層)直下で旧耕作土層や客土層、河川堆積層が確認できた。

旧耕作土層は32tr 3～6層、35tr 2層である。客土層は各トレンチで微妙な差はあるが、灰色～オリーブ黒色を呈す。4tr・6tr・7tr・9tr・11tr・13tr・15tr～17tr・20tr～26tr・28tr 3層、2tr・3tr・8tr・18tr 3・4層、5tr・34tr 4・5層、14tr 3～5層、19tr 4層、29tr・31tr 2・3層、33tr 4～6層、35tr 3～7層であり、層厚約5～50cmを測る。客土層から弥生時代、古代以降、中世の土器と江戸時代以降の陶磁器、漆器が出土したことから、江戸時代以降に堆積した層と考えられる。客土層が確認できなかった1tr・12tr・27trでは2層直下で、32trでは旧耕作土層直下で河川堆積層となる。

23tr 4層、32tr 7層は土師器を含むことから包含層と考えた。4・7層は黒褐色砂質～シルト・粘土であり、層厚約14～28cmを測る。

遺構は河川堆積層上面で確認できた。河川堆積層は粗砂とシルトの互層となり、砂・シルトが厚く堆積する調査区もみられた。基本的には砂層が上層で確認されることが多い。弥生時代の土器が出土した。

(3) 桜井遺跡 (図3-44～47、写真図版43～47)

1・2層(34・35trを除く)は現代の耕作土層・床土層である。

現代の耕作土層下で旧耕作土層や客土層、包含層が確認できた。旧耕作土層は4tr・22tr 3・4層、13tr・33tr・37tr 3層、35tr 2層である。客土層は15tr～17tr・19tr～21tr・23tr～27tr・29tr・30tr・35tr 3層、31tr・34tr 3・4層、32tr 3～5層、36tr 4～6層である。層



図3-40 櫛引遺跡周辺トレンチ位置図

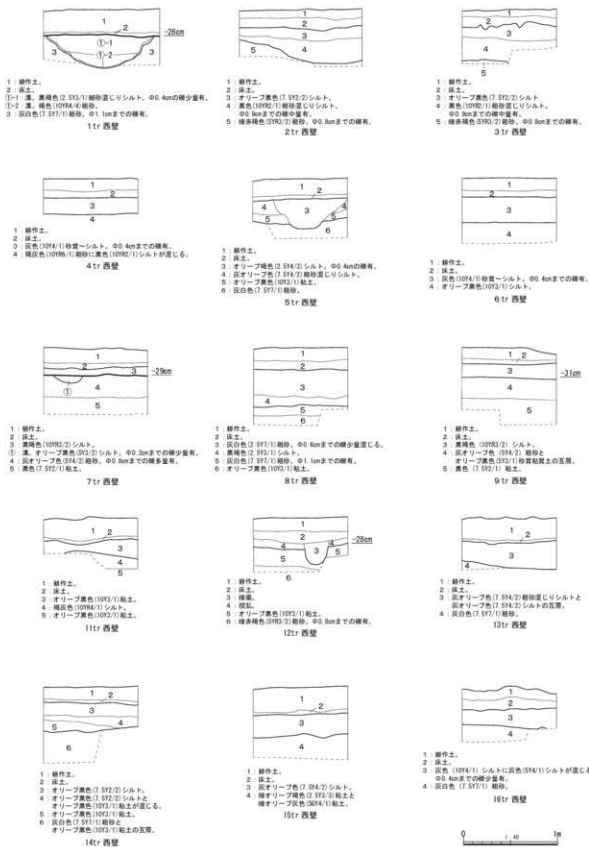
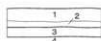


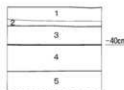
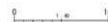
図3-41 明理川団地 土層断面図3



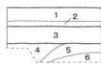
17tr 東壁



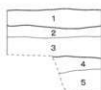
20tr 東壁



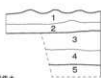
23tr 西壁



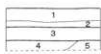
25tr 東壁



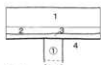
29tr 東壁



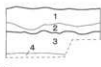
18tr 西壁



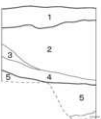
21tr 東壁



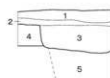
24tr 東壁



27tr 西壁



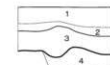
31tr 東壁



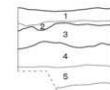
19tr 西壁



22tr 東壁



25tr 東壁



28tr 東壁



32tr 東壁

図3-42 明理川団地 土層断面図4

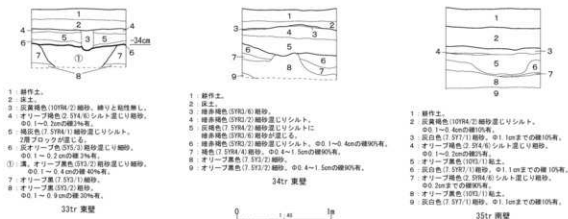


図3-43 明理川団地 土層断面図5

厚約5~34cmを測り、古墳時代後期の土器、土師器、江戸時代以降の陶器が出土したことから、江戸時代以降に堆積した層と考えられる。

包含層は、1tr~3tr・5tr~8tr・10tr・14tr・18tr・28tr 3層、13tr・29tr・30tr 4層、32tr 6層で褐色~黒色砂質シルトを呈し、層厚約10~30cmを測る。古墳時代後期以降や古代の土器が出土した。23tr 4層も包含層と考えているが、灰色細砂~シルト層で土質・色が他の調査区と異なり可能性もある。18tr 3層(包含層)上面で落ち込み状遺構を検出した。

包含層下の河川堆積層上面で遺構を検出した。河川堆積層は粗砂とシルトの互層となり、砂・シルトが厚く堆積する調査区もみられた。縄文時代や弥生時代の土器が出土した。

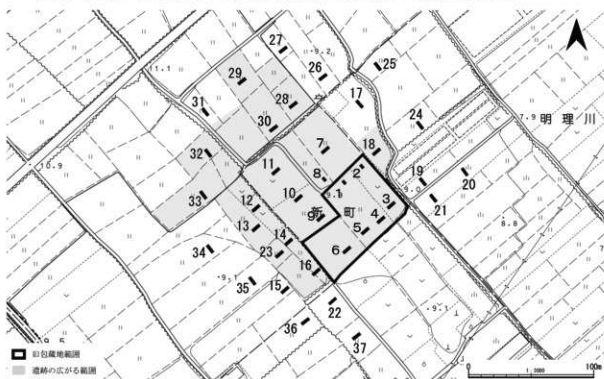


図3-44 桜井遺跡周辺トレンチ位置図

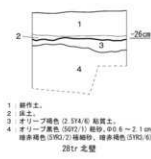
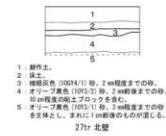
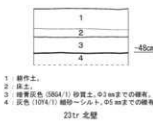
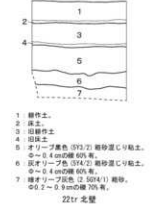
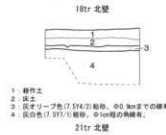
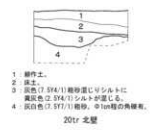
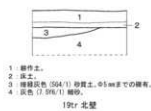
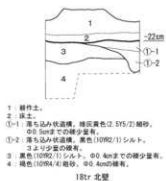
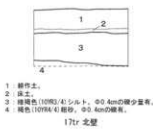
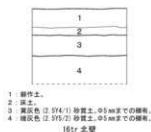


図3-46 明理川団地 土層断面図7

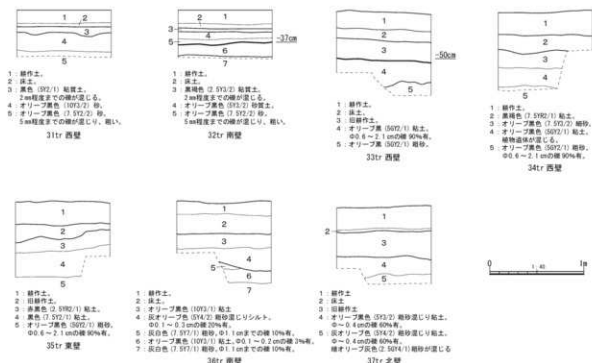


図3-47 明理川団地 土層断面図8

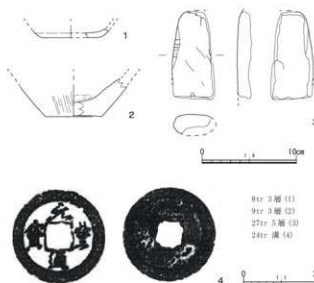


図3-48 紫宸殿遺跡 出土遺物

3 遺構と遺物

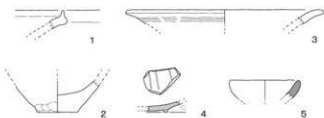
(1) 紫宸殿遺跡 (図3-48、写真図版37)

①遺構 紫宸殿遺跡では7tr～9tr、21tr、24tr、26trで5条の溝を検出した。8tr・9tr検出の溝は、検出位置から同一の溝とみられる。溝は8tr・9tr・24tr・26trで南西～北東方向、7tr・21trで南東～北西方向に走り、現在の地割とほぼ同じ方位をとる。21trの溝は検出幅約16cm、深さ約5cmであった。一方他の4条の溝は、検出幅約40～57cm、深さ約10～29cmを測る。溝の埋没時期は出土遺物が少なく決定的ではない。しかし、24trの溝から中世前半頃の銭貨が出土し

ており、溝が成立する遺構面(8tr 3層)から古代末～中世の遺物が出土していることから、これらの溝は中世頃の溝と考えておきたい。

②遺物 1は土師器坏である。器表面の遺存状態が悪く、成形及び調整痕跡も不明瞭である。プロポーシオンから古代末～中世頃のものとみておきたい。2は弥生土器壺若しくは甕である。器表面の遺存状態が悪いが、外面はハケメ若しくはヘラミガキが、内面はユビオサエが残る。弥生

時代中期後半～後期頃と考える。3は石斧である。弥生時代中期後半とみられる。4は元豊通貨である。初鋳年代は1078年であり、行書体で書かれている。直径は2.48 cm、孔幅は0.65～0.7 cmを測る。



(2) 櫛引遺跡 (図3-49、写真図版42)

①遺構 櫛引遺跡では1tr・7tr・17tr・22tr・24trで遺構を検出した。検出遺構は溝2条、落ち込み状遺構3基、ピット1基である。

1trの溝は南西―北東方向に走り、検出幅約1.15 m、深さ約34 cmを測る。7trの溝は南西―北東方向に走り、検出幅約30 cm、深さ約7 cmを測る。出土遺物がなく、遺構の埋没年代が明らかではないが、紫宸殿遺跡で検出した溝と方位を同じにしていることから、同時期の溝と考えておきたい。17tr落ち込み状遺構は調査区外に広がるため全形は不明であるが、検出長約23 cm、深さ約7 cmを測る。24trピットは平面が円形を呈し、径約20 cm、深さ約24 cm以上を測る。遺物は出土しなかった。

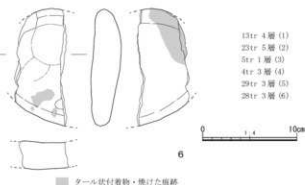


図3-49 櫛引遺跡 出土遺物

②遺物 1・2は弥生土器である。1は口縁端部が上方にのびされている。2は底部外面にユビオサエが確認できる。1・2ともに弥生時代中期頃とみられる。3は土師器甕である。内外面ともにヨコナデが施され、口縁端部は外傾する面をもつ。古代とみられる。4は瓦器碗である。見込みに平行線状に粗いヘラミガキが施され、外面にユビオサエが確認できる。和泉型とみられ、13世紀代と考える。5はヨコナデが施される。

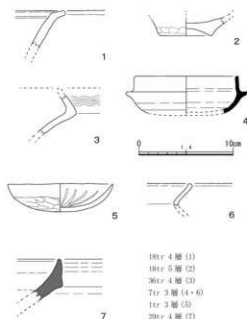


図3-50 桜井遺跡 出土遺物

器種・器形は不明である。6は石皿である。表面にはいくつかの凹みが観察できる。タール状の付着物や、石皿破面に焼けた痕跡がみられることから、石皿が割れた後に火を受けたものとみられる。安山岩。縄文時代～弥生時代とみられる。2tr 4層から出土した漆器 (写真図版42) は、小片のため赤色の漆が確認できるに過ぎない。

(3) 桜井遺跡 (図3-50、写真図版48)

①遺構 6tr・9tr・10tr・14tr・18tr・29trで検出している。検出遺構はピット3基、溝1条、

落ち込み状遺構 4 基である。ピットは 6 tr・10 tr・14 tr で検出した。平面は円形を呈し、径約 14 ～ 32 cm、深さ約 10 cm 以上を測る。出土遺物がなく所属時期は不明である。9 tr 落ち込み状遺構は、西側と東側でそれぞれ検出でき、西側の落ち込み状遺構は検出長約 68 cm、深さ約 18 cm を測り、東側の落ち込み状遺構は全形は明らかではないが検出幅約 20 cm、深さ約 25 cm を測る。18 tr の落ち込み状遺構は、包含層である 3 層上面から掘り込まれている。全形は不明ながら、検出幅約 63 cm、深さ約 33 cm を測る。下層から細片の弥生土器や土師器が出土した。古代以降の遺構とみられる。29 tr の落ち込み状遺構は全形が明らかでないものの、検出幅約 43 cm、深さ約 15 cm 以上を測る。出土遺物はなく時期は不明である。18 tr の落ち込み状遺構以外の遺構は包含層下で検出していることから、古代以前と考えている。

②遺物 1・2 は縄文土器深鉢である。1 は強いヨコナデにより、口縁部が外側に屈曲し、端部が上方にやや突出する。2 は底部外面にユビオサエがみられる。1 は縄文時代後期～晩期、2 は縄文時代後期頃とみられる。3 は弥生土器複合口縁壺である。器表面の遺存状態が悪いものの、口縁部外面に波状文が残る。4 は須恵器坏身である。ロクロナデ成形。6 世紀中頃とみられる。5 は畿内系土師器坏である。内面は 1 段の放射状暗文がみられ、外面は口縁部から体部中位にかけてナデ成形、中位から下位はヘラケズリ、底部中心付近は未調整である。胎土は極めて精良である。7 世紀後半～8 世紀頃と考える。6 は土師器甕である。ナデ調整が施される。口縁端部は外傾する面をもち、端部がやや上方に突出する。古代と考える。7 は備前焼深鉢である。ロクロナデ調整である。16 世紀頃と考える。

4 小結

試掘調査の結果、明理川団地に所在する 3 遺跡は、これまでに周知されていた包蔵地範囲よりも外側に広がることが明らかとなった。

紫宸殿遺跡・櫛引遺跡は、遺構からの遺物の出土が少ないものの、中世の遺物が多数をしめるため、中世を中心とする遺跡と考えられる。桜井遺跡は畿内系土師器が出土する等、古代の遺跡が広がると想定できる。3 遺跡ともに縄文～弥生時代の遺物の出土がみられるが、総数としては少量であり、遺構成立面下の河川堆積層からの出土が目立つ。(岡島)

第6節 周布団地

1 団地の概要

周布団地は、西条市の西部に位置し、中山川の氾濫によって形成された自然堤防状の微高地に立地する。調査地付近では北から順に本郷川、崩口川、中山川が東流する。南北に走る今治小松自動車道によって調査地は東西に分断されており、自動車道建設の際には（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター（現（公財）愛媛県埋蔵文化財センター：以下、県埋文センター）により幸の木遺跡、久枝遺跡、久枝Ⅱ遺跡で発掘調査が行われた。調査地付近の地形は西から東へ向かって緩やかに傾斜し、現地表面の標高は西側で約14.2m、東側で約8.8mである。調査地の現況は畑地や水田である。

周布団地のほ場整備範囲内には、東部に富岡遺跡、西部に幸の木遺跡・幸の木Ⅱ遺跡が所在及び隣接する。また、古代の官道がほ場整備範囲西側を南東から北西へ向いて通ると想定されているため（柴田ほか2001）、遺跡周辺ではないが南西部にも調査区（99tr～117tr）を設定した。

調査期間：平成28年度 6月20日～7月5日、8月30日、10月24日～11月4日、
2月10日～14日
平成29年度 9月14日・15日、10月25日・26日、1月15日・16日
平成30年度 7月26日

調査箇所数：136か所

2 層序

調査対象範囲が南北約1.7km、東西約1.4kmと広大であったため、各トレンチ間の詳細な層の対応関係をとることは非常に困難であった。そのため、調査対象範囲を富岡遺跡周辺、幸の木遺跡周辺の2地区に分けて層序を概観する。

（1）富岡遺跡周辺（図3-52～55、写真図版49～52）

当遺跡周辺では、1tr～14tr、118tr～124tr、128tr～133trを設定し調査を行った。

1層は現代の畑や水田等の耕作土である。

2・3層は現代の床土であり、下位に酸化鉄の集積がみられる。118trや124r等では、現代床土の直下に近現代の旧耕作土及び旧床土が広がる。現代の床土や旧床土直下には、褐色系の細砂混じりシルト及び粘質土、遺物を包含する褐色系の細砂混じりシルト及び粘質土、褐色系の中礫混じり粗砂が広がる。

3tr 3～5層、4tr 3・4層、5tr 3～8層、7tr 3層、8tr 3層、9tr 4層、10tr 3層、11tr 3層、12tr 3層、13tr 3・4層、14tr 3層、118tr 6・7層、133tr 4層等は、褐色系の細砂混じりシルト及び粘質土である。基質はいずれも細礫や細砂が多量に混じるシルトや粘質土で、一部還元作用により色調がオリーブ色系を呈す。土師器や陶器をわずかに包含するが、大半は摩滅している。そのため、本堆積は河川の氾濫に伴う後背湿地の堆積土と考えられる。

3tr 6層、4tr 5層、5tr 9層、7tr 4層、10tr 4層、13tr 5層、14tr 4層は褐色系の細砂混じりシルト及び粘質土である。層厚はおおむね10～30cm程度で、少量の遺物を包含する。時期を特定できるものは更に少なく、わずかに中世頃のものがある。色調や土質から、3tr 6



図3-51 周布団地トレンチ位置図

層は4tr5層と対応すると思われる。

1tr4・5層、2tr4～6層、3tr7層、4tr6層、5tr10・11層、7tr5層、8tr4・5層、9tr5層、10tr5層、11tr4層、12tr4層、13tr6～8層、14tr5・6層、118tr8～9層、119tr5・6層、120tr3～8層、121tr7～9層、122tr3・4層、123tr5層、124tr4・5層、128tr7層、129tr6・7層、130tr5・6層、131tr5層、132tr6層、133tr5層は、褐色系の中礫混じり粗砂で、各トレンチの下部で確認している。2～15cm程度の円礫を多量に含むことから、河川の氾濫等を起因とする堆積土と考えられる。上面では、4tr、7tr、11trで遺構の可能性が高い掘り込みである①層を確認した。遺構が確認できない8trや9tr、12trも、周辺の調査結果から上面が遺構検出面である可能性が高いため、遺跡が広がると判断している。

なお、121tr9層の粗砂が上層を貫入しており、地震の影響によって地下水とともに吹き上げられた噴砂と考えられる。

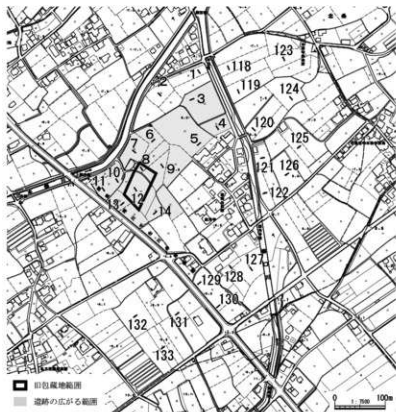


図3-52 富岡遺跡周辺トレンチ位置図



写真3-7 121tr 噴砂検出状況

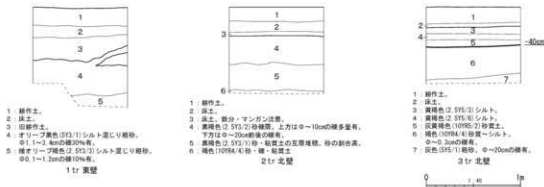


図3-53 周布団地 土層断面図1

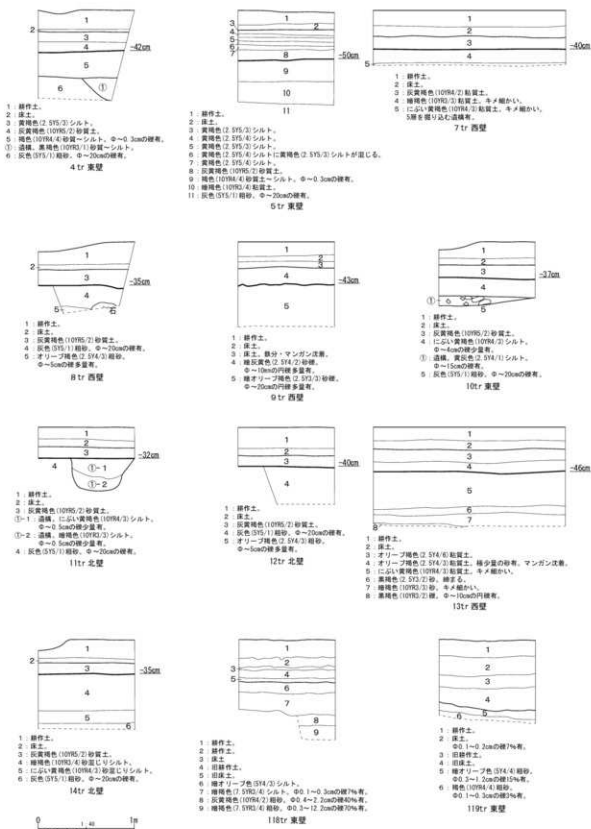


図3-54 周布団地 土層断面図2

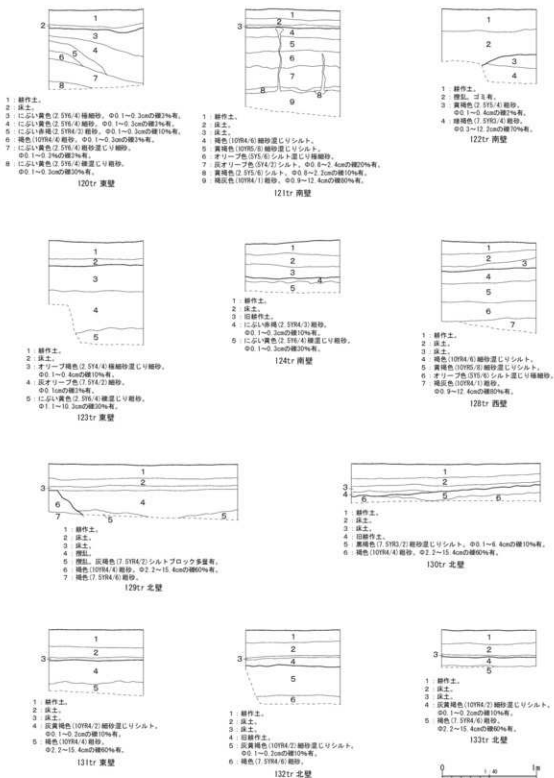


図3-55 周布団地 土層断面図3

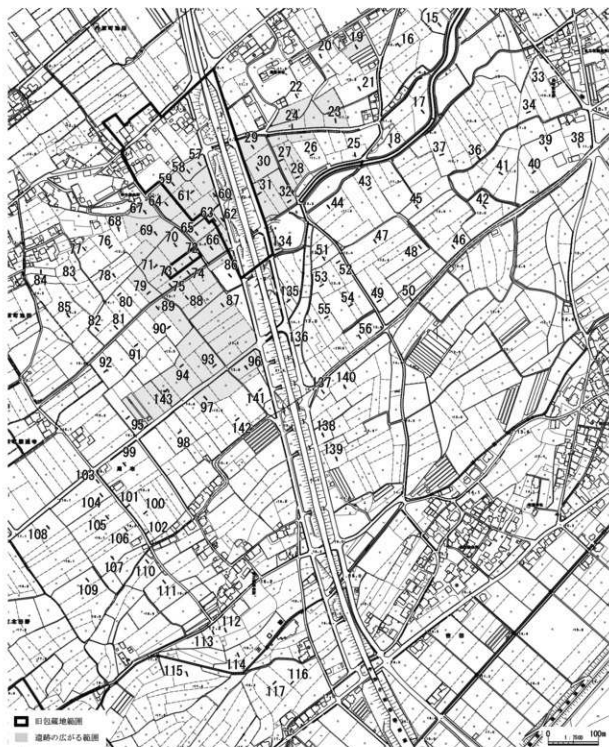


図3-56 幸の木遺跡周辺トレンチ位置図

(2) 幸の木遺跡周辺 (図3-56～66、写真図版53～66)

当遺跡周辺では、15tr～34tr、36tr～117tr、134tr～136tr、138tr、140tr～143trを設定し調査を行った。

1層は現代の畑や水田等の耕作土である。

2・3層は現代の床土であり、下位に酸化鉄の集積がみられる。15tr、19tr、31tr、43tr、

88tr, 110tr, 143tr 等では、現代床土の直下に近現代の旧耕作土及び旧床土、客土が広がる。現代の床土や旧床土直下には、褐色系の粗砂、細砂混じりシルト及び粘質土、遺物を包含する褐色系の細砂混じりシルト及び粘質土、褐色系の中礫混じり粗砂が広がる。

15tr 6層, 18tr 3層, 25tr 4層, 31tr 4層, 32tr 4層, 47tr 4～8層, 61tr 3層, 67tr 3層, 70tr 3層, 72tr 3層, 74tr 5層, 75tr 3～5層, 79tr 2層, 94tr 4層, 97tr 3～6層, 104tr 7・8層, 134tr 7・8層等は、褐色系の細砂混じりシルト及び粘質土である。基質はいずれも細礫や細砂が多量に混じるシルトや粘質土で、一部還元作用により色調がオリーブ色系や灰色系を呈す。土師器をわずかに包含するが大半は摩滅してり、本堆積は河川の氾濫に伴う後背湿地の堆積土と考えられる。

23tr 4層, 24tr 4層, 30tr 4層, 57tr 5層, 62tr 4層, 63tr 5層, 70tr 4層, 71tr 3層, 75tr 6層, 89tr 5層, 143tr 7層は、褐色系の細砂混じりシルト及び粘質土である。層厚はおおむね10～45cm程度であり、古代～中世頃の遺物をわずかに包含する。なお、遺物は出土していないが、土色や土質から27tr 4層, 28tr 3層, 29tr 7層, 31tr 5層, 32tr 5層, 58tr 4層, 60tr 3層, 64tr 4層, 65tr 6層, 69tr 3層, 72tr 5層, 73tr 5層, 79tr 3層, 87tr 4層, 88tr 5層, 94tr 5層, 97tr 7層, 134tr 7層も遺物包含層に相当すると考えられる。23tr 4層は24tr 4層と、27tr 4層・28tr 3層・29tr 7層は30tr 4層と、58tr 4層は57tr 5層と、72tr 5層, 73tr 5層, 79tr 3層, 87tr 4層, 88tr 5層は75tr 6層と対応すると考えられる。

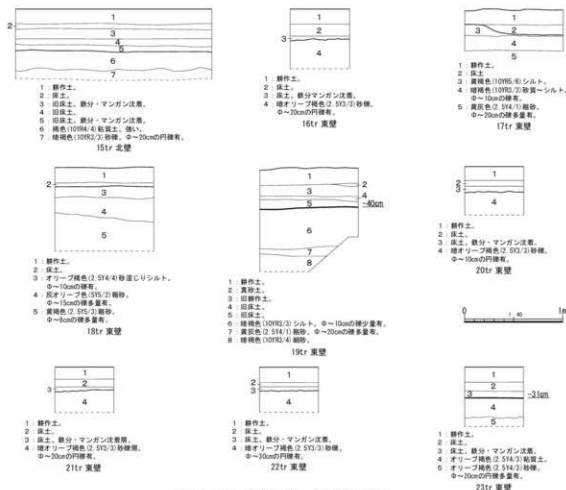


図3-57 周布団地 土層断面図4

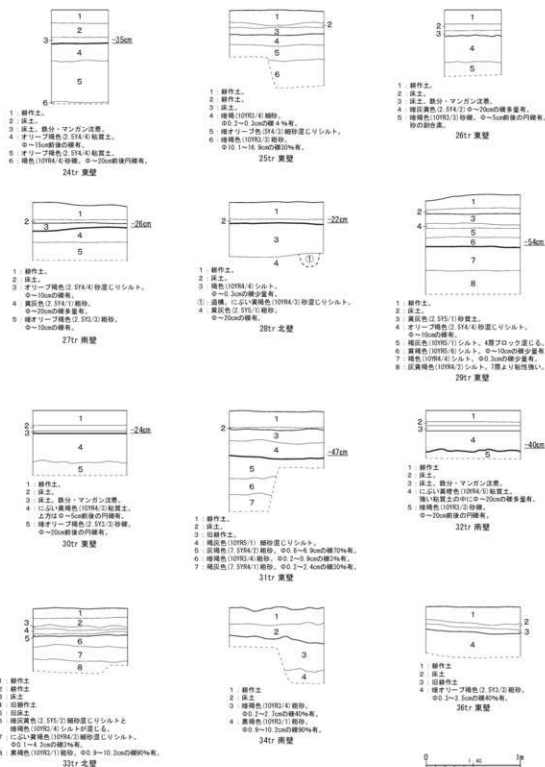
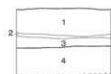


図3-58 周布団地 土層断面図5



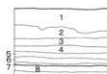
- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.3 \sim 0.5$ cmの礫40%有。

37tr 東壁



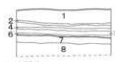
- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 堆り土 (S14/4) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 5 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 6 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 7 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 1.9 \sim 10$ cmの礫50%有。

38tr 東壁



- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 砂質粘土
- 5 砂質粘土
- 6 砂質粘土
- 7 砂質粘土
- 8 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 9 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.3 \sim 0.5$ cmの礫40%有。

39tr 東壁



- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 砂質粘土
- 5 砂質粘土
- 6 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 7 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.3 \sim 0.5$ cmの礫40%有。

40tr 南壁



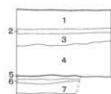
- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 4 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。

41tr 東壁



- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 堆り土 (S14/4) シルト。

42tr 南壁



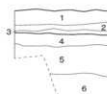
- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 堆り土
- 5 堆り土 (S14/4) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 6 堆り土 (S14/4) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 7 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 8 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 9 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。

43tr 南壁



- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 5 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 6 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫20%有。

44tr 東壁



- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 5 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 6 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 7 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。

45tr 西壁



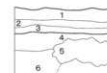
- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 砂質粘土
- 5 砂質粘土
- 6 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 7 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 8 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。

46tr 東壁



- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 堆り土 (S14/4) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 5 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 6 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 7 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。
- 8 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.2$ cmの礫2%有。

47tr 東壁



- 1 耕作土
- 2 粘土
- 3 砂質粘土
- 4 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 5 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。
- 6 堆り土 (S13/2) 砂質、 $\phi 0.1 \sim 0.5$ cmの礫20%有。

48tr 東壁



図3-59 周布団地 土層断面図6

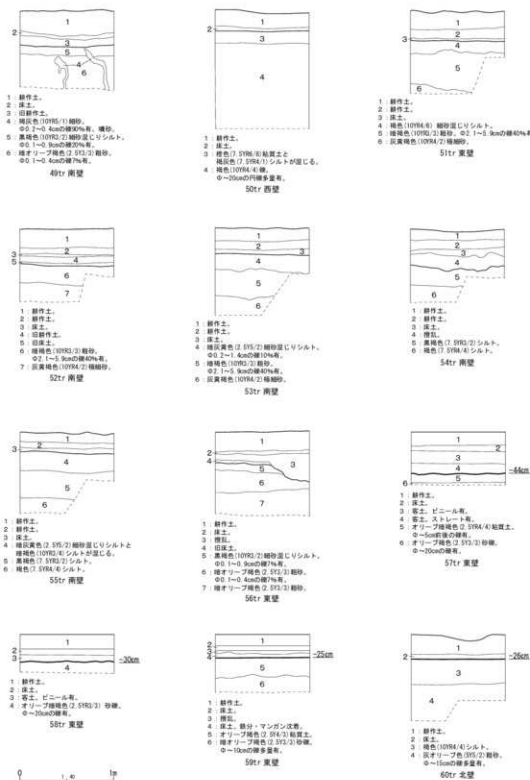


図3-60 周布団地 土層断面図7

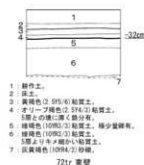
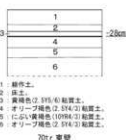
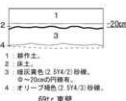
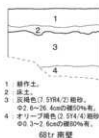
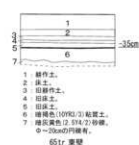
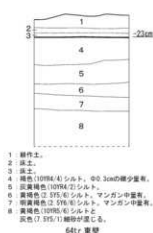
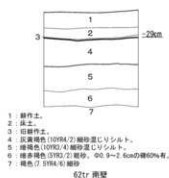
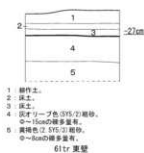


図3-61 周布団地 土層断面図8

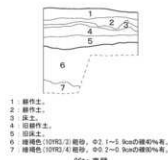
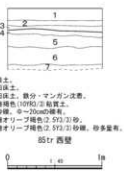
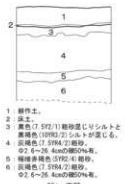
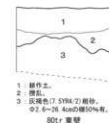
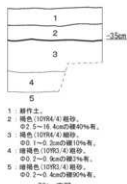
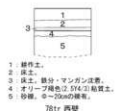
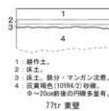
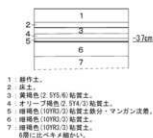
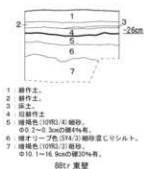
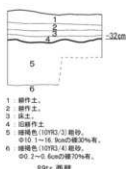
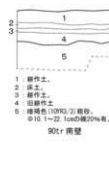


図3-62 周布団地 土層断面図9



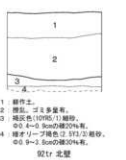
80% 東豐

[illegible]

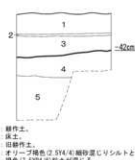
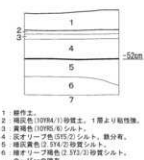
c. 廣發



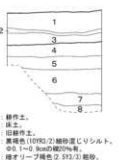
914 周豐



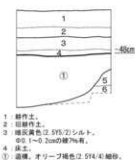
— 3. 620/2000 年

532 *r*

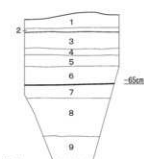
Date: 4/25/2014



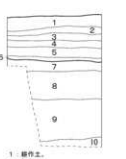
055/3) 船主
056/4 南緯



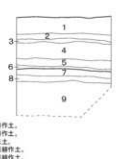
Ca²⁺ 200 mg



0.75x 40000



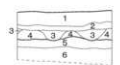
951r 南壁



004- 2003

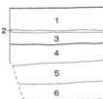


图 3-63 周布团地 土层断面图 10



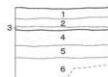
- 1 耕作土。
- 2 耕作土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土色(7.5YR2/4)細砂。
- 6 腐土色(10YR4/4)細砂道にシシルト。

100tr 南壁



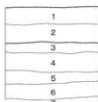
- 1 耕作土。
- 2 腐土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。

101tr 南壁



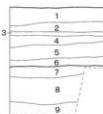
- 1 耕作土。
- 2 耕作土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。

102tr 南壁



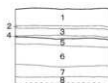
- 1 耕作土。
- 2 腐土。
- 3 オリーブ褐色(7.5YR4/4)細砂道にシシルト。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。
- 7 腐土。

103tr 北壁



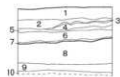
- 1 耕作土。
- 2 耕作土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。
- 7 腐土。
- 8 腐土。
- 9 腐土。

104tr 東壁



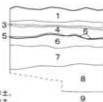
- 1 耕作土。
- 2 腐土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。
- 7 腐土。

105tr 東壁



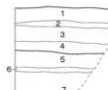
- 1 耕作土。
- 2 耕作土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。
- 7 腐土。
- 8 腐土。
- 9 腐土。
- 10 腐土。

106tr 南壁



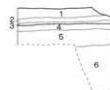
- 1 耕作土。
- 2 耕作土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。
- 7 腐土。
- 8 腐土。
- 9 腐土。

107tr 西壁



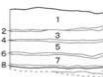
- 1 耕作土。
- 2 腐土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。
- 7 腐土。

108tr 東壁



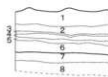
- 1 耕作土。
- 2 耕作土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。

109tr 西壁



- 1 耕作土。
- 2 腐土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。
- 7 腐土。
- 8 腐土。
- 9 腐土。
- 10 腐土。

110tr 東壁

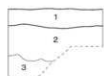


- 1 耕作土。
- 2 腐土。
- 3 腐土。
- 4 腐土。
- 5 腐土。
- 6 腐土。
- 7 腐土。
- 8 腐土。

111tr 東壁



図3-64 周布団地 土層断面図 11



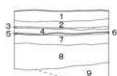
- 1 耕作土。
- 2 灰色(SY4-1)細砂質シルトと褐色(7 SYR4-2)細砂が混じる。
- 3 暗褐色(7 SYR2-4)粘砂。

112tr 東壁



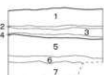
- 1 耕作土。
- 2 灰色(SY4-1)細砂質シルトと褐色(7 SYR4-2)細砂が混じる。
- 3 暗褐色(7 SYR2-4)粘砂。
- 4 暗褐色(10YR2-4)粘砂とシルト。

113tr 南壁



- 1 耕作土。
- 2 耕作土。
- 3 粘土。
- 4 暗耕作土。
- 5 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 6 灰褐色(10YR2-4)シルト。
- 7 暗褐色(10YR2-4)粘砂とシルト。
- 8 暗褐色(10YR2-4)粘砂とシルト。
- 9 暗褐色(7 SYR2-4)粘砂。

114tr 東壁



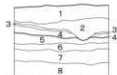
- 1 耕作土。
- 2 粘土。
- 3 暗耕作土。
- 4 暗耕作土。
- 5 暗褐色(7 SYR2-4)粘砂とシルト。
- 6 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 7 灰褐色(7 SYR4-2)細砂質シルト。
- 8 暗褐色(7 SYR4-2)細砂質シルト。

115tr 東壁



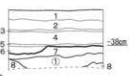
- 1 耕作土。
- 2 粘土。
- 3 暗褐色(7 SYR2-4)細砂質シルト。
- 4 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 5 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 6 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 7 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 8 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 9 暗褐色(10YR2-4)粘砂。

116tr 南壁



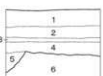
- 1 耕作土。
- 2 暗耕作土。
- 3 粘土。
- 4 暗耕作土。
- 5 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 6 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 7 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 8 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 9 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 10 暗褐色(10YR2-4)粘砂。

117tr 南壁



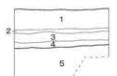
- 1 耕作土。
- 2 粘土。
- 3 暗耕作土。
- 4 暗耕作土。
- 5 暗耕作土。
- 6 暗耕作土。
- 7 オリーブ褐色(7 SY4-1)シルト。
- 8 暗褐色(10YR2-4)粘砂。

134tr 南壁



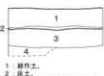
- 1 耕作土。
- 2 粘土。
- 3 暗褐色(10YR2-4)細砂質シルト。
- 4 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 5 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 6 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 7 暗褐色(10YR2-4)粘砂。

135tr 北壁



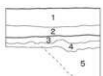
- 1 耕作土。
- 2 粘土。
- 3 暗耕作土。
- 4 暗耕作土。
- 5 暗褐色(10YR2-4)粘砂。

136tr 南壁



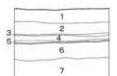
- 1 耕作土。
- 2 粘土。
- 3 暗オリーブ色(SY4-2)シルト。
- 4 暗褐色(7 SYR2-4)粘砂。

138tr 南壁



- 1 耕作土。
- 2 粘土。
- 3 暗褐色(7 SYR2-4)細砂質シルト。
- 4 暗褐色(10YR2-4)粘砂。
- 5 暗褐色(10YR2-4)粘砂。

140tr 西壁



- 1 耕作土。
- 2 粘土。
- 3 暗耕作土。
- 4 暗耕作土。
- 5 暗耕作土。
- 6 オリーブ褐色(7 SY4-2)粘砂。
- 7 暗褐色(10YR2-4)細砂質シルト。
- 8 暗褐色(10YR2-4)粘砂。

141tr 南壁



図3-65 周布田地 土層断面図12

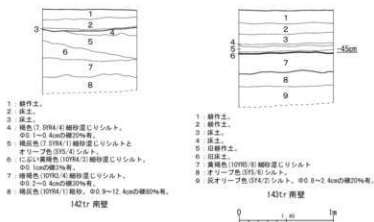


図3-66 周布団地 土層断面図 13

23tr 5層、24tr 6層、27tr 5層、28tr 4層、30tr 5層、31tr 6層、57tr 6層、58tr 4層、59tr 4・5層、61tr 4・5層、63tr 6層、65tr 7層、66tr 3層、67tr 4層、69tr 3層、72tr 7層、73tr 7層、87tr 6層、89tr 6層、94tr 7層等は、褐色系の中礫混じり粗砂で、各トレンチの下位で確認している。2～15cm程度の円礫を多量に含むことから、河川の氾濫等を起因とする堆積土と考えられる。遺物包含層や遺構が確認できない59tr、61tr、65tr、66tr、67trは、周辺の調査結果から本層上面が遺構検出面である可能性が高いと、遺跡が広がると判断している。



写真3-8 49tr 噴砂検出状況

3 遺構と遺物

(1) 遺構

遺構は、ビット2基、溝6条を検出した。トレンチ調査であるため、遺構の正確な平面形状や深さ、詳細な帰属時期については不明なものが多い。遺構検出面は後背湿地の堆積土や河川堆積土の直上であり、堆積環境の違いによる土質の違いはあるものの、大きくは1面である。時代が特定できる遺構は、遺物包含層直下で検出した4tr、7tr、71trのものである。包含層に中世頃までの遺物が含まれるため、遺構はそれよりも古いと考えられる。ビットは、7trが短辺約56cm長辺約60cm以上の隅丸方形で、28trは直径約20cmの円形である。6条の溝は、東西方向(4tr、71tr、96tr)と南北方向(11tr、74tr、134tr)に走るものに分かれ、現在の地割とほぼ同じ方位をとる。溝幅を特定できるものは11trで約64cm、134trで約50cmである。(鈴木)

(2) 富岡遺跡出土遺物 (図3-67、写真図版52)

1・2は土師器片である。1・2ともに器表面の遺存状態が悪いが、2の底部には板目状の痕

19tr 6層は、暗褐色シルトで細砂等の混じりは少ない。ブロック等も含まれないことから客土の可能性は低く、周辺では見られない安定した自然堆積土である。遺物や遺構等は確認できないが、19tr周辺及びその北側に6層上面を遺構面とした新たな遺跡の広がりも考えられるため、本堆積上面を遺構検出面と評価している。

跡が残る。10 世紀前後と考えられる。3～7・10 は土師器釜である。3・7 は外面にユビオサエがみられ、7 は粘土紐の接合痕跡が確認できる。8・9 は土師器播鉢である。口縁端部はヨコナデが施される。8 は播り目が確認できないが、9 は 5 条 1 単位の播り目が確認できる。11 は青磁碗である。外面に蓮弁文がみられる。龍泉窯とみられ、15 世紀後半頃と考える。12 は白磁碗若しくは皿である。口縁端部が口禿げになっており、13 世紀後半～14 世紀後半頃とみられる。13 は備前焼甕である。14 は備前焼播鉢である。6 条 1 単位の播り目が確認できる。

(3) 幸の木遺跡出土遺物 (図 3-68、写真図版 66)

1～4 は土師器坏である。いずれも器表面の状態が悪い。プロボーションから古代末～中世頃とみておきたい。5 は土師器甕である。ヨコナデが施される。口縁端部は外傾する面をもつ。古代とみられる。

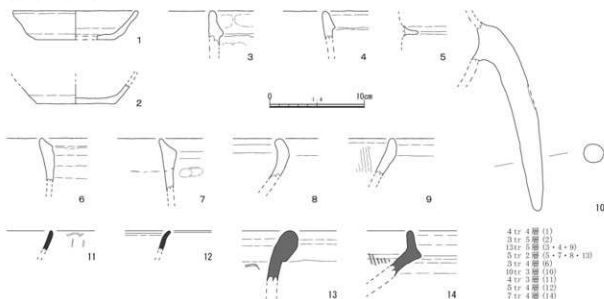


図 3-67 富岡遺跡 出土遺物

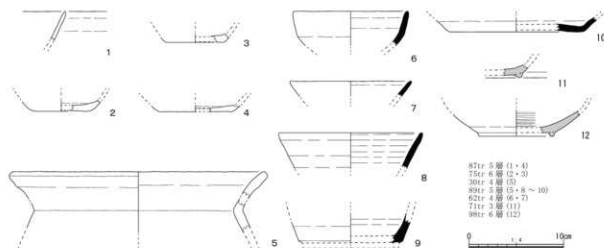


図 3-68 幸の木遺跡 出土遺物

6は須恵器坏若しくは高坏である。7～9は須恵器坏身、10は須恵器皿である。いずれもロクロナデ調整であり、9は高台が剥がれた痕跡が残る。いずれも8世紀中～後半頃とみられる。

11・12は黒色土器A類堆である。11は器表面の状態が悪いが、黒化処理の痕跡が残る。高台の断面形は逆三角形となる。12世紀代と考えている。12は内面にミガキがみられる。高台の断面形は方形となる。11世紀後半～12世紀前半頃と考えている。(岡島)

4 小結

今回、富岡遺跡と幸の木遺跡でまとまった試掘調査を3か年にかけて実施した。調査では包蔵地の範囲内外で遺跡の広がりを確認した。両遺跡とも資料数の制約により時期の特定は困難であったが、わずかな遺物から富岡遺跡は中世、幸の木遺跡は古代～中世頃の遺跡と考えられる。遺構はピットや溝を確認した。幸の木遺跡では、今治小松自動車道建設に際し県埋文センターによって発掘調査が実施され、古代～中世頃の掘立柱建物をはじめとする遺構や遺物が確認された。自然流路からは円面硯や転用硯、赤色塗彩土師器や黒色土器、緑釉陶器や灰釉陶器等が出土している。今回の試掘調査では、こうした遺物が出土した幸の木遺跡の範囲が中山川に向かって広がっていることを確認した。

幸の木遺跡南西側では、官道の想定ライン周辺で試掘調査を実施したが、路面となる硬化面や側溝等官道と考えられる痕跡は確認できていない。面的な調査を行っていないため結論を出すことは難しく、近現代の耕作等により削平された可能性も想定できるが、少なくとも今回調査を実施した箇所では確認できなかった。

また、富岡遺跡や幸の木遺跡周辺では、地震の液状化作用によって発生する噴砂と考えられる痕跡を確認した。上記の発掘調査でも噴砂と認められる痕跡が確認されており、噴砂の発生要因が南海地震クラス又は活断層による直下型地震の可能性が高いとされている。詳細な地震規模や時期については、今後の調査の進展とともに明らかになると考えられる。自然災害の痕跡を記録することも埋蔵文化財調査の重要な責務の一つであり、今回の調査成果が防災・減災を検討する上で、活用される資料となることに期待したい。(鈴木)

＜参考文献＞

- 岡田敏彦ほか2002『東予市南部の遺跡』第3集、東予市教育委員会
北野隆亮2006『備前水屋集の分類と変遷』『陶磁器の社会史－吉岡康暢先生古希記念論集－』吉岡康暢先生古希記念論集刊行会
佐間良彦1976『図解日本甲冑事典』雄山閣出版(株)
柴田昌児2000「4 伊予東部地域」『弥生土器の様式と編年－四国編－』(株)木耳社
柴田昌児ほか2001『松ノ元遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第90集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
柴田昌児ほか2002『幸の木遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第102集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
中世土器研究会編1995『概説 中世の土器・陶磁器』(株)真陽社
中野良一ほか2005『長瀬Ⅰ遺跡・長瀬Ⅱ遺跡・実報寺高志田遺跡・福成寺遺跡・旦之上遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第118集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
中野良一2007「中世伊予国の煮炊具について」『紀要愛媛』(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター研究紀要第7号、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
広島県草戸千軒町遺跡発掘調査研究所編1996『草戸千軒町遺跡発掘調査Ⅴ』広島県教育委員会
宮崎亮一編2000『大宰府条坊跡Ⅹ－陶磁器分類編－』大宰府の文化財第49集、太宰府市教育委員会

表3-1 遺物観察表

(※): 復元値 (●): 残存値

遺跡名	図	遺物 番号	調査区 (tr)	層・ 遺構名	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	器高	底径	
北竹之下Ⅰ・Ⅱ遺跡	3-12	1	27-3	5	弥生土器	甕	—	[6.1]	—	口縁へ胴上部、逆し字状に屈曲する口縁上面には柳葉状文、胴部外面は柳葉による直線文が施される。内面調整は胴上部が横方向の、下部は縦方向のミガキ。
		2	26-86	8	弥生土器	甕	—	[2.4]	—	口縁部、口縁端部に浅い刺突文が施される。調整は内外面ともに摩滅のため不明。
		3	26-85	3	弥生土器	甕	—	[1.2]	—	口縁部、口縁端部に断面三角形の突帯が付される。ともに突帯には浅く小さな刺突文が施される。
		4	26-87	4	弥生土器	甕	—	[3.9]	—	口縁部、外面に2条の突帯が現存する。この突帯と口縁端部には右斜め上方向から施される比較的浅い刻みが施る。色調は濃い黄褐色。
		5	26-87	4	弥生土器	壺	—	[5.8]	—	口縁部は上下に拡張し、端部に4条の凹線が走る。
		6	26-87	4	弥生土器	壺	—	[2.5]	—	口縁部は上下に拡張し、端部に3条の比較的はっきりとした凹線が走る。外面は強いヨコナデの幅3mm程度の縦方向の調整あり。ミガキか?
		7	26-17	遺構	弥生土器	壺	—	[2.4]	—	口縁部、端部付近はヨコナデが施され、端部は面をもち、上方に拡張する。
		8	26-22	5	弥生土器	甕 (16.2)	—	[5.6]	—	口縁へ胴上部、口縁端部は上方に拡張するが、欠損している。裾部部は強いヨコナデにより段がでる。胴部内面はケズリにより器壁が薄く仕上げられている。外面の調整は摩滅のため不明。
		9	26-73	4	弥生土器	高坏	—	[3.8]	—	外部、非常に浅く弱い凹線が現状で3条確認でき、その下に細く浅い刺突文が施される。調整は外面:ミガキ、内面:ナデ。
		10	26-87	4	弥生土器	高坏	—	[6.6]	—	柱部、未貫通の矢羽根透かしが穿たれ、その上下には多重の沈線が走る。
		11	26-22	5	弥生土器	高坏	—	[2.9]	12.6	裾部、外面に幅1~1.5mmの細い凹線、口縁部に幅2mm程度の縦い凹線が施される。
		12	26-22	5	弥生土器	壺	14.8	24.5	丸底	調整は内面:胴下半は蹴踏状のものを利用した強いヨコナデ、胴上半はケズリ、外面はナデ。摩滅著しい。口縁部は内外面ともにヨコナデ。
		13	26-22	5	弥生土器	壺 (21.0)	[10.7]	—	—	複合口縁部の頸部へ一次口縁部、二次口縁部との接合面で剥離している。
		14	27-10	5	弥生土器	壺	—	[10.3]	—	胴部へ胴部、内面には成型時のユビオサエ及び接合痕が明瞭に残る。外面の調整は縦方向の丁寧なミガキ、胴部内面は蹴踏状のものを用いたナデ。
		15	26-79	4	弥生土器	壺	—	[4.2]	—	胴部、胴部との境には、刺突の施された1条の突帯が走る。調整は内面:細いヨコナデ、外面:ナデ。
		16	26-6	5	弥生土器	壺	—	[3.1]	—	複合口縁部口縁部、逆「く」の字状に屈曲する。摩滅のため調整不明。
		17	26-22	5	弥生土器	壺	—	[3.3]	—	複合口縁部の二次口縁部、ほぼ直立する口縁外面及び端部に刺突文が施される。調整は内外面ともにヨコナデ。
		18	26-22	5	弥生土器	甕 (15.0)	[6.3]	—	—	口縁へ胴上部、口縁端部はヨコナデにより緩やかにくぼみ、上方へ拡張する。屈曲部は明確な接合を有する。
		19	26-87	4	弥生土器	甕 (17.8)	[4.2]	—	—	口縁内面は強いヨコナデにより緩やかにくぼみ、胴部の調整は摩滅のため不明。
		20	26-55	7	弥生土器	甕 (15.0)	[5.4]	—	—	口縁へ胴上部、内外面ともに指頭圧痕が明瞭に残る。胴部内面は強いケズリにより口縁との境に横が入る。
		21	26-86	8	弥生土器	甕	—	[1.7]	—	口縁部、口縁端部は先細りする。調整は内面:ヨコナデ→ヨコナデ、外面:斜め方向のハケミ。
		22	26-55	6	弥生土器	甕	—	[4.5]	—	胴部外面はユビオサエと強いヨコナデによる凹凸が目立つ。胴部内面は幅1cm程度の板状工具によるケズリ。
		23	27-3	5	弥生土器	高坏	—	[2.5]	—	調整は内面:板状工具によるナデ、外面:細いミガキ。
		24	26-22	5	弥生土器	高坏	—	[11.0]	—	中空の柱部、裾部との境に凹孔が穿たれる。柱部外面は摩滅しているが、下部の状況からミガキの可能性が高い。

(※)：復元値 (※※)：残存値

遺跡名	国	遺物番号	調査区 (tr)	層・ 遺構名	種類	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	器高	底径	
北竹之下Ⅰ・Ⅱ遺跡	3-13	1	26-85	3	弥生土器	甕	—	[25.8]	8.0	底部、平底。調整は内面は丁寧なナデ。ミガキに近い。外面は縦方向のミガキ。摩滅しており分りづらい部分が多い。
		2	26-73	4	弥生土器	甕	—	[12.5]	(6.0)	底部、平底。外面は摩滅しているが、部分的にミガキの痕跡を確認できる。内面はケズリの後ナデ。また、外面には煤が付着する。
		3	26-6	5	弥生土器	甕	—	[4.4]	(6.4)	底部、平底。外面は板状の工具痕が薄く残る。ナデか？
		4	26-54	6	弥生土器	甕	—	[2.2]	(7.6)	底部、内面には指頭圧痕が明瞭に残る。外面調整は摩滅のため、不明。
		5	26-22	5	弥生土器	甕	—	[4.3]	(7.2)	底部、平底。底面から一旦直立して胴部が開く。胴部外面は横方向のミガキが摩滅しているが、工具痕が残る。内面はヨコハツの横、ナデ。
		6	26-22	5	弥生土器	甕	—	[3.0]	6.0	底部、わずかに底面が上げ底上になる平底。外面は摩滅しているが、幅2mm程度のミガキ痕跡が残る。
		7	26-37	6	弥生土器	甕	—	[2.1]	3.7	底部、平底。一旦直立する底部外面には、ユビオサエによる凹凸が顕著に残る。
		8	26-22	4	弥生土器	甕	—	[4.1]	(4.0)	底部、緩やかな上げ底。底部から一旦くびれて胴部に至る。外面下部には黒度が残る。
		9	26-85	4	弥生土器	甕	—	[2.1]	(2.8)	底部、底径の小さな平底。胴部へはわずかに外反しながら立ち上がる。調整は内面：ナデ、外面：ハケメ。
		10	26-91	5	弥生土器	甕	—	[2.1]	(3.4)	底部、定形の小さな平底。胴部に向け、丸みをもたせながら立ち上がる。調整は内面：ナデ、外面：ヘラケズリ。内面は指頭圧痕が明瞭に残る。
	3-14	1	26-79	4	須恵器	天井部	—	[1.3]	—	天井部、上下逆転する可能性あり。
		2	26-43	6	須恵器	天井部	—	[1.2]	—	天井部、つまみは扁平化している。内面は丁寧なナデにより仕上げられる。外面は凹輪ヘラケズリ。
		3	26-93	4	須恵器	坏身	—	[2.4]	—	口縁部、口縁端部内面は段をもつ。調整は内外面ともにヨコナデ。
		4	26-79	4	須恵器	坏身	(10.6)	2.1	(8.8)	底部はヘラ切り。調整は内外面ともにヨコナデ。
		5	26-42	6	須恵器	坏身	(14.0)	[2.0]	—	口縁端部は先細りする。調整は内外面ともにヨコナデ。
		6	26-62	6	須恵器	坏身	(14.0)	[2.3]	—	口縁部、先端付近でわずかに外反するが、ほぼ直線的に外縁する。
		7	26-27	6	須恵器	坏身	—	[2.0]	(14.0)	底部、外面立ち上がり部は凹輪ヘラケズリ。
		8	26-6	5	須恵器	坏身	(10.0)	[4.5]	—	体部～口縁部。体部下方には1条の沈線が通る。
		9	26-6	5	須恵器	高坏	—	[7.6]	—	坏底部～胴部。内外面ともにヨコナデによる凹凸が残る。
	3-15	1	26-73	4	土師器	埴	—	[2.2]	—	口縁～体部。吉備系土師器？。浅い碗状の体部で、口縁端部は外反する。
		2	26-8	6	土師器	坏・埴	—	[1.2]	(7.4)	底部、内面はヨコナデによる明瞭な凹凸が見られる。外面調整は摩滅のため、不明。
		3	26-99	5	瓦器	埴	—	[2.5]	—	和泉型瓦埴。口縁～体部。外面には指頭圧痕が明瞭に残る。色面は内面：ぶい黄褐色 (10Y7/4)、外面：オリーブ黒色 (3.5/1)。
		4	26-40	5	瓦器	埴	—	[1.4]	(5.6)	和泉型瓦器埴。底部、断面三角形の高台。内外面ともにユビオサエの痕跡が顕著。摩滅のためか本来の色が落ちている。
		5	26-2	6	瓦質土器	茶釜 埴 (27.0)	—	[6.2]	—	外面にはユビオサエの痕跡、内面には斜め横方向のハヤシが顕著に残る。器はヨコナデにより上面・下面ともに緩やかに磨む。端部は面をもつ。色調は内外面ともに灰色。
		6	26-21	5	土師器	釜	—	[6.5]	—	口縁～胴上部。口縁端部には形骸化した薄い埴が応る。埴も含め、外面には指頭圧痕が明瞭に残る。また、埴の付着が顕著。内面は丁寧なナデが施される。

(●●): 復元値 [●●]: 残存値

遺跡名	図	遺物 番号	調査区 (tr)	層・ 遺構名	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	器高	底径	
北竹之下・II 遺跡	3-15	7	26-54	6	土師器	釜	—	[7.0]	—	口縁へ胴上部。口縁外面の縁は形骸化し、強い口 コナデによる段で段が表現されている。 色調は内外面ともに褐色。
		8	26-31	5	土師器	鍋	—	[7.5]	—	口縁へ胴上部。口縁屈曲部は明確な段が入る。口 縁部内面は口コナデにより緩やかに窪む。外面に は指頭圧痕が顕著に残る。また、外面には煤が付 着している。色調は外面: にがい褐色、内面: 褐色。
		9	26-7	5	磁器	碗	—	[2.2]	—	白磁。色調は灰白色。外面は口コナデによる緩や かな凹凸がみられる。
		10	26-7	5	磁器	碗	—	[1.7]	—	青磁。 色調は灰オリーブ色。
		11	26-59	4	磁器	碗	—	[2.2]	5.6	青磁。内面見込み部はケズリにより輪軸がはがさ れている。 色調は軸部部分はオリーブ黄色 (7.5/6.3)。
		写真図版 17	26-2	遺構	金属品	鉄滓	長 (6.5)	幅 (8.0)	厚 2.5	重量: 130g
宮之内遺跡	3-34	写真 3-5	26-83	5	金属製品	鉄貨	径 2.4	厚 0.11	重 2.2g	聖宗元宝。
		1	51	遺構	縄文土器	深鉢	—	[4.6]	—	外面: 2条沈線文、磨消縄文。 内面: ミガキ。
		2	5	6	弥生土器	甕	—	[3.5]	(5.3)	外面: ヘラミガキ。
		3	100	10	土師器	甕	—	[5.0]	—	内外面: ナデ。
		4	71	5	土師器	甕	—	[5.4]	—	内外面: ハケメ。
		5	101	5	土師器	甕	—	[5.6]	—	外面: ナデ、ハケメ。 内面: ナデ。
		6	96	4	土師器	坏	(16.7)	[3.0]	—	内外面: 赤色塗彩、ナデ。
		7	16	3	土師器	坏・皿	—	[2.1]	—	内外面: ナデ。
		8	77	8	土師器	坏・皿	—	[2.3]	—	内外面: ナデ。
		9	16	3	土師器	坏・皿	—	[1.4]	—	底部: 回転ヘタ切り。
		10	91	5	土師器	坏・皿	—	[1.9]	(9.6)	底部: 円盤高台。
		11	66	6	土師器	坏・皿	—	[2.7]	(4.6)	底部: 柱状高台。回転糸切り→ナデ消し。
		12	2	4	土師器	坏・皿	—	[1.2]	(7.2)	底部: 円盤高台。回転糸切り。
		13	66	6	土師器	坏・皿	—	[1.2]	(8.0)	底部: 回転糸切り。
		14	69	遺構	土師器	皿	(7.9)	2.0	(5.2)	底部: 回転糸切り。
		15	58	4	土師器	皿	(11.2)	2.3	(6.3)	底部: 円盤高台。静止糸切り。
		16	87	5	土師器	鍋	(35.4)	[5.8]	—	内外面: ナデ。
		17	65	4	土師器	鍋	(47.8)	[7.9]	—	外面: ヌビオサユ。 内面: ハケメ、ナデ。
		18	17	遺構	土師器	釜	—	[2.5]	—	内外面: ナデ。

(※): 復元値 (※※): 残存値

道跡名	図	遺物番号	調査区(tr)	層・遺構名	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	器高	底径	
宮之内遺跡	3-34	19	10	5	土師器	皿・鉢	—	[8.6]	—	外面：ナデ。
		20	41	4	黒色土器	埴	—	[1.1]	(5.3)	内面黒色 (A類)。
	3-35	1	101	5	須恵器	坏蓋	(15.2)	[4.5]	—	外面：回転ヘラケズリ。ナデ。 内面：ナデ。
		2	91	6	須恵器	坏蓋	(18.0)	[1.9]	—	内外面：ナデ。
		3	50	遺構	須恵器	坏蓋	(17.0)	3.0	—	外面：回転ヘラケズリ。ナデ。陶土珠つまみ。 内面：ナデ。
		4	91	6	須恵器	坏蓋	—	[2.7]	—	外面：回転ヘラケズリ。「百」ヘラ描き。 内面：ナデ。
		5	40	6	須恵器	坏身	(11.2)	[2.8]	—	内外面：ナデ。
		6	55	6	須恵器	皿	(14.5)	[1.7]	—	外面：ナデ。
		7	96	4	須恵器	坏	—	[1.9]	(13.4)	底部：輪高台。
		8	101	4	須恵器	皿・鉢	—	[1.3]	(6.7)	底部：円盤高台。
		9	97	4	須恵器	高坏	—	[3.4]	—	外面：回転ヘラケズリ→ナデ。
		10	97	4	須恵器	壺	—	[6.3]	—	内外面：ナデ。
		11	89	7	須恵器	甕	—	[5.7]	—	外面：タタキ。 内面：粘土紐の接合痕跡が残る。
		12	12	6	土製品	平瓦	長[6.5] 幅[8.0] 厚2.5			摩滅が激しい。
	3-36	1	5	6	瓦器	皿	—	[2.3]	—	外面：ナデ。 内面：ナデ。ミガキ。
		2	63	4	瓦器	皿	(9.5)	[2.4]	—	外面：ナデ。ユビオサエ。 内面：ナデ。
		3	65	4	瓦器	埴	(11.8)	[2.5]	—	和泉型。 外面：ナデ。 内面：ナデ。ミガキ。
		4	65	4	瓦器	埴	(13.0)	[2.0]	—	和泉型。 内外面：ナデ。
		5	65	3	瓦器	埴	(14.2)	[2.8]	—	和泉型。 外面：ナデ。ユビオサエ。 内面：ナデ。
		6	65	4	瓦器	埴	(15.3)	[3.4]	—	和泉型。 外面：ナデ。ユビオサエ。 内面：ナデ。ミガキ。
		7	80	6	瓦器	埴	—	[1.5]	(4.8)	和泉型。 底部：輪高台。 内外面：ナデ。
		8	89	7	瓦質土器	釜	—	[5.2]	—	外面：ナデ。ユビオサエ。 内面：ナデ。
		9	12	4	瓦質土器	釜	—	[1.2]	—	内外面：ナデ。
		10	11	遺構	瓦質土器	火鉢	—	[4.2]	—	内外面：ナデ。
		11	65	4	磁器	碗	(14.5)	[4.0]	—	青磁。龍泉堂。 内面：劃花文。

(●●): 復元値 [●●]: 残存値

遺跡名	図	遺物番号	調査区(tr)	層・遺構名	種類	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	器高	底径	
宮之内遺跡	3-36	12	21	5	磁器	碗	—	[1.4]	—	青磁。龍泉窯。
		13	12	4	磁器	皿	—	[1.4]	—	白磁。
		14	93	遺構	須恵器	埴鉢	(24.0)	[2.2]	—	東播系須恵器。 内外面: ナデ。
		15	85	6	陶器	甕	—	[5.9]	—	備前焼。
		16	15	3	陶器	甕	—	[6.0]	—	備前焼水屋甕。輪状の取耳。
		写真図版 32	101	5	土師器	埴	—	[1.8]	—	畿内系土師器。 内面: 珞文 (1段)。
		写真図版 33	85	7	鉄製品	小札	長 [6.8]	幅 2.5	—	伊予札。小札頭: 墓石または欠害頭。 2列 14 孔が残る。
紫雲院遺跡	3-48	1	8	3	土師器	坏	—	[1.0]	(6.2)	
		2	9	3	弥生土器	壺	—	[4.0]	(5.8)	
		3	27	5	石製品	石斧	長 [9.2]	幅 [4.4]	—	
		4	24	溝	金属製品	銭貨	径 2.48	厚 0.12	重 3.4g	元豊通貨。
櫛引遺跡	3-49	1	13	4	弥生土器	壺	—	[2.2]	—	
		2	5	1	弥生土器	壺	—	[3.3]	(4.2)	
		3	23	5	土師器	甕	(21.0)	[1.5]	—	
		4	4	3	瓦器	埴	—	[1.1]	—	和泉型。
		5	29	3	不明		(7.4)	[1.9]	—	
		6	28	3	石製品	石皿	長 [12.3]	幅 [5.05]	—	
榎井遺跡	3-50	1	18	4	縄文土器	深鉢	—	[4.5]	—	
		2	18	5	縄文土器	深鉢	—	[1.9]	(5.4)	
		3	36	4	弥生土器	壺	—	[4.2]	—	複合口縁。
		4	7	3	須恵器	坏身	(11.0)	[3.95]	—	
		5	1	3	土師器	坏	11.2	3.0	丸底	畿内系土師器。
		6	7	3	土師器	甕	—	[2.45]	—	
		7	29	4	陶器	播鉢	—	[4.45]	—	備前焼。

(**) : 復元値 [**] : 残存値

遺跡名	図	遺物番号	調査区 (tr)	層・ 遺構名	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考
							口径	器高	底径	
富岡遺跡	3-47	1	4	4	土師器	坏	(13.2)	3.05	8.2	
		2	3	5	土師器	坏	—	(2.1)	8.2	
		3	13	5	土師器	釜	—	(3.7)		
		4	13	5	土師器	釜	—	(3.0)	—	
		5	5	2	土師器	釜	—	(1.1)	—	
		6	3	4	土師器	釜	—	(4.25)	—	
		7	5	2	土師器	釜	—	(5.7)	—	
		8	5	2	土師器	播鉢	—	(4.5)	—	
		9	13	5	土師器	播鉢	—	(4.0)	—	
		10	10	3	土師器	釜	—	(19.9)	—	
		11	4	3	磁器	碗	—	(2.1)	—	青磁。
		12	5	4	磁器	瓶・壺	—	(2.1)	—	白磁。
		13	5	2	陶器	甕	—	(5.3)	—	備前焼。
		14	7	4	陶器	播鉢	—	(4.85)	—	備前焼。
幸の木遺跡	3-48	1	87	5	土師器	坏	—	(3.1)	—	
		2	75	6	土師器	坏	—	(1.2)	(6.0)	
		3	75	6	土師器	坏	—	(0.9)	(6.2)	
		4	87	5	土師器	坏	—	(0.7)	(7.8)	
		5	89	5	土師器	甕	(27.2)	(6.4)	—	
		6	62	4	須恵器	坏	(12.2)	(3.65)	—	
		7	62	4	須恵器	坏	(12.8)	(1.65)	—	
		8	89	5	須恵器	坏	(15.2)	(3.8)	—	
		9	89	5	須恵器	坏	—	(3.1)	—	
		10	89	5	須恵器	皿	—	(1.55)	(14.2)	
		11	71	3	黒色土器	埴	—	(1.4)	—	内面黒色 (A類)。
		12	98	6	黒色土器	埴	—	(2.7)	(7.9)	内面黒色 (A類)。

第4章 総括

国営緊急農地再編整備事業に伴い、平成26～30年度にかけて5団地で試掘調査を実施した結果、田野上東団地を除く4団地で遺跡の広がりを確認した。その広がりは包蔵地範囲外にも及び、各包蔵地で遺跡範囲を見直すこととなった。

安用団地では、弥生時代中期～後期、古代、中世と幅広い時期の遺跡が包蔵地範囲のほぼ全域で広がることが明らかとなり、丘陵裾部に広がる北竹ノ下Ⅰ遺跡・北竹ノ下Ⅱ遺跡は、一連の遺跡として評価できる。当団地周辺では、北西の丘陵上に弥生時代中期後半～後期の遺構と遺物が確認された北谷山遺跡等が存在する。このような状況から弥生時代中期～後期の時期では、丘陵先端から裾部にかけて遺跡が展開していたことが窺える。一方古代及び中世では、周辺で発掘調査の事例がなく不明な点が残るものの、当時期における遺跡の広がりを確認できたことは大きな成果と言える。

宮之内団地では、縄文時代後期や古代～中世と幅広い時期の遺跡がほぼ場整備範囲のほぼ全域に広がることが明らかとなった。トレンチ数104か所に対し遺構数は133基と多いため、遺構の分布密度はかなり高いと考えられる。当団地北側では、県埋文センターによって福成寺遺跡や長網Ⅰ・Ⅱ遺跡等で発掘調査が実施されており、縄文時代後期の土坑、古代では大溝や多量の瓦等が確認された。これらは、今回試掘調査で確認した遺跡の時期と重なることから、当団地を含めた一帯では遺跡が広域に展開することが想定される。

明理川団地では、周辺も含めこれまで調査がほとんど行われておらず、遺跡の広がりは表探遺物の有無から想定されていたに過ぎなかった。しかし、今回試掘調査を各遺跡で行った結果、紫宸殿遺跡や櫛引遺跡は中世、桜井遺跡では古代の遺跡の広がりを確認した。また、各トレンチで河川堆積土が確認され、随所で湧水がみられた。時期は不明ながらも漆器が土中に残るほど、当時から水に富んだ土地であったことが想定できる。よって、これまで空白部分が多かった当地域の遺跡の広がりや性格について、その様相の一端を明らかにすることができた。

周布団地では、富岡遺跡は中世、幸の木遺跡は古代～中世の遺跡が広がることが明らかとなった。本郷川以南の富岡遺跡周辺では、これまで大規模な調査が行われていなかったため、今回の調査で初めて遺跡の時期や広がりを確認した。

一方の幸の木遺跡周辺では、県埋文センターによって同遺跡、久枝遺跡、久枝Ⅱ遺跡の発掘調査が行われている。その結果、古代では方位が揃う掘立柱建物群、石帯や円面硯等特定階層の所有が想定される遺物、中世では溝によって区画された掘立柱建物群等が確認されている。これらは、今回試掘調査で確認した遺跡の時期と重なることから、一連の遺跡群を形成していると考えられる。なお、遺跡群の南側に広がる幸の木遺跡は、今回の調査で遺跡範囲が南方向に約250mも広がり、遺跡群もより広域に展開する可能性が高い。さらに南側については、中山川の氾濫等に起因する河川堆積土を確認したことから、遺跡は広がらないと想定される。

以上、平成26年度から実施した試掘調査結果を概観した。今回得られた成果は断片的なものであるため、直ちに遺跡の評価に結び付けることは慎重にならざるを得ないが、中山川左岸地域の歴史を解明する上で重要かつ有用性が高いものである。各遺跡については、今後更なる資料を

蓄積しつつ、より実体に即した歴史的評価を与えていきたい。(鈴木)

《参考文献》

今井信太郎編 1983『実報寺黒岩山遺跡・広岡北谷山遺跡調査報告書』東予市教育委員会

柴田昌児ほか 2002『幸の木遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第 102 集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

柴田昌児ほか 2005『久枝遺跡・久枝Ⅱ遺跡・本郷Ⅰ遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第 122 集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

中野良一ほか 2005『長網Ⅰ遺跡・長網Ⅱ遺跡・実報寺高志田遺跡・福成寺遺跡・旦之上遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第 118 集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

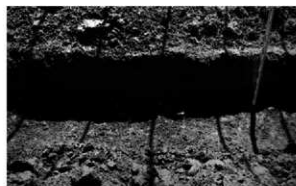
西川真美ほか 2004『久枝Ⅱ遺跡 2 次・本郷Ⅰ遺跡 2 次』埋蔵文化財発掘調査報告書第 116 集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

写 真 图 版

写真図版 1 道満寺伽藍跡



1 1 tr 西壁



2 2 tr 北壁



3 3 tr 南壁



4 4 tr 南壁



5 5 tr 南壁



6 6 tr 北壁



7 7 tr 北壁



8 8 tr 北壁

写真図版 2 道満寺伽藍跡



1 9tr 北壁



2 10tr 西壁



3 11tr 西壁

写真図版3 北竹ノ下I遺跡



1 26-1tr 東壁



2 26-2tr 東壁



3 26-6tr 北壁



4 26-7tr 北壁



5 26-8tr 北壁



6 26-12tr 北壁



7 26-13tr 南壁



8 26-17tr 北壁

写真図版 4 北竹ノ下 I 遺跡



1 26-18tr 南壁



2 27-1tr 東壁



3 26-20tr 南壁



4 26-21tr 西壁



5 26-22tr 東壁



6 26-25tr 北壁



7 26-27tr 北壁



8 26-31tr 北壁

写真図版 5 北竹ノ下 I 遺跡



1 26-26tr 西壁



2 26-28tr 南壁



3 26-29tr 南壁



4 26-73tr 西壁



5 26-74tr 南壁



6 27-2tr 南壁



7 27-3tr 南壁



8 27-4tr 南壁

写真図版6 北竹ノ下I遺跡



1 27-8tr 北壁



2 27-10tr 北壁



3 26-40tr 南壁



4 26-41tr 南壁



5 26-42tr 東壁



6 26-43tr 北壁



7 27-11tr 北壁

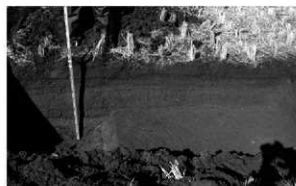


8 26-54tr 北壁

写真図版7 北竹ノ下Ⅰ遺跡(1~4) 北竹ノ下Ⅱ遺跡(5~8)



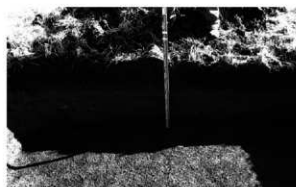
1 26-55tr 南壁



2 26-59tr 北壁



3 26-61tr 東壁



4 26-62tr 南壁



5 26-76tr 南壁



6 26-78tr 南壁



7 26-79tr 東壁



8 26-83tr 北壁

写真図版 8 北竹ノ下Ⅱ遺跡



1 26-84tr 西壁



2 26-85tr 西壁



3 26-86tr 西壁



4 26-87tr 西壁



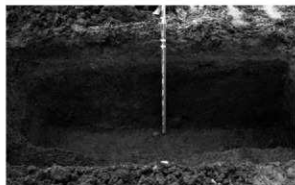
5 26-88tr 西壁



6 26-91tr 北壁



7 26-93tr 東壁



8 26-95tr 西壁

写真図版9 北竹ノ下Ⅱ遺跡（1～3） 北竹ノ下Ⅰ遺跡（4～8）



1 26-96tr 西壁



2 26-97tr 南壁



3 26-99tr 西壁



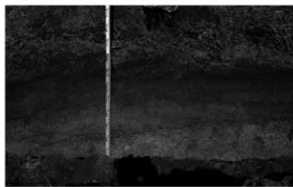
4 26-4tr 東壁



5 26-5tr 北壁



6 26-9tr 西壁



7 26-10tr 北壁



8 26-11tr 南壁

写真図版 10 北竹ノ下 I 遺跡



1 26-14tr 西壁



2 26-15tr 西壁



3 26-16tr 西壁



4 26-19tr 南壁



5 26-23tr 北壁



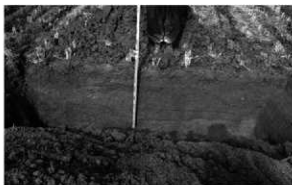
6 26-30tr 北壁



7 26-32tr 西壁



8 26-33tr 北壁



1 26-34tr 北壁



2 26-35tr 東壁



3 26-36tr 西壁



4 26-46tr 南壁



5 26-37tr 東壁



6 26-44tr 南壁



7 26-45tr 南壁



8 26-48tr 南壁

写真図版 12 北竹ノ下 I 遺跡



1 26-50tr 西壁



2 26-52tr 東壁



3 26-53tr 南壁



4 26-57tr 南壁



5 26-58tr 北壁



6 26-60tr 北壁

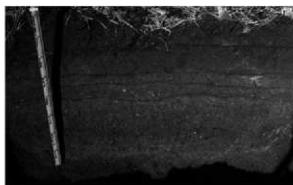


7 26-63tr 西壁



8 26-64tr 東壁

写真図版 13 北竹ノ下Ⅰ遺跡（1～6） 北竹ノ下Ⅱ遺跡（7・8）



1 26-66tr 北壁



2 26-67tr 北壁



3 26-68tr 南壁



4 26-69tr 西壁



5 26-70tr 北壁



6 26-71tr 北壁



7 26-89tr 東壁



8 26-92tr 西壁

写真図版 14 北竹ノ下Ⅱ遺跡 (1~3) 北竹ノ下Ⅰ遺跡 (4~6)



1 26-94tr 西壁



2 26-100tr 西壁



3 27-5tr 東壁



4 27-6tr 東壁

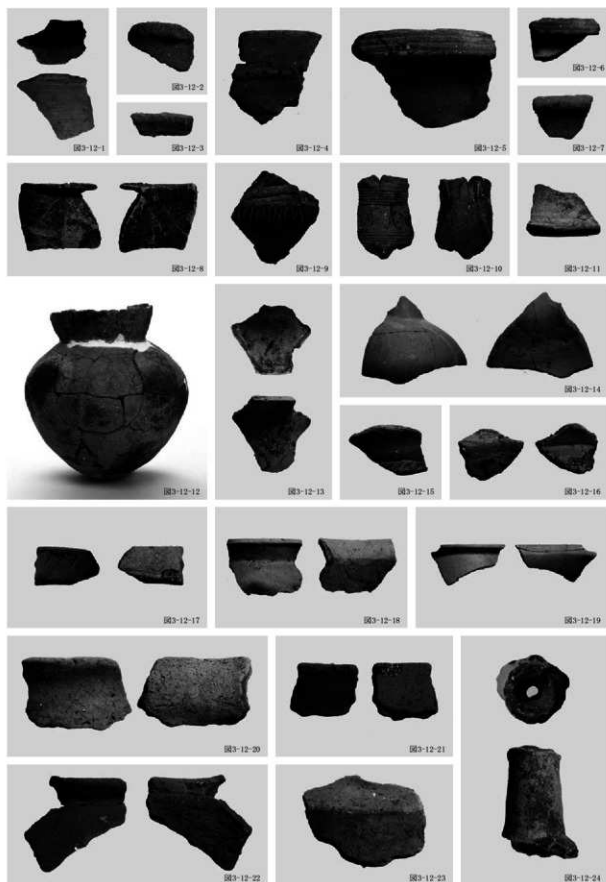


5 27-9tr 東壁



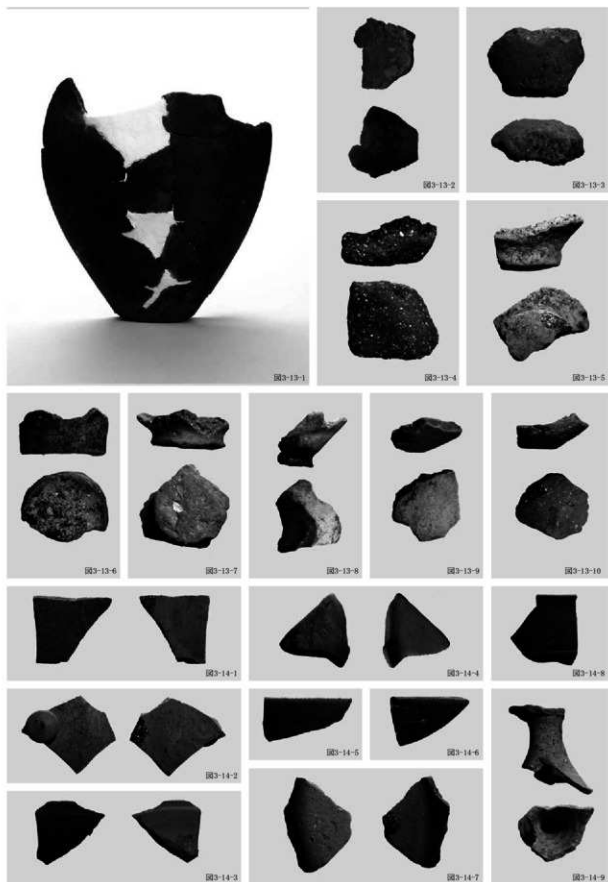
6 27-12tr 北壁

写真図版 15 北竹ノ下 I・II 遺跡



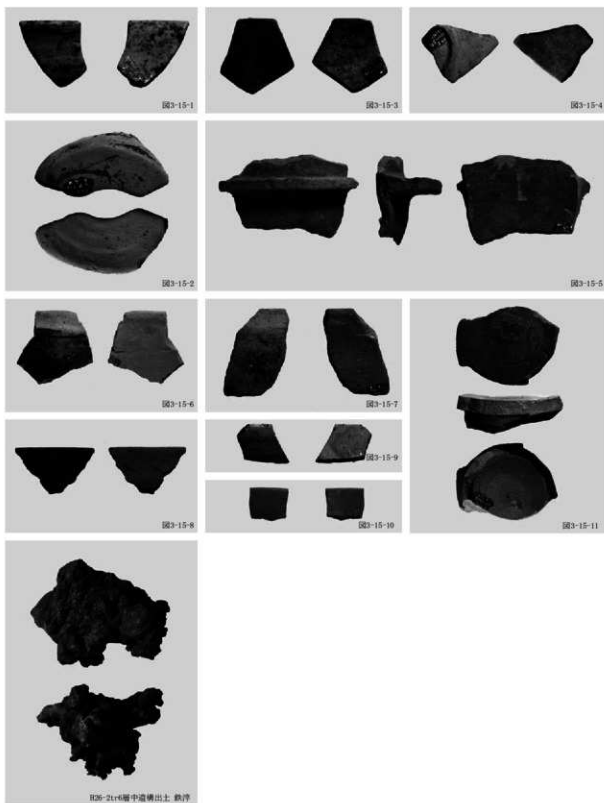
安用団地

北竹ノ下 I・II 遺跡出土遺物 1



北竹ノ下 I・II 遺跡出土遺物 2

写真図版 17 北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡



北竹ノ下Ⅰ・Ⅱ遺跡出土遺物3

写真図版 18 福成寺横道下遺跡 (1・2) 宮之内遺跡 (3~8)



1 19tr 北壁



2 20tr 北壁



3 21tr 北壁



4 22tr 東壁



5 23tr 北壁



6 24tr 北壁



7 25tr 北壁



8 26tr 北壁



1 27tr 北壁



2 28tr 北壁



3 29tr 北壁



4 30tr 北壁



5 31tr 北壁



6 32tr 北壁



7 33tr 北壁



8 34tr 北壁



1 42tr 北壁



2 43tr 北壁



3 44tr 北壁



4 45tr 北壁



5 46tr 北壁



6 47tr 北壁



7 48tr 北壁



8 49tr 北壁



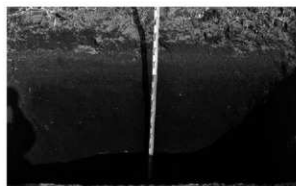
1 50tr 北壁



2 51tr 北壁



3 52tr 北壁



4 53tr 北壁



5 54tr 北壁



6 55tr 北壁

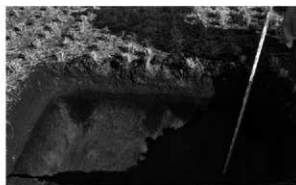


7 93tr 北壁



8 95tr 北壁

写真図版 22 宮之内遺跡



1 35tr 北壁



2 36tr 北壁



3 37tr 北壁



4 38tr 北壁



5 39tr 北壁



6 40tr 北壁



7 41tr 北壁



8 96tr 北壁



1 97tr 南壁



2 98tr 北壁



3 1tr 北壁



4 2tr 北壁



5 3tr 北壁



6 4tr 北壁



7 5tr 北壁



8 6tr 北壁

写真図版 24 宮之内遺跡



1 7tr 北壁



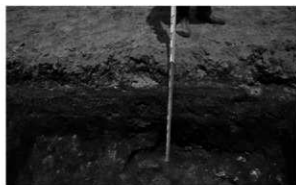
2 8tr 北壁



3 8tr 6層遺構検出状況（南から）



4 9tr 北壁



5 10tr 北壁



6 11tr 西壁



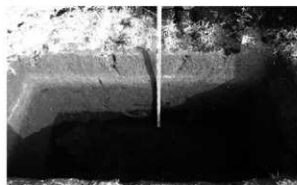
7 11tr 5層遺構検出状況（北から）



8 12tr 南壁



1 13tr 南壁



2 14tr 北壁



3 15tr 北壁



4 16tr 南壁



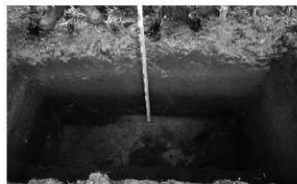
5 17tr 北壁



6 18tr 北壁



7 56tr 北壁



8 57tr 北壁

写真図版 26 宮之内遺跡



1 58tr 北壁



2 59tr 北壁



3 60tr 北壁



4 61tr 北壁



5 62tr 北壁



6 86tr 南壁



7 90tr 南壁



8 99tr 南壁



1 100tr 南壁



2 101tr 南壁



3 102tr 南壁



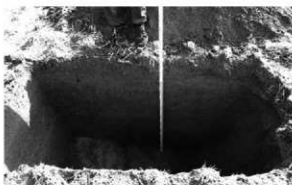
4 103tr 東壁



5 104tr 南壁



6 63tr 西壁



7 64tr 東壁



8 65tr 西壁



1 66tr 東壁



2 67tr 東壁



3 68tr 北壁



4 69tr 東壁



5 70tr 西壁



6 71tr 西壁



7 72tr 西壁



8 72tr 5層遺構検出状況(南から)



1 72tr 遺構掘削状況 (南西から)



2 73tr 西壁



3 74tr 南壁



4 75tr 北壁



5 76tr 北壁



6 77tr 西壁



7 78tr 南壁



8 79tr 北壁



1 80tr 南壁



2 81tr 南壁



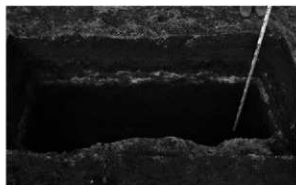
3 82tr 南壁



4 83tr 北壁



5 84tr 南壁



6 85tr 北壁



7 87tr 北壁



8 88tr 南壁

写真図版 31 宮之内遺跡



1 89tr 北壁



2 91tr 北壁



3 92tr 北壁



4 94tr 東壁



図3-34-1



図3-34-2

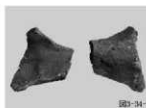


図3-34-3



図3-34-7



図3-34-4

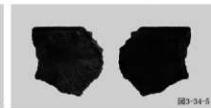


図3-34-5



図3-34-6

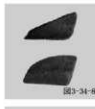


図3-34-8



図3-34-9



図3-34-10



図3-34-11



図3-34-15

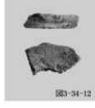


図3-34-12



図3-34-13

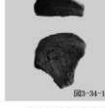


図3-34-14

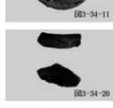


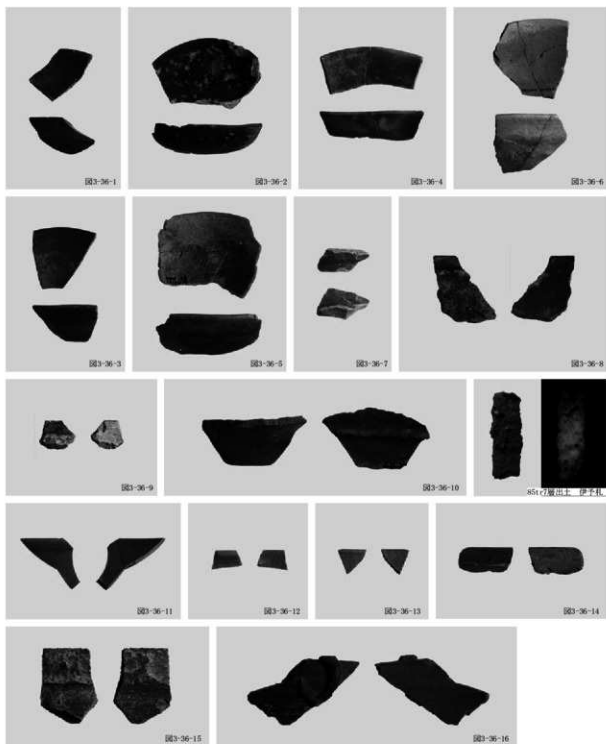
図3-34-20

宮之内遺跡出土遺物 1

写真図版 32 宮之内遺跡



宮之内遺跡出土遺物 2



宮之内遺跡出土遺物 3

写真図版 34 紫宸殿遺跡



1 2tr 東壁



2 3tr 東壁



3 4tr 東壁



4 5tr 東壁



5 6tr 東壁



6 7tr 北壁



7 7tr 4層遺構検出状況(南から)



8 8tr 西壁



1 9tr 西壁



2 11tr 北壁



3 12tr 北壁



4 13tr 北壁



5 14tr 南壁



6 15tr 北壁



7 16tr 北壁



8 17tr 北壁

写真図版 36 紫宸殿遺跡



1 18tr 北壁



2 19tr 北壁



3 20tr 北壁



4 21tr 北壁



5 22tr 東壁



6 23tr 東壁



7 24tr 東壁



8 26tr 東壁

写真図版 37 紫宸殿遺跡



1 27tr 北壁



2 28tr 西壁



3 29tr 西壁



4 30tr 東壁



図3-48-2



図3-48-4



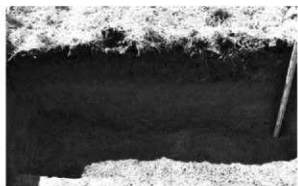
図3-48-1



図3-48-3

紫宸殿遺跡出土遺物

写真図版 38 櫛引遺跡



1 1tr 西壁



2 2tr 西壁



3 3tr 西壁



4 4tr 西壁



5 5tr 西壁



6 6tr 西壁



7 7tr 西壁



8 7tr 4層遺構検出状況(東から)



1 8tr 西壁



2 9tr 西壁



3 11tr 西壁



4 12tr 西壁



5 13tr 西壁



6 14tr 西壁



7 15tr 西壁



8 16tr 西壁

写真図版 40 櫛引遺跡



1 17tr 東壁



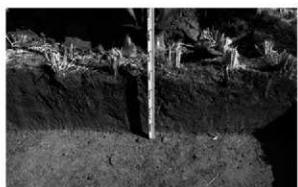
2 18tr 西壁



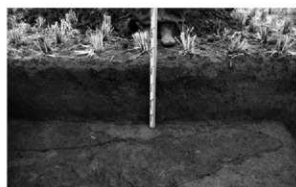
3 19tr 西壁



4 20tr 東壁



5 21tr 東壁



6 22tr 東壁



7 23tr 西壁



8 24tr 東壁



1 25tr 東壁



2 26tr 東壁



3 27tr 西壁



4 28tr 東壁



5 29tr 東壁



6 31tr 東壁



7 32tr 東壁



8 33tr 東壁

写真図版 42 櫛引遺跡



1 34tr 東壁



2 35tr 南壁



図3-49-1



図3-49-2



図3-49-3



図3-49-5



図3-49-4



2tr4層出土 漆器

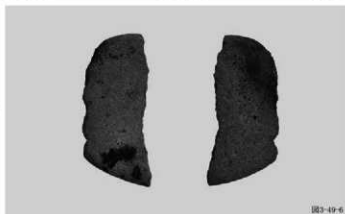


図3-49-6

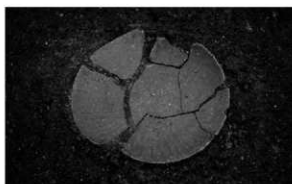
櫛引遺跡出土遺物



1 1 tr 東壁



2 1 tr 3 層遺物出土状況 (北から)



3 1 tr 3 層遺物出土状況 (東から)



4 2 tr 東壁



5 2 tr 4 層遺構検出状況 (北から)



6 3 tr 東壁



7 4 tr 北壁



8 5 tr 北壁

写真図版 44 桜井遺跡



1 6tr 北壁



2 7tr 北壁



3 8tr 東壁



4 9tr 北壁



5 10tr 北壁



6 11tr 北壁



7 12tr 北壁



8 13tr 北壁



1 14tr 北壁



2 15tr 北壁



3 16tr 北壁



4 17tr 北壁



5 18tr 北壁



6 19tr 東壁



7 20tr 東壁



8 21tr 東壁

写真図版 46 桜井遺跡



1 22tr 北壁



2 23tr 北壁



3 24tr 東壁



4 25tr 東壁



5 26tr 南壁



6 27tr 南壁



7 28tr 南壁



8 29tr 北壁



1 30tr 北壁



2 31tr 北壁



3 32tr 南壁



4 33tr 西壁



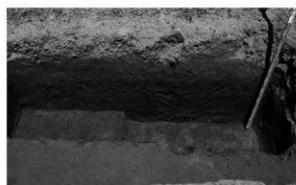
5 34tr 西壁



6 35tr 東壁



7 36tr 南壁



8 37tr 北壁

写真図版 48 桜井遺跡



図3-50-1



図3-50-2



図3-50-3



図3-50-5



図3-50-4



図3-50-6



図3-50-5

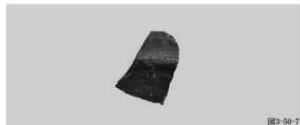
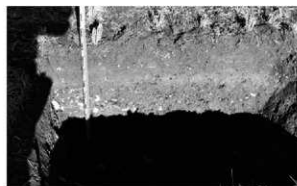


図3-50-7

桜井遺跡出土遺物



1 1 tr 東壁



2 2 tr 北壁



3 3 tr 北壁



4 4 tr 東壁



5 5 tr 東壁



6 7 tr 西壁



7 8 tr 西壁



8 9 tr 西壁



1 10tr 東壁



2 11tr 北壁



3 12tr 北壁



4 13tr 西壁



5 14tr 北壁



6 118tr 東壁



7 119tr 東壁



8 120tr 東壁



1 121tr 南壁



2 122tr 南壁



3 123tr 東壁



4 124tr 南壁



5 128tr 西壁



6 129tr 北壁



7 130tr 北壁



8 131tr 東壁

写真図版 52 富岡遺跡



1 132tr 北壁



2 133tr 北壁

周布団地

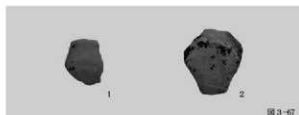


図 3-67

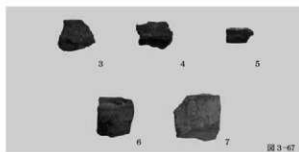


図 3-67



図 3-67



図 3-67



図 3-67



図 3-67

富岡遺跡出土遺物



1 15tr 北壁



2 16tr 東壁



3 17tr 東壁



4 18tr 東壁



5 19tr 東壁



6 20tr 東壁



7 21tr 東壁



8 22tr 東壁

写真図版 54 幸の木遺跡



1 23tr 東壁



2 24tr 東壁



3 25tr 東壁



4 26tr 東壁



5 27tr 南壁



6 28tr 北壁



7 29tr 東壁



8 30tr 東壁



1 31tr 東壁



2 32tr 南壁



3 33tr 北壁



4 34tr 南壁



5 36tr 南壁



6 37tr 東壁



7 38tr 東壁



8 39tr 南壁

写真図版 56 幸の木遺跡



1 40tr 南壁



2 41tr 東壁



3 42tr 南壁



4 43tr 南壁



5 44tr 東壁



6 45tr 西壁



7 46tr 東壁



8 47tr 東壁

写真図版 57 幸の木遺跡



1 48tr 東壁



2 49tr 南壁



3 50tr 西壁



4 51tr 南壁



5 52tr 南壁



6 53tr 南壁



7 54tr 南壁



8 55tr 南壁

写真図版 58 幸の木遺跡



1 56tr 東壁



2 57tr 東壁



3 58tr 東壁



4 59tr 東壁



5 60tr 北壁



6 61tr 東壁



7 62tr 南壁



8 63tr 東壁



1 64tr 東壁



2 65tr 東壁



3 66tr 東壁



4 67tr 南壁



5 68tr 南壁



6 69tr 東壁



7 70tr 東壁



8 71tr 東壁



1 72tr 東壁



2 73tr 東壁



3 74tr 東壁



4 75tr 東壁



5 76tr 南壁



6 77tr 東壁



7 78tr 西壁



8 79tr 東壁



1 80tr 東壁



2 81tr 東壁



3 82tr 東壁



4 83tr 東壁



5 84tr 西壁



6 85tr 西壁



7 86tr 東壁



8 87tr 東壁

写真図版 62 幸の木遺跡



1 88tr 東壁



2 89tr 東壁



3 90tr 南壁



4 91tr 南壁



5 92tr 北壁



6 93tr 南壁



7 94tr 北壁



8 95tr 東壁



1 96tr 東壁



2 97tr 北壁



3 98tr 南壁



4 99tr 南壁



5 100tr 南壁



6 101tr 南壁



7 102tr 南壁



8 103tr 北壁

写真図版 64 幸の木遺跡



1 104tr 東壁



2 105tr 東壁



3 106tr 南壁



4 107tr 西壁



5 108tr 東壁



6 109tr 西壁



7 110tr 東壁



8 111tr 東壁



1 112tr 東壁



2 113tr 南壁



3 114tr 東壁



4 115tr 東壁



5 116tr 南壁



6 117tr 南壁



7 134tr 南壁



8 135tr 北壁

写真図版 66 幸の木遺跡



1 136tr 南壁



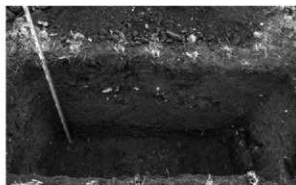
2 138tr 南壁



3 140tr 西壁



4 141tr 南壁



5 142tr 南壁



6 143tr 南壁

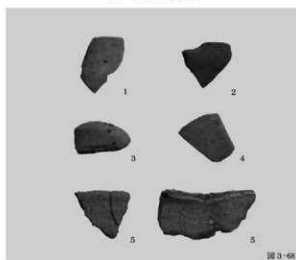


図 3-68

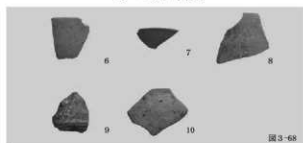


図 3-68

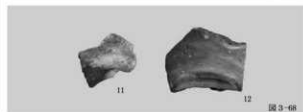


図 3-68

幸の木遺跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しないいせきしつちょうさほうこくしょ								
書名	市内遺跡試験調査報告書								
副書名	国営緊急農地再編整備事業に伴う試験調査報告書Ⅰ								
シリーズ名	西条市埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ番号	第5集								
編著者名	鈴木 圭 (編)・岡島 俊也・渡邊 芳貴								
編集機関	西条市教育委員会								
所在地	〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷 164 番地 TEL (0897) 56-5151 (代)								
発行年月日	2020年3月31日								
調査団名	所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村番号	遺跡番号					
田野上方面	道満寺御蔵跡	愛媛県西条市 田野上方面	38206		33° 53' 46"	133° 04' 03"	20140507 ～ 20140929	51 m ²	試験・確認調査
安用	北竹ノ下Ⅰ遺跡 北竹ノ下Ⅱ遺跡	愛媛県西条市 安用・石延・広岡	38206		33° 55' 37"	133° 02' 36"	20141104 ～ 20141203 20150527 20151104	189 m ²	試験・確認調査
宮之内	宮之内遺跡	愛媛県西条市 宮之内	38206		33° 56' 57"	133° 03' 10"	20150728 ～ 20151127	208 m ²	試験・確認調査
	協成寺横道下遺跡	愛媛県西条市 宮之内・協成寺	38206		33° 57' 01"	133° 03' 01"	20161017 ～ 20161021		
明理川	紫宮院遺跡	愛媛県西条市 明理川	38206		33° 55' 49"	133° 04' 13"	20151008 ～ 20151124 20161114 ～ 20170215 20170522	191.5	試験・確認調査
	柳引遺跡	愛媛県西条市 明理川	38206		33° 55' 39"	133° 04' 09"			
	坂井遺跡	愛媛県西条市 明理川、安用出作、 新町、岩能出作	38206		33° 55' 39"	133° 03' 51"			
岡市	富岡遺跡	愛媛県西条市 岡市	38206		33° 54' 50"	133° 05' 03"	20160620 ～ 20170214 20170914 ～ 20180116	270.4	試験・確認調査
	幸の水遺跡	愛媛県西条市 岡市・吉田	38206		33° 54' 25"	133° 04' 31"	20180726		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
道満寺伽藍跡	社寺跡	なし	なし	なし	調査範囲内に遺跡の広がりには確認されなかった。
北竹ノ下1遺跡・ 北竹ノ下2遺跡	散布地、 集落	弥生、古代、中世	ビット、土板	弥生土器、須恵器、土師器、 磁器、銭貨、鉄滓	
宮之内遺跡	散布地	縄文、弥生、古墳、 古代、中世	ビット、溝	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、瓦器、 陶器、磁器、瓦、鉄製品	「百」と刻まれた須恵器が出土した。
福成寺横道下遺跡	散布地	なし	なし	なし	調査範囲内に遺跡の広がりには確認されなかった。
紫雲院遺跡	散布地	弥生、中世	溝	弥生土器、土師器、瓦、 銭貨	
藤引遺跡	散布地	弥生、中世	ビット、溝、 落ち込み状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、 瓦器、漆器	
板井遺跡	散布地	弥生、古代、中世	ビット、溝、 落ち込み状遺構	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器	
富岡遺跡	散布地	古代、中世	ビット、溝	土師器、須恵器、陶器、 磁器	遺跡周辺では地表面路である 埴砂を確認した。
幸の木遺跡	散布地、 集落	古代、中世	ビット、溝	土師器、須恵器、陶器、 磁器	遺跡周辺では地表面路である 埴砂を確認した。
要 約	今回の試掘調査は国営緊急農地再編整備事業に伴うもので、平成26年度～平成30年度までの調査成果を所収している。試掘調査は5団地で実施し、田野上東方団地を除く4団地で遺跡の広がり確認された。安用団地では北竹ノ下1遺跡・北竹ノ下2遺跡、宮之内団地では宮之内遺跡・福成寺横道下遺跡、明理川団地では紫雲院遺跡・藤引遺跡・板井遺跡、周布団地では富岡遺跡・幸の木遺跡で調査を実施した結果、遺跡ごとに有続時期は異なるが主に縄文時代から中世の時期幅のなかで収まる遺構や遺物等を確認した。				

西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集

市内遺跡試掘調査報告書

国営緊急農地再編整備事業に伴う試掘調査報告書Ⅰ

2020年（令和2年）3月

編集・発行 西条市教育委員会
愛媛県西条市明屋敷164番地

印刷 株式会社 野口印刷所

この電子書籍は、西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集を底本として作成しました。
本データは、閲覧を目的としています。詳細な図版などが必要な場合には、底本から引用してください。

底本は、西条市内の図書館、愛媛県内の市町教育委員会、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：市内遺跡試掘調査報告書

発行：西条市教育委員会

〒793-8601

愛媛県西条市明屋敷 164 番地

電話：0897-56-5151

電子書籍制作日：2024 年 8 月 9 日